

法 学 部

履 修 要 項

平 成 3 年 度

駒澤大學

学 年 曆

前 期

- 4月8日(月) 入学式
- 9日(火) } 新入生オリエンテーション
- 11日(木) }
- 9日(火) } 在校生身分証明登録
- 19日(金) }
- 9日(火) } 在校生成績発表
- 10日(水) }
- 9日(火) } 体育実技II受講届(種目選択届)
- 10日(水) } 受付(学部2年次生)
- 11日(木) } 時事外国語受講届受付
(経済学部3年次生)
- 11日(木) } 在校生成績質疑応答
- 18日(木) }
- 12日(金) 前期授業開始
- 19日(金) } 履修届受付(学部・短大)
(学部により受付日が異なる)
- 24日(水) }
- 22日(月) } 春季健康診断(卒業年次生対象)
- 26日(金) }
- 5月27日(月) } 卒業論文論題受付(仏教・文学部の
4年次生)(締切日は正午まで)
- 6月10日(月) }
- 7月13日(土) } 中間試験(授業平常どおり)
- 19日(金) }
- 19日(金) 前期授業最終日
- 20日(土) 前期終了科目定期試験
- 21日(日) 夏季休業第1日(9月15日まで)
- 21日(日) } 体育実技II集中授業コース
(学部2年次生)
- 25日(木) }
- 25日(木) 前期終了科目定期試験欠試届(追試
験申込)受付締切

後 期

- 9月9日(月) } 補講期間
- 13日(金) }
- 17日(火) 後期授業開始
- 18日(水) } 前期終了科目定期試験成績発表(質
疑応答)および再試験申込受付
- 19日(木) }
- 24日(火) } 外国語指定届受付(仏教・文<除英米
文>・法学部・短大国文・英文の1年次
生および昭和63年度以前入学の経済
学部の2年次生)
- 30日(月) }

- 25日(水) } 前期終了科目追・再試験
(授業平常どおり)
- 10月1日(火) }
- 1日(火) }
- 4日(金) } 秋季健康診断(卒業年次生以外対象)
- 3日(木) } 専攻コース指定届受付
- 4日(金) } (歴史・社会学科の1年次生)
- 15日(火) } 第109回開校記念日(全学休業)
- 29日(火) }
- 31日(木) } 転部・転科試験願書受付
- 11月18日(月) }
- 22日(金) } 編・再入学願書受付
- 22日(金) } 転部・転科試験
- 12月2日(月) } 卒業論文受付(仏教・文学部の4年
次生)(締切日は正午まで)
- 10日(火) }
- 20日(金) } 冬季休業第1日(1月7日まで)
- 20日(金) } 体育実技II集中授業コース
(学部2年次生)
- 24日(火) }
- 21日(土) } 編・再入学試験

平成4年

- 1月8日(水) 後期授業再開
- 14日(火) 後期授業最終日
- 16日(木) }
- 25日(土) } 定期試験(専門・基礎・教職科目)
- 27日(月) }
- 2月3日(月) } 定期試験(一般・外国語・保健体育
科目)
- 5日(水) } 卒業論文口頭試問(仏教・文学部の
4年次生)
- 5日(水) } 定期試験欠試届受付締切(学部4年
次生・短大生)
- 5日(水) } 定期試験欠試届(追試験申込)受付締
切(学部1~3年次生)
- 17日(月) }
- 21日(金) } 体育実技IIシーズン・コース(スキ
ー)(学部2年次生)
- 18日(火) } 成績発表(質疑応答)および追・再試
験申込受付(学部4年次生・短大生)
- 19日(水) }
- 24日(月) } 追・再試験(学部4年次生・短大生)
および追試験(学部1~3年次生)
- 29日(土) }
- 3月19日(木) 卒業生名簿発表
- 25日(水) 卒業式

目 次

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制 (1)
2. 授業科目の単位数 (1)
3. 授業科目の区分 (1)

II 卒業に必要な単位数と学士号

1. 卒業に必要な単位数 (2)
2. 学 士 号 (2)

III 授業科目の履修方法

1. 一般教育科目の履修方法 (3)
2. 外国語科目の履修方法 (5)
3. 保健体育科目の履修方法 (7)
4. 基礎教育科目の履修方法 (8)
5. 専門教育科目の履修方法 (8)
6. 他学部科目の履修方法 (13)
7. 随意科目の履修方法 (15)
8. 再履修科目の履修方法 (15)
 - ※ 「日本語」・「日本事情」科目の履修方法 (15)
 - ※ 授業科目のコード番号について (16)

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録 (17)
2. 履修届記入上の注意 (18)
3. 履修届（時間割）の作成順序 (19)

V 試験および成績評価

1. 定期試験 (20)
2. 中間試験 (20)
3. 追・再試験 (20)
4. 受験心得 (21)
5. 成績評価・単位認定 (21)
6. 試験時間 (21)

VI	進級について	(22)
VII	教職課程・資格講座	(23)
VIII	事務取扱いについて	
	1. 成績発表・成績証明書	(24)
	2. 授業時間	(24)
	3. 事務室の事務受付時間	(24)
	4. 休講	(24)
	5. 掲示	(24)
	6. 問い合わせ	(24)
IX	学籍について	
	1. 修業年限と在学年数	(25)
	2. 休学	(25)
	3. 復学	(25)
	4. 退学	(26)
	5. 除籍	(26)
	6. 懲戒	(26)
	7. 編入学(学士入学)	(26)
	8. 再入学	(26)
	9. 転部・転科	(26)
	10. 留学	(27)
	11. 学生氏名・保証人	(27)
	12. 学生番号	(27)
X	既修得単位の認定について	(28)
XI	届書・願書について	(29)
XII	各種証明書取扱い窓口	(30)
	試験実施規程(抜粋)	(31)
	講義内容	(33)
	付録	
	研究所案内	(付1)
	国家試験について	(付2)

I 単位制と学年制

1. 単位制と学年制

大学では単位制が採用されている。単位制とは、授業科目を履修して試験に合格することにより、各授業科目ごとに定められている単位を修得する制度である。また、学年制とは、単位制に基づく学修過程を第1学年から第4学年の段階を追って計画的に修学し、一定の単位を修得すれば上級学年に進級していく制度である。

本学では、授業科目の履修と単位の修得を体系的、かつ合理的に進められるように単位制と学年制を併用した教育システムを採用している。大学に4年以上在学して卒業に必要な単位数を修得した場合、卒業と認定し、卒業証書が授与される。

2. 授業科目の単位数

各授業科目の単位数は、1単位の学修時間を教場内及び教場外を合わせて45時間を基準として計算し、教場内における授業時間と教場外における準備のための学修時間の割合は、次のような基準によって定められている。

ただし、授業科目の種類によっては教育効果等を考慮して、これと異なる取り扱いをすることがある。

◇講義科目	……	教場内15時間、教場外30時間	合計45時間
◇演習科目	……	教場内30時間、教場外15時間	合計45時間
◇実技・実習科目	……	教場内45時間	

3. 授業科目の区分

授業科目は次のように区分される。

1. 一般教育科目 (人文分野・社会分野・自然分野) …………… 選択必修科目
2. 外国語科目 (第1外国語・第2外国語) …………… 選択必修科目
3. 保健体育科目 (講義・実技) …………… 必修科目
4. 基礎教育科目 (専門教育科目の基礎となる科目) …………… 必修科目
5. 専門教育科目 (専門的知識を内容とする科目) …………… 必修科目・選択科目
6. 他学部科目 (履修可能な他学部公開設置科目) …………… 選択科目
7. 随意科目 (卒業に必要な単位に含まれない科目) …………… 選択科目

- ※ 必修科目 …… 必ず履修しなければならない科目
選択必修科目 …… 数科目の中から所定の科目数または単位数を選び、必ず履修しなければならない科目
選択科目 …… 自由に選び履修できる科目

Ⅱ 卒業に必要な単位数と学士号

1. 卒業に必要な単位数

A. 昭和60年度以降入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	36	} 142以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	2	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	12	48	86	
	選 択		38		

B. 昭和59年度以前入学生適用

授 業 科 目 の 区 分		科 目 数	修 得 単 位	計	合 計
一般教育科目	人 文 分 野	4	16	36	} 142以上
	社 会 分 野	3	12		
	自 然 分 野	2	8		
外国語科目	第 1 外 国 語	4	8	12	
	第 2 外 国 語	2	4		
保健体育科目	講 義	1	2	4	
	実 技	1	2		
基 礎 教 育 科 目		1	4	4	
専門教育科目	必 修	12	48	86	
	選 択		38		

2. 学 士 号

大学に4年以上（7年を超えてはならない）在学し、卒業に必要な単位を修得した者には、卒業証書が授与され、次の学士の称号が与えられる。

法学部 { 法律学科 …… 法 学 士
政治学科 …… 政 治 学 士

Ⅲ 授業科目の履修方法

※ 北海道教養部では、授業科目等に多少の変更を生ずる場合がある。

授業科目履修上の注意

- イ. 授業科目は、教授会の定めるところに従い各学年に配当する。
 - ロ. 授業時間表の備考欄に番号が指定された科目は、本人の学生番号のクラスで履修すること。（再履修または指定された学年で履修できなかった場合はこの限りではない。）
 - ハ. 各学年に配当された授業科目は、当該学年に限り履修することができる。ただし、下級学年に配当された授業科目を上級学年において履修することはさしつかえない。
- 二. 各学年の履修科目数の最低および最高限度は、教授会の定めるところによる。
- ホ. 一度単位の認定を受けた授業科目は、再度履修することはできない。

1. 一般教育科目の履修方法

- イ. 一般教育科目は1年次および2年次の2年間に人文分野・社会分野・自然分野の各分野から定められた科目数・単位数を履修しなければならない。
- ロ. 「宗教学Ⅰ」を1年次、「宗教学Ⅱ」を2年次の必修科目とする。
- ハ. 2年次までに所定の科目数・単位数を修得していなければならない。

法 律 学 科

人文分野	4科目	計16単位	}	合計9科目	36単位
社会分野	3科目	計12単位			
自然分野	2科目	計8単位			

分 野	授 業 科 目	単 位	履 修 科 目 数	修 得 単 位	計	備 考
人文分野	宗教学Ⅰ(1年次必修)	4	「宗教学Ⅰ」・ 「宗教学Ⅱ」の 2科目を含めて 4科目選択必修	16	36	
	宗教学Ⅱ(2年次必修)	4				
	哲 学	4				
	論 理 学	4				
	倫 理 学	4				
	文 学	4				
社会分野	法 学 憲 法 (日本国憲法2単位を含む)	4	3科目選択必修	12		
	政 治 学	4				
	経 済 学	4				
	社 会 学	4				
	統 計 学	4				
自然分野	文 化 人 類 学	4	2科目選択必修	8		
	自 然 科 学 概 論	4				
	地 学	4				
	心 理 学	4				
	コ ン プ ュ ー タ 概 論	4				
	生 物 学	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は水曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

※「コンピュータ概論」を受講（人数 100名）希望する者は、最初の授業で『単位履修届』用紙に担当教員の捺印を必ず受けること。（最初の授業教場で先着順にて履修者を決定する。）

政治学科

人文分野 4科目 計16単位
 社会分野 3科目 計12単位
 自然分野 2科目 計8単位

} 合計9科目 36単位

分野	授業科目	単位	履修科目数	修得単位	計	備考
人文分野	宗教学Ⅰ(1年次必修)	4	「宗教学Ⅰ」・ 「宗教学Ⅱ」の 2科目を含めて 4科目選択必修	16	36	
	宗教学Ⅱ(2年次必修)	4				
	哲学	4				
	論理学	4				
	倫理	4				
社会分野	法学憲法 (日本国憲法2単位を含む)	4	3科目選択必修	12	36	教員免許状を取 得しようとする ものは「法学憲 法」を必修とす る。
	法経学	4				
	社会学	4				
	統計学	4				
	文化人類学	4				
自然分野	自然科学概論	4	2科目選択必修	8	36	
	地理学	4				
	心理学	4				
	コンピュータ概論	4				
	生物	4				

※「宗教学Ⅰ」の授業は水曜日に玉川校舎(道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照)で行う。

※「コンピュータ概論」を受講(人数100名)希望する者は、最初の授業で『単位履修届』用紙に担当教員の捺印を必ず受けること。(最初の授業教場で先着順にて履修者を決定する。)

2. 外国語科目の履修方法

外国語科目は英語・ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語の6ヵ国語が開講されている。これらのうち英語と入学手続の際に指定した外国語の2ヵ国語を履修することになり、その2ヵ国語を1年次および2年次において必要な科目数・単位数を必ず履修しなければならない。

履修年次	第1外国語		第2外国語		計	
	科目数	単位数	科目数	単位数	科目数	単位数
1年次	2	4	2	4	4	8
2年次	2	4	—	—	2	4
計	4	8	2	4	6	12

1年次の履修

6ヵ国語のうち英語 I A・I Bの2科目と入学手続の際に指定した外国語 I A・I Bの2科目の計4科目8単位を必修とする。

授業科目	単位	科目内容	履修科目数
英語 I A	2		I A・I Bの2科目を必修とする。ただし I Aは「英会話 I (定員40名)」または「英語LL I (定員30名)」に振り替えできる。なお、振り替えを希望する者は、最初の授業に『単位履修届』用紙を持参し、担当教員の捺印を必ず受けること。
英語 I B	2		
英会話 I	2		
英語LL I	2	視聴覚教材を使用した語学教育	
ドイツ語 I A	2	文 法	5ヵ国語のうちから入学手続の際指定した1ヵ国語 I A・I Bの2科目を必修とする。
ドイツ語 I B	2	講 読	
フランス語 I A	2	文 法	
フランス語 I B	2	講 読	
中国語 I A	2		
中国語 I B	2		
スペイン語 I A	2		
スペイン語 I B	2		
ロシア語 I A	2		
ロシア語 I B	2		

〔名称変更科目〕

- 新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。
- 成績表は、2年度からは新名称で表示される。

新名称	旧名称
{ 英語, ドイツ語, フランス語 } { 中国語, スペイン語, ロシア語 }	{ 英語, ドイツ語, フランス語 } { 中国語, スペイン語, ロシア語 }
I A	I G
{ 英語, ドイツ語, フランス語 } { 中国語, スペイン語, ロシア語 }	{ 英語, ドイツ語, フランス語 } { 中国語, スペイン語, ロシア語 }
I B	I R

※ 英語科目内容

英語ⅠA：意志表現と意志伝達の基礎を把握する。

英語ⅠB：講読を通し、内容と文構造の基本を把握する。

※ LL……ランゲージ・ラボラトリー

※「英語ⅠB」の授業は水曜日に玉川校舎（道順は学生部で配布の「学生手帳」を参照）で行う。

2年次の履修

1年次で履修の2ヵ国語のうち、いずれかを第1外国語としⅡA・ⅡBの2科目4単位を必修とすること。

授 業 科 目	単 位	科 目 内 容	授 業 科 目	単 位	科 目 内 容
英 語 Ⅱ A	2		中 国 語 Ⅱ A	2	
英 語 Ⅱ B	2		中 国 語 Ⅱ B	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ A	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ A	2	
ド イ ツ 語 Ⅱ B	2	講 読	ス ペ イ ン 語 Ⅱ B	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ A	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ A	2	
フ ラ ン ス 語 Ⅱ B	2	講 読	ロ シ ア 語 Ⅱ B	2	

〔名称変更科目〕

○新・旧科目とも同一科目である。旧名称科目を既に修得している場合、新名称科目を履修することはできない。

○成績表は、2年度からは新名称で表示される。

新 名 称	旧 名 称
〔英語, ドイツ語, フランス語〕 〔中国語, スペイン語, ロシア語〕	〔英語, ドイツ語, フランス語〕 〔中国語, スペイン語, ロシア語〕
Ⅱ A	2 A I
〔英語, ドイツ語, フランス語〕 〔中国語, スペイン語, ロシア語〕	〔英語, ドイツ語, フランス語〕 〔中国語, スペイン語, ロシア語〕
Ⅱ B	2 A II

※ 英語科目内容

英語ⅡA：意志表現と意志伝達能力を発展させ、応用力を修得する。

英語ⅡB：講読を通し、はば広い教養を修得する。

外国語科目履修上の注意

イ. 外国語科目の組分けは、すべて授業時間表で指定するので、学生は自己の学科・学生番号（下3ケタ）により該当するクラスを履修すること。

ロ. 1年次の9月24日（火）～30日（月）までの期間内に、現在履修の外国語（英語と他の1ヵ国語）の中から2年次に履修する外国語（第1外国語）を指定し、登録すること。なお、登録後の変更はできないので、十分考慮の上行うこと。

また、登録をしない場合、外国語の履修ができなくなることもあるので、必ず行うこと。

ハ. なお一層の語学教育を望む学生は、外国語随意科目を開講しているので進んで履修されたい。

ニ. 不合格科目の再履修については、別に定める（P.15参照）。

ホ. 2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

3. 保健体育科目の履修方法

カリキュラム改訂に伴い、昭和60年度以降入学生より新カリキュラムを適用する。なお、昭和59年度以前入学生には、旧カリキュラムが適用される。

A. 昭和60年度以降入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、講義は1年次に「保健体育理論」を1科目2単位、実技は1年次に「体育実技Ⅰ」を1科目1単位と2年次に「体育実技Ⅱ」を1科目1単位、計3科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	1年次前期または後期
実 技	体育実技Ⅰ	1	1年次通年
	体育実技Ⅱ	1	2年次前期または後期

イ. 講義・体育実技Ⅰの授業は水曜日に玉川校舎で行う。

ロ. 講義・体育実技Ⅰが1年次不合格となった者は2年次において「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

※ 体育実技Ⅰについての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

ハ. 体育実技Ⅱは次の授業形態のいずれかを履修し、単位を修得しなければならない。

A. 本校での前期または後期の体育実技Ⅱの授業

B. 後期（冬季休業中）に実施される有料のシーズン・コースの授業

C. 前期（夏季休業中）または後期（冬季休業中）に実施される玉川校舎での集中授業

ニ. 体育実技Ⅱが2年次不合格となった者は3年次において体育実技Ⅱを再び履修し、単位を修得する。

※ 体育実技Ⅱについての種目の説明、シーズン・コースおよび集中授業等の申込み方法については、『体育実技受講要領』を参照すること。（受講要領配布については、掲示板参照。）

ホ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

B. 昭和59年度以前入学生適用

保健体育科目は講義と実技に分かれ、1年次に2科目4単位を必修とする。

	授 業 科 目	単 位	備 考
講 義	保健体育理論	2	前 期 ま た は 後 期
実 技	体 育 実 技	2	通 年

イ. 講義・実技とも1年次で不合格となった者は「再履修クラス」を履修し単位を修得する。

ロ. 講義・実技とも2年次までに所定の単位を修得していなければならない。

ハ. 講義・実技とも1年次生は玉川校舎で授業を行う。

※ 実技についての種目の説明等は、1年次生および「再履修クラス」を履修する者とも最初の授業に配布される『体育実技受講要領』を参照すること。

4. 基礎教育科目の履修方法

基礎教育科目とは専門教育科目の基礎となる授業科目で、1年次において1科目4単位を必修とする。

法律学科

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	法学概論	4	

政治学科

履修年次	授業科目	単位	備考
1年次	基礎政治学	4	

5. 専門教育科目の履修方法

専門教育科目は必修科目と選択科目とに分かれ、それぞれ定められた単位を修得することになっている。履修する授業科目の選択については、専門科目全般にわたって十分検討して履修すること。なお、一度単位を修得した授業科目については再度履修することはできない。

法律学科

必修科目 (48単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授業科目	単位	備 考	授業科目	単位	備 考
憲 法	4		刑 法 II	4	各論
民 法 I	4	総則	商 法 II	4	商行為・手形・小切手法
2 年 次 必 修			民事訴訟法 I	4	判決手続
行 政 法 I	4	総論	4 年 次 必 修		
刑 法 I	4	総論	刑 事 訴 訟 法	4	
民 法 II (1)	4	物権法			
民 法 III (1)	4	債権総論			
商 法 I	4	総則・会社法			
国 際 法 I	4	総論・平時国際法			

法律学科

選択科目 (38単位以上)

1 年 次 選 択			3 年 次 選 択			
授業科目	単位	備 考	授業科目	単位	備 考	
民法 IV (1)	4	親族	労 働 法	4		
2 年 次 選 択			税 法	4		
政治学原論	4		公 害 法	4	休 講	
マス・コミュニケーション論	4		社会 保 障 法	4		
政 治 史	4		外 交 史	4		
法 思 想 史	4	休 講	国 際 法 II	4	戦時国際法	
経 済 原 論	4		国 際 私 法	4		
裁 判 法	4		時 事 英 語	4		
外国法	英 米 法	4	演 習	4		
	独 法	4	外 書 講 読	英 書	4	
	仏 法	4		独 書	4	
	社会主義法	4		仏 書	4	
3 年 次 選 択				中 国 書	4	
法 社 会 学	4	休 講	ス페인書	4		
行 政 学	4		4 年 次 選 択			
財 政 学	4		法 哲 学	4		
日本法制史	4		民 法 IV (2)	4	相続	
西洋法制史	4		倒 産 法	4	※イ	
国際関係論	4		商 法 III	4	保険・海商	
経 済 政 策	4		知的財産権法	4	※ロ	
社会政策	4	休 講	民事訴訟法 II	4	上訴以後・強制執行	
刑事政策	4		政 治 思 想 史	4		
比較憲法	4		演 習	4		
行政法 II	4	各論	外 書 講 読	英 書	4	
民法 II (2)	4	担保物権		独 書	4	
民法 III (2)	4	債権各論		仏 書	4	
地方自治法	4			中 国 書	4	
経 済 法	4			ス페인書	4	

※イ、「倒産法」は従前の「破産法」を名称変更したものである。既に「破産法」の単位を修得した学生は履修できない。

※ロ、「知的財産権法」は従前の「工業所有権法」を名称変更したものである。既に「工業所有権法」の単位を修得した学生は履修できない。

政治学科

必修科目 (48単位)

1 年 次 必 修			3 年 次 必 修		
授業科目	単位	備 考	授業科目	単位	備 考
憲 法	4		政治社会学	4	
2 年 次 必 修			行 政 学	4	
政治学原論	4		国際政治学	4	
日本政治史	4		外 交 史	4	
経 済 原 論	4		政 治 制 度	4	
行政法 (総論)	4		4 年 次 必 修		
国 際 法	4		政治思想史	4	

政治学科

選択科目 (38単位以上)

1 年 次 選 択			3 ・ 4 年 次 選 択			
授業科目	単位	備 考	授業科目	単位	備 考	
海外政治事情	東アジア圏	4	履修希望者は7地域圏より1科目選択履修すること。 (2科目履修は不可)	政治心理学	4	
	西 欧 圏	4		財 政 学	4	
	東 欧 圏	4		国際経済学	4	
	北 米 圏	4		日本法制史	4	
	中近東圏	4		西洋法制史	4	
	アフリカ	4		西洋政治史	4	
	東南アジア圏	4		福祉国家論	4	
	中南米圏	4	休 講			
2 年 次 選 択			経済政策	4		
社会学原理	4		社会政策	4	休 講	
マ・コミュニケーション論	4		刑事政策	4		
比較社会構造論	4	休 講	比較憲法	4		
刑 法	4		行政法(各論)	4		
民 法	4		経 済 法	4		
外国法(英米法)	4		商 法	4		
現代政治理論	4	※イ 休 講	労 働 法	4		
プロゼミ	2		比較政治学	4		
3 年 次 選 択			財政史	4	休 講	
演 習	4		東洋政治史	4	休 講	
外書講読I	英 書	4	国際関係論	4		
	独 書	4	国家安全保障論	4		
	仏 書	4	宣伝広告論	4		
	中国書	4	政 党 論	4		
	スペイン書	4	議会関係法	4		
4 年 次 選 択			地方自治法	4		
演 習	4		国際取引法	4	休 講	
外書講読II	英 書	4	出入国管理論	4		
	独 書	4	時事英語	4		
	仏 書	4	地方行政	4	※ロ 休 講	
	中国書	4				
	スペイン書	4				

※イ. 昭和63年度以降入学生適用 } 昭和62年度以前入学生は履修できない。
 ※ロ. 昭和63年度以降入学生適用 }

6. 他学部科目の履修方法

所属している学科以外の学科、もしくは他学部または短期大学の授業科目の履修を希望する学生は、次の要領で履修することができる。

なお、履修に際しては授業科目担当教員の受講許可を必要とする。

イ. 履修科目

他学部・他学科または短期大学に開設されている授業科目のうち、他学部履修科目として公開された授業科目の中から所属学科が履修を認めた授業科目とする。（他学部履修科目一覧表P.14参照）

ロ. 履修年次

3・4年次生を対象とし、授業科目開設学科の定める年次とする。

ハ. 履修科目数

履修できる科目数は、卒業までに3科目12単位以内とする。

なお、その履修科目は所属学科の履修制限科目数に含める。

ニ. 履修方法

- (1) 「履修要項」の講義内容を参考に、『他学部履修科目授業時間表』の中から履修科目を選択し、『他学部履修願』に必要事項を記入の上、必ず最初の授業に出席し授業科目担当教員の受講許可を受ける。

なお、『他学部履修科目授業時間表』および『他学部履修願』用紙は、教務部窓口で配布する。

- (2) 『単位履修届』に履修科目（他学部履修科目を含む）その他必要事項を記入し、『他学部履修許可書』を添えて、所定の期日に提出すること。

ホ. 履修登録上の注意

- (1) 所属学科の開設科目は、他学部科目として履修登録できない。
- (2) 他学部科目は、『他学部履修科目授業時間表』に記載の専用コード（005…）で登録すること。
- (3) 同一名称（開設学科が異なる）の授業科目は、1科目のみ履修することができる。

ヘ. 再履修

他学部科目が不合格となり再度履修を希望する場合は、改めて前項の手続きを経なければならない。

なお、再履修の取扱いについては『再履修科目の履修方法』（P.15）を参照のこと。

ト. 単位認定

修得した単位は、所属学科の専門教育科目の選択科目の単位として認定し、卒業所要単位に算入することができる。

他学部履修科目一覧表

開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考	開設学科	授業科目	単位	履修年次	備考	
禅学科	禅学特講 I	4	3・4		経済学科	ソビエト経済論	4	3・4		
	禅学特講 II	4	3・4			国民所得論	4	3・4		
	禅学特講 III	4	3・4			中国経済論	4	3・4		
	禅学特講 IV	4	3・4			アジア経済論	4	3・4		
	禅学思想史	4	3・4			日本経済史	4	3・4		
	哲学史	4	3・4			中小企業論	4	3・4		
仏教学科	インド仏教史	4	3・4			教育経済論	4	3・4		
	中国仏教史	4	3・4			アメリカ経済論	4	3・4		
	日本仏教史	4	3・4			商学科	財務会計論	4	3・4	
	日用経典	4	3・4				管理会計論	4	3・4	
	仏教美術	4	3・4		会計監査論		4	3・4		
	現代哲学概説	4	3・4		商業政策		4	3・4		
国文学科	上代文学	4	3・4		貿易論		4	3・4		
	中世文学	4	3・4		マーケティング		4	3・4		
	近世文学	4	3・4		原価計算論		4	3・4		
	近代文学	4	3・4		労務管理論		4	3・4		
	中国文学	4	3・4		法律学科		民法Ⅳ(1)	4	3・4	法律学科 除く
英米文学科	英文学特講 I	4	3・4				民法Ⅳ(2)	4	4	法律学科 除く
	英文学特講 II	4	3・4		政治学科	西洋政治史	4	3・4	政治学科 除く	
	英文学特講 III	4	3・4			宣伝広告論	4	3・4	政治学科 除く	
	英文学特講 IV	4	3・4			比較社会構造論	4	3・4	政治学科 除く	
	英文学特講 V	4	3・4			政 党 論	4	3・4	政治学科 除く	
	英文学特講 VI	4	3・4		経営学科	経営学史	4	3・4		
	英米演劇特講	4	3・4			国際経営論	4	3・4		
	米文学特講 I	4	3・4			経営統計	4	3・4		
	米文学特講 III	4	3・4			保険経営論	4	3・4		
地理学科	地 質 学	4	3・4			財務会計論	4	3・4		
	気 候 学	4	3・4			経営分析論	4	3・4		
	人口地理学	4	3・4			税務会計論	4	3・4		
	応用地理学 I	4	3・4			経営労務論	4	3・4		
	都市地理学	4	3・4			商 業 史	4	3・4		
	文化地理学	4	3・4			短大国文科	国文講読Ⅰ(上代)	2	3・4	
歴史学科	日本仏教史Ⅱ	4	3・4		国文講読Ⅱ(中古)		2	3・4		
	日本史特講Ⅷ(近代)	4	3・4		国文講読Ⅲ(中世)		2	3・4		
	東洋史特講Ⅹ(近・現代)	4	3・4		国文講読Ⅳ(近世)		2	3・4		
	西洋文化史Ⅰ	4	3・4		国文講読Ⅴ(近・現代)		2	3・4		
	歴史哲学	4	3・4		国文特講Ⅴ(近・現代)		4	3・4		
	哲学史	4	3・4		短英文科 短放射線科	英文タイプライティングⅡ	2	3・4		
日本民俗学	4	3・4		計算機言語概論		2	3・4	半期科目		
社会学科	産業社会学	4	3・4							
	都市社会学	4	3・4							
	社会福祉発達史	4	3・4							

※ 計算機言語概論については、機器数の関係上選抜により受講者を決定します。

7. 随意科目の履修方法

随意科目は各学科とも2・3・4年次で履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることができない。

授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考	授業科目	単位	備考
比較思想特講	4		ドイツ語FLL(初級)	2		スペイン語FLL(初級)	2	
ドイツ語 F	2		ドイツ語FLL(中級)	2		スペイン語FLL(中級)	2	
フランス語 F	2		フランス語FLL(初級)	2		ロシア語FLL(初級)	2	
中国語 F	2		フランス語FLL(中級)	2		ロシア語FLL(中級)	2	
スペイン語 F	2		中国語FLL(初級)	2				
ロシア語 F	2		中国語FLL(中級)	2				

8. 再履修科目の履修方法

イ. 再履修とは、前年度履修登録し単位を修得できなかった授業科目（受験しなかった科目を含む）を再度履修することをいう。

注）再度履修する科目であっても、前年度において履修登録していない場合は新履修となる。

ロ. 再履修する場合、授業科目名が同じであれば、担当教員に変更があっても同一科目の再履修となる。

ハ. 再履修の授業科目は、新履修の授業科目と同時に届け出なければならない。

ニ. 外国語・体育実技Ⅰ（昭和59年度以前入学生は体育実技）・保健体育理論および宗教学Ⅰを再度履修する場合は、それぞれの「再履修クラス」（本校で授業を行う）で履修すること。ただし、原級者で同級学年の科目を再履修する場合は正規クラスで履修すること。

ホ. 1年次生は「再履修クラス」を履修することはできない。

※「日本語」・「日本事情」科目の履修方法（昭和63年度以降入学生適用）

『外国人留学生』・『海外帰国子女』学生対象の科目で、原則として1・2年次において履修すること。

○日本語科目は、各所属学科の定めるところにより第1外国語または第2外国語として履修すること。修得単位は、外国語科目の卒業所要単位に算入する。

○日本事情科目の修得単位は、8科目16単位を超えない範囲で一般教育科目の卒業所要単位に算入する。

○昭和62年度以前入学生で日本語・日本事情科目の履修を希望する学生、または昭和63年度以降入学生で各所属学科の定める一般教育科目および外国語科目の代替できる単位の範囲を超えて履修した場合は、これを随意科目として単位認定する。

（注）詳細は、『日本語・日本事情科目の履修要項』を参照すること。

※ 授業科目のコード番号について

科目コードは6桁の数字とし、その各位の数字に次の意味を持たせている。

イ. 科目コードの区分

--	--	--	--	--	--

学部 学科 系列 分野 一連番号

ロ. 学部・学科番号は「学生番号 (P.27参照)」での説明のとおりである。

ハ. 系列・分野区分

授業科目の区分	系列番号	分 野 番 号
一 般 教 育 科 目	0	
人 文 分 野		1 (必修) ・ 2 (選択)
社 会 分 野		3
自 然 分 野		4
基 礎 教 育 科 目	1	4
外 国 語 科 目	2	
保 健 体 育 科 目	4	
実 技		1
講 義		2
専 門 教 育 科 目	5	
必 修 科 目		1 ・ 2 ・ 3
選 択 科 目		5 ・ 6 ・ 7 ・ 8
随 意 科 目	7	
再 履 修 科 目	8	
課 程 ・ 講 座 科 目	9	
必 修 科 目		1
選 択 科 目		2
教 科 科 目		3 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7 ・ 8

IV 履修科目の登録（履修届）とその作成順序

1. 履修科目の登録

毎学年次所属する学科，学年に開講されている授業科目の中から履修を希望する科目を授業時間表より選び，所定の『単位履修届』用紙に必要な事項を記入し届け出ることにより，通年（または半期）授業を受けることができる。

I) 各年次において履修できる最高授業科目数（制限科目数）は次表のとおりとする。

年 次	新履修科目数	課程・講座登録者科目数
1 年 次	1 5 科 目	—
2 年 次	1 4 科目以内	1 8 科目以内
3 年 次	1 4 科目以内	1 8 科目以内
4 年 次	1 科 目 以 上	

イ. 2年次生以上の再履修科目および体育実技Ⅱ・随意科目は，上記表の制限外とする。

ロ. 4年次生は最低1科目以上とし，最高制限を設けませんが，卒業単位および授業出席に十分ゆとりのある履修をすること。

ハ. 半期科目も1科目とする。

II) 登録上の注意

イ. 履修届は指定された日時に必ず本人が記入捺印し，学生証提示の上提出すること。（提出しない場合は，学業の意志のないものとして処理する。なお，指定日時に提出できないものは事前に教務部窓口にご相談すること。）

ロ. 履修届の日時，場所等についての詳細は教務部掲示板に発表する。

ハ. 所属する学科以外の授業科目は登録できない。ただし，他学部履修科目（P.14参照）は，履修登録できる。

また，教職課程・資格講座等資格取得のため必要な科目は課程・講座科目として登録できるが，その場合は教職係窓口で受講承認印を受けてから提出すること。

ニ. 履修登録をしない授業科目はたとえ聴講，受験しても単位は与えない。

ホ. 授業科目の追加登録は一切認めない。

ヘ. 『単位履修届』用紙の注意事項をよく読んで間違いのないように登録すること。

2. 履修届記入上の注意

授業時間表(例)

月 曜 日			
	授業科目	科目コード	担当 担当コード
一 時 限	ドイツ語 I A	412201	百 済 879
二 時 限	保健体育理論(前期)	414201	長 濱 A10 622
	保健体育理論(後期)		
三 時 限	宗 教 学 I	410101	平井(俊) 735
四 時 限	論 理 学	410203	國 嶋 306
	自然科学概論	410401	宇 和 川 104

正しい記入例

曜日	時 限	再 履	科 目 名	科目コード	担 当	担 当 コード
月 (1)	1		ドイツ語 I A	4 1 2 2 0 1	百 済	8 7 9
	2		保健体育理論(前期)	4 1 4 2 0 1	長 濱	A 1 0
	3		宗 教 学 I	4 1 0 1 0 1	平井(俊)	7 3 5
	4	○	論 理 学	4 1 0 2 0 3	國 嶋	3 0 6
	5		自然科学概論	4 1 0 4 0 1	宇 和 川	1 0 4

イ. 楷書体で正確に記入すること。

ロ. 記入の際は、必ず黒または青インクを使用し、捺印の上提出すること。

ハ. 授業時間表のとおり記入すること。

ニ. 半期終了の科目は欄の中央に点線を入れ、前期終了科目は上段に後期終了科目は下段に記入すること。

ホ. 再履修科目がある場合は、再履欄に○印をつけること。

ヘ. 履修届は電算機で処理しているため、下記の場合には、登録が無効となるので注意すること。

(1) 科目名・科目コード、担当名・担当コードが一致しない場合

(2) 時限を誤って記入した場合

(3) 判読できない数字で記入した場合(例として間違い易い数字 0 と 6, 1 と 7)

(4) その他、不明瞭に記入した場合

ト. 体育実技の記入方法は、授業時間表に載っている科目コード・担当名・担当コードを正しく記入すること。

チ. 自己の責任において、必ず指定された日・時・場所に提出すること。

リ. 履修届の本人控を正確に記入し、紛失しないように保管すること。

3. 履修届（時間割）の作成順序

履修要項・授業時間表により、各自がそれぞれの学年次の履修科目を決定する訳であるが、その場合必修科目、選択必修科目、選択科目の順序で決定すること。また、一般教育科目・外国語科目・保健体育科目および基礎教育科目は1・2年次で所定の単位を修得し、上級学年に進むに従い専門教育科目、教職課程・資格講座科目等を多く履修することが望ましい。

1年次生の場合、次表の順序で履修する科目を決定すると容易である。

法律学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期）, 体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	法学概論（必修）	1
5	専門教育科目	憲法, 民法Ⅰ（必修）	2
6	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から4または5科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	} 5
	専門教育科目		
1年次履修制限科目数			15

政治学科

順序	授業区分	授業科目（適用）	科目数
1	一般教育科目	宗教学Ⅰ（必修）	1
2	外国語科目	第1外国語, 第2外国語（選択必修）	4
3	保健体育科目	保健体育理論（半期）, 体育実技Ⅰ（必修）	2
4	基礎教育科目	基礎政治学（必修）	1
5	専門教育科目	憲法（必修）	1
6	一般教育科目	人文分野 } 開講科目の中から5または6科目を選択必修 社会分野 } (不足単位は2年次で履修) 自然分野 }	} 6
	専門教育科目		
1年次履修制限科目数			15

V 試験および成績評価

1. 定期試験

イ. 前期で終了する授業科目の定期試験は7月20日（土）に、後期および通年の授業科目の定期試験は1月16日（木）～2月3日（月）に実施される。

ロ. 正規の手続きを経て履修登録した授業科目のみ受験できる。

ハ. 筆記試験のかわりにレポートの提出を課せられた場合は、論題、枚数、提出日時、提出先等をよく確認の上、表紙に科目名・担当教員名・論題・学科・学年・学生番号・氏名を明記し、読み易くとした上で提出すること。

なお、指定された日時に遅れた場合は一切受理しない。

ニ. 試験時間割は、原則として平常の講義の時限とし、時間および教場等については掲示で発表する。

（注意）試験場は平常の授業教場と異なる。特に集中試験（同一科目を一括して行う試験）は平常時間割と曜日、時限とも変わるので試験時間および教場割等については掲示に十分注意すること。

2. 中間試験

授業科目担当教員が中間考査として任意に行う試験（レポート提出を含む）のことをいう。従って試験は平常の授業に準じて行う。

3. 追・再試験

I) 追 試 験

イ. 追試験は、やむを得ない理由があり定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を欠試した場合受験することができる。その場合、欠試者は所定の欠試届にその理由を記入し、自分の全ての試験終了後直ちに届け出ること。（締切日は掲示板参照）

ロ. 追試験料は徴収しない。

II) 再 試 験

1・2・3年次生については、再試験は一切実施しない。

卒業年次生に限り下記により実施する。

イ. 卒業年次に履修登録した科目の定期試験（期間外実施・レポート提出を含む）を受験し、不合格となった科目は願い出により受験することができる。

ロ. 受験料は1科目1,000円とする。

（注意）前期終了科目の追・再試験は9月25日（水）～10月1日（火）に、後期および通年科目の追・再試験は卒業年次生・在校生とも2月24日（月）～2月29日（土）に実施する。

III) 体育・外国語科目・その他

イ. 体育実技、演習は追・再試験とも行わない。

ロ. 外国語科目についても追・再試験は行わない。ただし、定期試験を欠試した者は当該科目試験終了後直ちに担当教員に申し出て指導を受けること。

4. 受験心得

- イ. 当該受験科目を履修登録していること。
- ロ. 指定された日・時・試験場（教場）で受験すること。
- ハ. 学生証を携帯していない学生は受験できない。
- ニ. 学生証は試験中、机上に提示しておくこと。
- ホ. 試験開始後30分を超えて遅刻した学生は受験できない。
- ヘ. 試験開始後30分を経過し、受験者名簿に氏名を記入するまで退場できない。
- ト. 学部・学科・学年・学生番号・氏名の記入はペンまたはボールペン書きとする。
- チ. 無記名の答案は無効となるので注意すること。
- リ. 配布された答案用紙は必ず提出し、試験場外へ持ち出してはならない。
- ヌ. 試験場（教場）においては、すべて試験監督員の指示に従うこと。
- ル. 試験場（教場）の秩序を乱したり、試験実施の妨げとなる行為をした場合は退場を命じる。
- ヲ. 試験において下記のような不正受験行為があった場合は、「不正受験行為者処分規程」により処分されるので注意すること。
 - (1) 代人として受験したり、または代人受験を依頼すること。
 - (2) 使用が許可されていないノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を使用すること。
 - (3) 所持品その他への事前の書き込みや机・壁等への書き込みを利用すること。
 - (4) 他人の答案をのぞき見て書き写したり、書き写しさせること。
 - (5) 私語及び動作・メモその他の方法で連絡をしたり、連絡を受けること。
 - (6) 試験中にノート・テキスト・参考書・六法・辞書等を貸借すること。
 - (7) 答案用紙をすり替えたり、すり替えさせること。
 - (8) その他上記に類似する行為をすること。
- ワ. 学生証を忘れた場合は仮受験票により受験することができる。仮受験票の発行については、教務部窓口にて手続きをすること。

5. 成績評価・単位認定

- イ. 定期試験の成績は、優（100点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）および不可（59点～0点）とし、優、良、可を合格、不可は不合格として発表する。

なお、素点に関する問い合わせは一切受付ない。
- ロ. 所定の授業時間数の3分の2以上授業に出席し、合格の成績評価を得た授業科目については所定の単位を認定する。
- ハ. 追試験の成績評価は定期試験に準ずる。
- ニ. 再試験（4年次生のみ）の成績評価は良（70点）以下とする。

6. 試験時間

定期試験実施時間（前期・後期とも）		追・再試験実施時間（前期）	追・再試験実施時間（後期）
1時限 9:30～10:30	4時限 14:30～15:30	1時限 16:10～17:00	1時限 9:30～10:20
2時限 11:00～12:00	5時限 15:50～16:50	2時限 17:10～18:00	2時限 10:50～11:40
3時限 13:00～14:00	6時限 17:10～18:10		3時限 13:00～13:50
			4時限 14:10～15:00
			5時限 15:20～16:10

試験実施規程（抜粋）が掲載されている（P.31）ので参照のこと。

VI 進級について

上級学年に進級するためには、進級規程に定める各学年所定の単位を修得していなければならない。修得した単位数により進級および注意進級とし、基準単位数に達しない場合は原級留置とする。

- 注意進級とは、進級の基準単位数に達していないが教育指導のうえ進級を認めるものである。
これによる進級者は、修得単位数が少ないために次年度に原級留置となったり、卒業が困難となる場合もあるので、十分反省して勉学に努める必要がある。
- 修得単位数が注意進級の基準単位数に達しない場合は、原級とし、同一学年に留め置くものとする。

修得単位基準表（単位は卒業所要単位のうちとする。）

	1年次から2年次	2年次から3年次	3年次から4年次
進 級	30単位以上	60単位以上	99単位以上修得し、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目を全て修得していること。
注 意 進 級	29～20単位	59～50単位	99単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が1～12単位不足している場合。
原 級 留 置	19単位以下	49単位以下	98単位以下。または99単位以上修得しているが、一般教育科目・保健体育科目・外国語科目が、13単位以上不足している場合。

Ⅶ 教職課程・資格講座

法学部で開講されている資格取得のための課程・講座は、次表のとおりである。

課程・講座名	開講年次	備 考
教 職 課 程	2年次より	教員資格取得のためのもので教職課程の所定単位を修得した者は、中学校1種・高等学校1種の各普通免許が取得できる。
学校図書館司書教諭講座	”	学校教育を充実することを目的とする学校図書館の専門職としての資格。
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	”	社会福祉を増進させるための機関等における専門職としての資格。(社会福祉士の基礎科目も修得可能)
社会教育主事講座	”	社会教育活動を行う者に対し、求めに応じて専門的・技術的な助言と指導を与える教育専門職としての資格。

教職課程・資格講座の履修希望者は、1年次の秋(11月中旬)に実施するガイダンスに出席し、教職課程・資格講座の「履修要項」および「課程・講座受講登録カード」を受け取ること。

(授業科目の講義内容は履修要項の講義内容を参照すること。)

なお、ガイダンスの日時等については、実施1ヵ月前より掲示板で、その旨指示する。

Ⅷ 事務取扱いについて

1. 成績発表・成績証明書

- イ. 前期終了科目・後期および通年授業科目の定期試験の結果は書類で発表する。
- ロ. 成績の質疑については、成績質疑応答期間内に教務部窓口にて相談すること。ただし、評価の質疑については直接担当教員に申し出て相談すること。
- ハ. 成績発表を受けるときは必ず学生証を持参すること。
- ニ. 成績証明書は、卒業年次生以外は原則として発行しない。

2. 授業時間

授業時間は、次表のとおりである。

時 限	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
時 間	9:00～10:30	10:40～12:10	12:50～14:20	14:30～16:00	16:10～17:40

3. 事務室の事務受付時間

- イ. 事務受付時間は、9時より16時30分（土曜日は12時）までとする。ただし、昼食休憩時間は12時から13時とし、この時間は事務受付を休止する。
- ロ. 履修届提出・成績発表・各申込等の受付は9時30分より16時までとする。

4. 休 講

- イ. 休講は担当教員より連絡があり次第、休講掲示板（教務部事務室前ロビー）に掲示する。従って、教場の黒板に書いて休講の連絡はしない。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務部⑦番窓口申し出てその指示を受けること。
- ロ. 運輸機関のストライキによる休講措置については午前7時現在、JR東京近郊区間（山手・中央・京浜東北）もしくは東急がストライキを行っている場合の授業は全面休講とする。

5. 掲 示

学生に対する公示・告示および学習上周知を要する事項は、すべて掲示板に発表するので、登校・下校の際は、必ず掲示板を見ること。また、学生個人に対する伝達事項も、掲示または、郵便・電話で連絡するので遅滞なくその指示に従うこと。

6. 問い合わせ

事務室への電話による質問（行事予定、休講、授業、学籍、試験、成績、その他）は、間違いを生じやすく事務に支障も生ずるので一切応じない。必要があるときは、必ず登校のうえ、掲示板を見るか、関係事務室窓口で問い合わせること。

IX 学籍について

1. 修業年限と在学年数

- イ. 修業年限とは、大学の教育課程修了に必要な期間のことをいう。（本大学の修業年限は4年）
- ロ. 在学年数とは、大学において学生の身分を有することができる期間のことで、本大学の在学年数は休学期間を除き7年と定めている。

2. 休学

傷病その他の事由で引き続き2か月以上修学することができないときは、理由を付し、保証人連署のうえ願い出て休学の許可を得なければならない。

I) 休学の手続き

- イ. 休学願に添えて次の書類を提出すること。
 - (1) 傷病の場合は、医師の診断書
 - (2) 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在留期間を証明する書類および在留地届
 - (3) その他の理由の場合は、保証人連署の休学を必要とする理由書
- ロ. 休学の手続き期限は当該年度の11月30日までとする。
- ハ. 休学理由が休学許可日より2か月未満の期間内に消滅したときは、保証人連署の休学取り下げ願により休学を取り消すことがある。

II) 休学の期間

- イ. 休学の期間は1学年を区分とし、休学の許可を受けた日から当該年度の3月31日までとする。
- ロ. 引き続き休学を要する特別な事情があるときは、許可を得てさらに1年に限り休学することができる。
- ハ. 休学期間は通算4年を超えることはできない。
- ニ. 休学が許可された年度は在学年数に算入しない。

III) 休学する場合の学費

休学を願い出る者は当該期の学費を納入していること。

休学願提出日	学費
4月1日～9月30日	I期（前期）分納入済のこと。（II期分免除）
10月1日～11月30日	I期（前期）分・II期（後期）分共納入のこと。

IV) 休学原級

休学を許可された者は、翌年度は現学年に原級留置とする。

3. 復学

- イ. 休学した者が復学する場合は、I期（前期）学費を納入の上、保証人連署の復学願を4月10日までに提出し許可を得ること。
- ロ. 傷病で休学した場合は、通学可能なことを証明する医師の証明書を添えること。

4. 退 学

傷病その他やむを得ない事由で退学しようとする者は、所定の退学願を提出し許可を得ること。

- イ. 退学願は、退学理由を付し保証人連署で願い出ること。
- ロ. 退学願提出時に学生証を返却すること。
- ハ. 退学年月日は次のとおりとする。
 - (1) 当該期学費納入者 ……… 退学願提出日
 - (2) 当該期学費未納者 ……… 学費納入済学期の最終日

5. 除 籍

次の事項に該当する者はこれを除籍する。

- イ. 在学年数を越えた者
- ロ. 休学期間を越えた者
- ハ. 学費の納付を怠り、督促を受けてもなお納入しない者

6. 懲 戒

- イ. 本大学の学則等に違反し、その他学生の本分に反する行為があった場合、情状により譴責、停学、退学の処分をする。
- ロ. 退学処分は次の事項のいずれかに該当する者に対して行う。
 - (1) 性行不良で、改善の見込みがないと認められる者
 - (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
 - (3) 正当の理由がなくて出席常でない者
 - (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

7. 編 入 学 (学士入学)

本大学卒業者(卒業見込者を含む)及び2年以上在学した者(在学中の者を含む)で、他の学部学科の3年次に編入学を希望する者があるときは、選考の上入学を許可する。

ただし、編入学者の学年は、単位を修得した授業科目によっては、第2学年となる場合がある。

8. 再 入 学

本大学を退学した者または除籍された者で、再入学を希望する者があるときは選考の上許可することがある。

- イ. 入学後1年未満で退学した者または除籍された者は対象としない。
- ロ. 退学または除籍後3年以内の者とする。(出願時を基準とする)
- ハ. 再入学者の在学年数は、従前在学した年数と通算し7年以内とする。

9. 転部・転科

本大学の学生で、同一学部他学科または他の学部学科に転科もしくは転部を希望する者があるときは、選考の上許可することがある。(学科により異なる)

転部・転科した者の在学年数は、転部・転科した年次にかかわらず、入学の時期から通算する。

10. 留 学

本大学の学生で、外国の大学または短期大学の授業科目の履修を希望する者があるときは、教授会の議を経てこれを許可することがある。

- イ. 履修した授業科目の修得単位については、本大学において修得したものとみなし、卒業所要単位に算入することができる。
- ロ. 留学期間は在学年数に算入する。

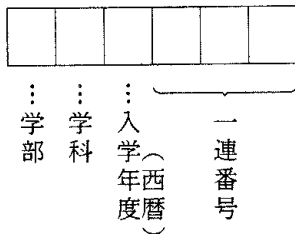
11. 学生氏名・保証人

- イ. 学生氏名は、住民票記載事項証明書または外国人登録済証明書に基づきJ I S第1水準・第2水準文字で運用する。
- ロ. 外国人登録済証明書に記載されている通称名の使用を希望する者は、願い出て許可を得ること。
- ハ. 通称名使用の許可を得た者は、本大学在学中一貫して通称名を使用することとし、本大学発行の証明書、成績表、各種名簿等はすべて通称名で表示する。
- ニ. 保証人は原則として、父、母とし、やむをえない場合は独立の生計を営む親族あるいは縁故者とする。
- ホ. 保証人は、学生の在学中の一切の事項について責任を負うものとする。
- ヘ. 学生・保証人の氏名住所等に変更があったときは、すみやかに所定の変更届を提出すること。

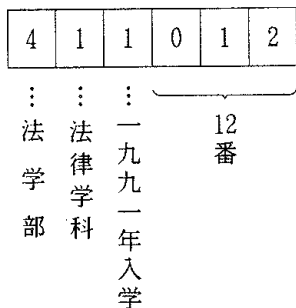
12. 学生番号

- イ. 学生番号は在学中はもとより、卒業後も不変の本人固有番号となるので正確に覚えておくこと。
- ロ. 学生番号は6桁の数字からなっていて、その各位の数字に次の意味を持たせてある。

学生番号区分



(例) 1991年度入学・法学部
法律学科12番の場合



学部・学科の番号

学 部 ・ 学 科 名	学 部 番 号	学 科 番 号
仏 教 学 部	1	
禅 学 科		1
仏 教 学 科		2
文 学 部	2	
国 文 学 科		1
英 米 文 学 科		2
地 理 学 科		3
歴 史 学 科		4
社 会 学 科		5
経 済 学 部	3	
経 済 学 科		1
商 学 科		2
法 学 部	4	
法 律 学 科		1
政 治 学 科		2
経 営 学 部	5	
経 営 学 科		1

X 既修得単位の認定について

イ. 新たに第1学年に入学した者

- (1) 他の大学または短期大学（外国の大学または短期大学を含む）を卒業または中途退学し、新たに本学の第1学年に入学した者は、従前在学した大学等において修得した授業科目の単位のうち、一般教育科目、外国語科目および保健体育科目については、合計30単位を超えない範囲で本大学において修得した単位として認定を受けることができる。
- (2) 既修得単位の認定を受けようとする者は、申請書（所定様式）に成績（単位修得）証明書を添えて、教務部長に願い出なければならない。
- (3) 既修得単位の認定は、教務部長を経て当該教授会がこれを行う。

ロ. 編入学者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ハ. 再入学者

従前在学中に修得した全授業科目の単位を認定する。

ニ. 転部・転科者

従前在学中に修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書により当該教授会が認定する。

ホ. 留学者

本学から外国の協定校・認定校へ派遣された学生が、留学先で修得した授業科目の単位は、提出された成績（単位修得）証明書・履修要項等により当該教授会が認定する。認定した単位は、卒業所要単位に算入される。

XI 届書・願書について

（教務部扱いのもの）

種 類	要 領 （ 必 要 書 類 ）	本人 印	保証 人印	取扱 窓口	
届 書	単 位 履 修 届	・ 所定用紙あり ・ 各年度に単位修得しようとする授業科目を指定 期日に必ず届け出ること	要	不要	掲示
	欠 試 届	・ 所定用紙あり ・ 本人履修全科目の試験終了後直ちに届け出ること （締切日は掲示参照）	不要	不要	⑨
	改 氏 名 届	・ 所定用紙あり ・ 戸籍抄本添付 ・ 変更後 1 週間以内	要	不要	⑤
	本籍地（都道府県 名）変更届	・ 所定用紙あり ・ 住民票記載事項証明書添付 ・ 変更後 1 週間以内	要	不要	
	保証人変更届	・ 所定用紙あり ・ 在学誓書（保証書）添付	要	要	
	保証人住所変更届	・ 所定用紙あり ・ 変更後 1 週間以内	要	不要	
	死 亡 届	・ 所定用紙あり ・ 死亡が証明できる書類（写し可）添付	/	要	
願 書	休 学 願	・ 所定用紙あり ・ 傷病による場合は、医師の診断書添付 ・ 外国で修学する場合は、修学先・修学目的・在 留期間を証明する書類および在留地届 ・ その他の場合は、保証人連署の理由書	要	要	⑤
	復 学 願	・ 所定用紙あり ・ 傷病による休学をした場合は、医師の通学可能 である証明書添付 ・ 4月10日までに提出すること	要	要	
	退 学 願	・ 所定用紙あり ・ 学生証添付	要	要	

XII 各種証明書取扱い窓口

証 明 書 名	取 扱 窓 口	料 金
成績・卒業見込証明書（卒業年次生のみ）	教務部④番	在学者にかかわる 証明書 1通200円 （英文 500円） 卒業者にかかわる 証明書 1通300円 （英文 600円）
成 績 証 明 書		
卒 業 証 明 書		
学 士 証 明 書		
教員免許状取得見込証明書		
教職・講座単位修得（見込）証明書		
一般教養科目修了（見込）証明書		
そ の 他 の 諸 証 明 書		
人 物 考 査 書	就 職 部	
健 康 診 断 証 明 書	学 生 部 ③ 番	
在 学 証 明 書	学 生 部 ② 番	
学 割		無 料
通 学 証 明 書		無 料

※ 経理部前備付けの申込用紙に必要事項を記入し、手数料分の証紙を貼付（郵送料も同様）の上、取扱い窓口に申し込むこと。発行は原則として2日後。

教務部取扱い証明書は、6月下旬から9月中旬までと3月は大変混雑するので、掲示に注意し、十分余裕をもって申し込むこと。

試験実施規程（抜粋）

（昭和59年7月13日制定）

（目的）

第1条 この規程は、駒沢大学（以下「学部」という。）、駒沢短期大学（以下「短大」という。）、駒沢大学大学院（以下「大学院」という。）の各学則に規定する試験の実施について必要な事項を定めることを目的とする。

（試験の実施）

第2条 試験は、当該教授会の責任のもとに実施される。

（試験の種類及び実施の時期）

第3条 試験の種類は、次のとおりとする。

- (1) 定期試験 履修した授業科目修了の認定をするために前期あるいは後期の所定期間内に行われる試験をいう。
 - (2) 追加試験（以下「追試験」という。）病気その他やむを得ない理由で定期試験を受けることができなかった者について行う試験をいう。
 - (3) 再試験 第1号の試験を受験し不合格となった者について、臨時に行う試験をいう。
 - (4) 中間試験 第1号、第2号、第3号の試験とは別に平常の授業時間帯に授業科目担当教員が中間審査として行う試験をいう。
2. 試験の実施時期については、行事予定表をもってこれを定める。ただし、中間試験については、この限りではない。
3. 第1項第2号及び第3号に規定する追試験及び再試験は、次の各号の一に該当するときは、これを実施しない。
- (1) 学部1・2・3年次生の再試験
 - (2) 学部外国語科目、体育実技、演習、その他実験実習をともなう授業科目の追試験及び再試験
 - (3) 短大体育実技の追試験及び再試験

（試験の方法）

第4条 試験は、筆記、口述又は実技によって行う。ただし、授業科目担当教員の決定により、レポート提出をもってこれに代えることができる。

（試験時間）

第5条 試験時間は、原則として第1部は60分、第2部は50分とする。ただし、追試験及び再試験については50分とする。

（受験資格）

第6条 授業科目修了の認定にかかわる定期試験を受験するためには、次の各号の条件を満たしていなければならない。

- (1) 当該授業科目を履修登録していること。
- (2) 授業料その他の学費を納入していること。

2. 前項の条件を満たしているときであっても、当該授業科目について、出席すべき時間数の3分の1以上欠席している者については、当該授業科目の受験資格が認められないことがある。
3. 追試験を受験するためには、定期試験終了後速やかに当該授業科目の欠試届及び追試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。
4. 再試験を受験するためには、所定の受験料を添えて再試験受験願を提出し、許可を受けなければならない。

(受験資格の喪失)

第7条 次の各号の一に該当するときは、当該授業科目試験の受験資格を失う。

- (1) 学生証を携帯していないとき。
- (2) 試験開始後30分を超えて遅刻したとき。
- (3) 試験監督員の指示に従わないとき。
- (4) 不正受験行為を指摘されたとき。

(受験心得)

第8条 試験を受ける者は、別に定める受験心得を遵守しなければならない。

(無効答案)

第9条 次の各号の一に該当する答案は、無効とする。

- (1) 受験資格を有しない者の答案
- (2) 不正受験行為により作成された答案
- (3) 氏名、学生番号が記載されていない答案
- (4) 指定された時間、指定された場所に提出されない答案
- (5) 所定用紙以外の用紙を用いた答案

(成績評価及び単位認定)

第10条 試験の成績は、優(100点~80点)、良(79点~70点)、可(69点~60点)、不可(59点~0点)の4段階に分け、優、良、可を合格とし、不可を不合格とする。ただし、再試験の成績は、良(70点)、可、不可のいずれかとする。

2. 合格した授業科目については、所定の単位を修得したものと認める。

(不正受験行為者の処分)

第13条 不正受験行為者の処分については、別に定める。

(事務所管)

第14条 試験実施にかかわる事務は、教務部(教務課、第二学事課)の所管とする。

附 則

この規程は、昭和59年7月13日から施行する。

講 義 内 容 目 次

一般教育科目 (共通)	(36)
保健体育科目 (共通)	(43)
随 意 科 目 (共通)	(44)
法 律 学 科	(48)
政 治 学 科	(61)
他学部履修科目 (共通)	(73)

[卷 末]

教職および資格講座

一般教育科目（共通）

人文分野	
宗教学Ⅰ（佐藤 憲昭）	36
宗教学Ⅰ（山端 昭道）	36
宗教学Ⅰ（菅原 壽清）	36
宗教学Ⅰ（再クラス）（岡部 和雄）	36
宗教学Ⅰ（再クラス）（奈良 康明）	36
宗教学Ⅱ（黒丸 寛之）	36
宗教学Ⅱ（青龍 宗二）	37
宗教学Ⅱ（新井 勝龍）	37
宗教学Ⅱ（佐藤 秀孝）	37
宗教学Ⅱ（小坂 機融）	37
宗教学Ⅱ（佐々木 章格）	37
宗教学Ⅱ（永井 政之）	37
哲学（秋元 ひろと・小宮山 隆・ 片桐 茂博）	37
論理学（片桐 茂博・戸田 洋樹・ 木原 英逸）	38
倫理学（國嶋 一則）	38
倫理学（松田 文雄）	38
文学（忠鉢 仁）	38
文学（平 敏功）	38
社会分野	
法学憲法（前田 英昭）	38
法学憲法（馬越 道夫）	39
法学（梅木 崇）	39
政治学（福岡 政行）	39
社会学（長谷部 八朗）	39
社会学（橋爪 敏）	39
統計学（飯塚 仁之助）	39
文化人類学（加治 明）	40
文化人類学（蒲原 大作）	40
文化人類学（村武 慶）	40
経済学（小野 俊夫）	40
自然分野	
自然科学概論（松野 正）	40
自然科学概論（穴瀬 真）	40
自然科学概論（綾野 雄幸）	41
地学（宇和川 正人）	41
地学（小池 一之）	41
地学（漆原 和子）	41
心理学（法律）（板津 裕己）	41
心理学（政治）（板津 裕己）	41
心理学（高橋 良博）	41
コンピュータ概論（三好 重明）	41
コンピュータ概論（竹田 洋一）	42
生物学（清水 善和）	42

保健体育科目（共通）

保健体育理論（大石 武士）	43
保健体育理論（宮沢 栄作）	43
保健体育理論（竹田 幸夫）	43
保健体育理論（再クラス）（長濱 友雄）	43
保健体育理論（再クラス）（牧野 茂）	43

随意科目（共通）

比較思想特講（佐々木 宏幹）	44
比較思想特講（洗 建）	44
ドイツ語F（松本 洋子）	44
ドイツ語FLL（初級）（小林 ゲアリンデ）	44
ドイツ語FLL（中級）（松岡 晋）	44
フランス語F（遠山 博雄）	44
フランス語FLL（初級）（加藤 節子）	44
フランス語FLL（初級）（M. マルタン）	44
フランス語FLL（中級）（M. マルタン）	45
中国語F（釜屋 修）	45
中国語FLL（初級）（釜屋 修）	45
中国語FLL（中級）（松本 丁俊）	45
スペイン語F（ソニア・エレロ・ガルシア）	45
スペイン語FLL（初級）（ホワン・ナバロ）	45
スペイン語FLL（中級）（ホワン・ナバロ）	45
ロシア語F（杉山 秀子）	45
ロシア語FLL（初級）（池田 ガリーナ）	45
ロシア語FLL（中級）（池田 ガリーナ）	46

一般教育科目(共通)

人文分野

宗教学 I

佐藤憲昭

呪術=宗教は、人間・社会にとってどのような意味と役割をもっているか、他の文化諸領域との関連のもとに考察する。さらに、仏教の基本的な観念や行動についても考えてみたい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

〔参考書〕脇本平也『宗教を語る—入門宗教学—』（日新出版）

佐々木宏幹『聖と呪力—日本宗教の人類学序説—』（青弓社）

方法等について基本的な考え方を概説する。後期においては、前期の講義をふまえて、さまざまな宗教現象のうちから身近かな問題を取りあげていくとともに、宗教と法・政治との関わりなど基本的な考え方についても、考えていきたい。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗教学 I (再クラス)

岡部和雄

前半では宗教とは何かという問題について、現代のアクチュアルなテーマを取りあげて具体的に考えていく。また後半では仏教に的をしぼり、その基本的輪郭を明らかにしようと思う。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

『仏教の歩んだ道1』（東京書籍）

宗教学 I

山端昭道

次の点を柱として、講義を進めたい。

1. われわれの周囲には、さまざまな宗教現象やそれに関する事象が在る。それらを知り、現代人としてのわれわれと宗教とのかかわりを考え、また自己自身の確立のために、宗教のもつ価値や意義を問う。
2. わが国の文化や社会、また異なった国々のそれらや人びとを知る上で、その国の宗教理解は欠かせない。過去から現在に至る重要な宗教の諸相へ理解を深める。
3. わが国の年中行事のいくつかを取り上げ、その背後に在る日本人の宗教意識を知り、かつその現代的意義を考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗教学 I (再クラス)

奈良康明

人間生活における宗教、仏教の意味、機能および構造を「宗教文化史」研究の枠組の中であきらかにしてゆきたい。出来るかぎり、現代の私たちの生活とのかかわりの中で諸テーマを考える。

〔教科書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

『仏教のおしえ』（東京書籍）

宗教学 II

黒丸寛之

仏教に対する全般的理解を深めるとともに、禅についての歴史と思想、および禅文化と人間観などについて講述する。

宗教学 I

菅原壽清

前期において人間生活と宗教とのかかわりあい、宗教学の研究領域、研究方法、さらに宗教の分類

宗 教 学 II

青 龍 宗 二

この講座は「宗教学Ⅰ」のあとをうけて、「禅仏教」を取り扱う科目であるが、特に禅思想を中心として、我々自身の人間形成にどのような関わり合いをもっているかを考え、併せて日本文化と禅との関連をも言及してゆく。

宗 教 学 II

新 井 勝 龍

人間が人間として価値あらしめられるのは、生きる意義の自覚にある。この自覚とは、一言でいえば、自己実現と社会関係の確立に帰する。学問を含め一切の価値ある人間活動は、これをめぐるものに外ならない。禅はこの問題に対し、すぐれた理論と実践による根本的な答をもっている。これは諸部門総合化の現代における、禅の位置を示している。

本講座はこの意味において、禅の特質を明らかにすべく、特に禅の個人観、社会観更に禅の実践論を中心として、現在の自己自身における、絶対的意義把握の道を探究してゆきたい。

〔教科書〕ノートによる。

〔参考書〕田村芳朗『日本仏教史入門』

宗 教 学 II

佐 藤 秀 孝

仏教とくに禅を中心に講義を進めていく。内容としては、はじめに現代と宗教、日本人の宗教観、坐の文化などを論じ、その後、禅および中国・日本の禅宗の歴史的展開を追いながら、禅とは何か、禅の真理、禅の生活、禅の行法、禅と日本文化、禅と現代といった問題を考えてみたい。

〔教科書〕『宗教学Ⅱ』（更生社）¥2,370

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）
¥1,400

宗 教 学 II

小 坂 機 融

本講座は宗教学Ⅰを基調とし、特定宗教への関心の有無にかかわらず、宗教的問いがすべてのひ

とに生起してくる根底について考究し、これへの真の応答の在りようを宗教の歴史的諸形態の中に探り、更に禅の簡明直截な修証に焦点をあて、近年特にその歪みが顕在化してきた現代文明社会において、これがいかなる意味をもつかを自然・人間・社会等の諸事象に照らして問うていく。

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）
『宗教学Ⅱ』（更生社）

宗 教 学 II

佐々木 章 格

すでに宗教学Ⅰにおいて、宗教の概説、インド・中国・日本の仏教を学んだことと思う。この宗教学Ⅱにおいては、さらにすすんで日本文化にも多大の影響を及ぼしている「禅」について探究する。

禅は理論も知らなければならないが、同時に生活の上に実践できなければ意味がない。今日、一般の人々が仏教とりわけ禅に寄せる関心の高さには驚かされるものがある。

ここでは、「禅」の概要および中国・日本における禅宗の歴史と変遷を、その時代時代の禅者を通して考えながら学び、思想的理解を深める。

〔教科書〕山内舜雄編『宗教学Ⅱ』（更生社）

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

宗 教 学 II

永 井 政 之

宗教学Ⅰのあとを承け「禅」について、その歴史や思想を学びつつ、ますます複雑化する現代に宗教、就中、禅はどのような面で可能性を持ちうるのだろうか。学生諸君とともに考えてみたい。

〔教科書〕『宗教学Ⅱ』（更生社）¥2,370

〔参考書〕『宗教学ハンドブック』（世界書院）

哲 学

秋 元 ひろと・小宮山 隆
片 桐 茂 博

人間は生れつき、知識の営みをするように定められている。人間のもつどんな知識でも思想を表わし、人間はその思想によって生きている。しかしわれわれの日常生活では、自分がどのような思想によって生きているのか自覚がない。それは、伝統的思想に支配されているからである。われわ

れが「よりよく生きる」ことを願うならば、一定の目標を定めなければならず、そのためには自覚した思想をもたなければならない。哲学は、古代から現代に至るまでの自覚された思想を研究し、さらにそれを自らの生きるための思想とするものである。また大学における学問研究の基礎知識の獲得にも努める。

〔教科書〕その都度指示する。

論 理 学

片 桐 茂 博・戸 田 洋 樹
木 原 英 逸

論理学は、正しく思考するためには「いかに思考すべきか」を教える科学である。ここでいう思考は、推理という型の思考である。われわれは、学問する場合はむろんのこと日常生活においても、たえず思考しているが、必ずしも正しく思考しているとはかぎらない。したがって、論理学によって正しく思考するための法則を学ばなければならない。さらに、現代の科学技術や電算機の基礎になっている論理法則の理解や習得に努める。

〔教科書〕その都度指示する。

倫 理 学

國 嶋 一 則

倫理学は、われわれがいかに生き、何を行為すべきかを探究する学問である。つまり、人間の行為に関する哲学である。人間として正しい行為とか、真実の行為とか理性的行為といわれるものは、人生の原理（人生観）や世界の原理（世界観）に従った行為である。日常の人生観や世界観は、動揺して確実なものではないから、古代から現代にいたる主な哲学者たちの思想を研究して、各自の確実な人生観や世界観の確立に努める。

〔教科書・参考書〕その都度指示する。

倫 理 学

松 田 文 雄

本講座は東洋倫理として開講し、インド・中国・日本の倫理思想を概説する。

〔参考書〕随時指示する。

文 学

忠 鉢 仁

日本文学史の中でも芸術的達成度が高いとされる『平家物語』とともに、軍記物語のもう一方の雄とされる『太平記』の二作品を中心に、これまで諸君があまり接する機会を持たなかったと思われる、中世軍記物語について考え、動乱の中で“生死”に直面する人間の姿を追究してみたい。

〔教科書〕今成元昭ほか著『古熊本 軍記物語』（双文社出版）¥1,500

文 学

平 敏 功

『万葉集』の〈うた〉をよむ。

上代文学は、日本文学の草創期の〈文学〉である。わけても万葉集は、古代の共同主観としてのことばが、歌（文学的表現）へと変容した作品の集であった。

万葉集の歌を通して、古代の人の心が、事物、事象、自意識、感性をどのようなことばとの出会いで結びつけていったかを考えてゆく。つまり、「文学意識」の発生を段階的に検討し、明らかにしてゆきたいのである。

〔教科書〕小野 寛著『万葉集抄』（笠間書院）¥1,000

〔参考書〕金井清一・小野 寛編『年表資料 上代文学史』（笠間書院）¥900

社 会 分 野

法 学 憲 法

前 田 英 昭

本講座では、日本国憲法の基本原理を解説するとともに、我々が直面する法的諸問題を取り上げ、法的な考え方ができるように心がけたい。

参考文献は随時紹介する。

教科書は使わない。

法 学 憲 法

馬 越 道 夫

前期は、法の目的・法の意義・法の生成と発展・近代法の成立・法と政治経済の関係等、法学の基本問題を講述し、後期は憲法・民法・刑法・裁判法等、成文法を講述する。受講者は六法全書を必ず持参すること。

〔教科書〕小林弘人・松村 格編集『法学・憲法』
(八千代出版KK) ¥2,800

〔参考書〕高窪利一・高窪貞一編『現代の法学』
(蒼文社)

法 学

梅 木 崇

一般教養科目としての法学であるが、法学部の学生を対象とするため、わが国の法制度全般にわたって概説する。したがって、「法とは何か」といった高度に抽象的・思弁的な内容はとりあつかわない。また、法の歴史についても必要な限り言及するにとどめる。要するに、現代の法制度、それに則する法現象を対象とするということである。できるかぎり多くの具体的な例をひいて、理解しやすいように努めるつもりである。現在のところ、次のような内容を予定している。

(1)犯罪と法 (2)財産関係と法 (3)労働と法 (4)家族関係と法 (5)法の適用と裁判 (6)法の解釈

〔教科書〕山口・大久保編『法学要説』(芦書房)

政 治 学

福 岡 政 行

前期は政治の理論的研究として、政治学の行動科学的分析を中心に、政治のシステム・文化・社会化の視点で政治の動態分析を行う。政治が人間行動の集団現象であることから、現実政治の分析には、どうしても行動的視座が必要である。

戦後日本の政党政治・選挙について、現状分析を行い、今日の日本の政権交代が、何が原因で、スムーズに行われないのか。政党システム・選挙・圧力団体・官僚制を中心に講義してゆく。

〔教科書〕福岡政行著『現代日本の政党政治』
(東洋経済) ¥1,500

社 会 学

長 谷 部 八 朗

本講義は、私たちの営んでいる社会生活を、個人、集団、(全体)社会といった各分析単位に沿って理解することをめざしている。

講義の大筋は、前期で、こうした分析に必要な基本用語、概念、学説の解説を行い、後期では、これら基礎知識を現実の諸問題を通して具体的に検討する予定である。

〔教科書〕『新版社会学概論』(学文社)

社 会 学

橋 爪 敏

社会学という学問の持つ研究対象や性格は、ほかの社会諸科学と比べた場合、あまり理解しやすいものとは言えない。それは、社会学のもつ一種独特の学問的性格や対象の設定に基づくものであろう。社会学は、名称の示すごとく、社会を研究対象とするものであるがそれを常に具体的、現実的な人と人との関係的現象、集団的現象に還元して考察、理解し、さらには理論的に体系化する志向をもつ。そこで、この講義では、このような社会学独自の社会現象の見方、考え方、また基礎的な知識をテキストをもとに理解し、考えていくこととしたい。

〔教科書〕安藤喜久雄ほか編『社会学概論』
(学文社)

〔参考書〕安藤喜久雄ほか編『わかりやすい社会学』(学文社)

統 計 学

飯 塚 仁 之 助

第Ⅰ編 社会統計学の発達過程

第Ⅱ編 社会統計理論

第1章 社会統計学の意義、第2章 統計集団、

第3章 大数の法則、

第4章 大量観察法

第Ⅲ編 統計分析法

第1章 記述統計

第1節 平均、第2節 散布度、

第3節 歪度、第4節 指数、

第5節 相関

第2章 推測統計

文化人類学

加 治 明

文化人類学とは人類の文化や社会を研究する学問である。ただしこの場合の文化とは広い意味で使われ、人類の生活様式を指し、その範囲は経済・宗教・芸術・道徳等人間生活のさまざまな分野に及んでいる。いっぽう、この学問の特色は、今まで世界各地の「未開」民族の文化や社会を実地に調査、研究し、さらに比較研究等を通して理論化してきたことだが、近年は次第に文明社会も取り扱うようになり、現在では人類全体の文化や社会を研究対象にしていると言える。講義では、人類学（自然人類学と文化人類学）の目的と範囲、経済形態、社会組織、呪術と宗教、政治と法、文化の動態等について解説するが、学生諸君がその内容を身近なものとして受け入れられるよう努力していきたい。

〔教科書〕吉田禎吾・寺田和夫著『人類学入門』（東京大学出版会）¥1,957

文化人類学

蒲 原 大 作

文化人類学は、人類を人文科学的に研究する学問である。その出発点は、各民族独自の文化要素を比較研究することであり、そのため研究対象には、その伝統文化を純粋な形で保っていることの多い未開民族（未開社会）が選ばれることが多かった。しかし最近では、これが文明社会にも応用され始めている。

本講座でも、元来の方法である未開社会を中心に講義を進めて行くが、文化の研究というものを、より身近に感じてもらうためにも、誰もが知っている文明社会の事例などをおおいに取り入れて行きたいと考えている。

〔教科書〕蒲生正男・祖父江孝男編『文化人類学』（有斐閣双書）

文化人類学

村 武 慶

私達は、ややもすると、自分達の生活様式、家族・親族の形態、自分達の宗教を最高のものと思いがちであるが、必ずしもそうではないことを、いろいろな民族、社会を比較して学んでいきたい。

〔教科書〕『文化人類学を学ぶ』（有斐閣）

¥1,100

〔参考書〕『文化人類学』（有斐閣双書）

経 済 学

小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、現代経済学の成果をも考慮して解説を行なう。

〔教科書〕未 定

自 然 分 野

自然科学概論

松 野 正

現在、地球規模の視点から取り上げられている環境問題について自然科学と社会科学の境界領域に焦点を当ててみたいと思う。

〔参考書〕レスター・R・ブラウン『地球白書』'90～91（ダイヤモンド社）

大来佐武郎監修『地球規模の環境問題 I・II』（中央法規）

自然科学概論

穴 瀬 真

現代科学は自然から叡知を学び、文明を築き、物質文明は人間に物質の豊かさを与えてくれた。それらのものの恩恵によって、われわれは豊かに生活しているといえるが、また大きな問題を投げかけているともいえる。

したがって、これらのものの知識を身につけ、さらにその中から未来に向けての在り方、特に環境問題について、自然科学、社会科学の双方から論述する

〔参考書〕大来佐武郎監修『地球規模の環境問題 I・II』（中央法規）

自然科学概論

綾野雄幸

前半では、自然科学とはどういうものであるか、それは人間の歴史の中でどのようにして生まれ、発展してきたかについて解説し、後半では、日常生活との関連を重視し、私の専門である食を中心に的をしぼり、食べ物について、最新の科学・技術、食生活、将来の展望などについて述べる。

〔教科書〕小島道也・伊東正編『食べ物の科学（NHKブックス）』（日本放送出版協会）¥750

心理学（法律）

板津裕己

心理学は、人間の諸行動を科学的に研究することによって、「人間とは何か」さらに「自分自身」を明らかにしていこうとする学問である。本講義では、まず最初に心理学研究の輪郭について述べた後、感情・欲求・パーソナリティ・社会的行動・犯罪や非行への心理学的アプローチなどいくつかの研究領域について話を進めていくつもりである。

〔教科書・参考書〕中村昭之編著『心理学概説』（八千代出版）¥1,500

地学

宇和川正人

気、水、地および生物圏を通じて人類とのかかわりあいを主軸に解説する。あわせて、自然環境の保全に関する諸問題について考察する。

〔参考書〕その都度紹介する。

心理学（政治）

板津裕己

本講義では、心理学研究の輪郭・感情・欲求・パーソナリティ・社会的行動など、いくつかの研究領域について述べていく。今年度は、個人・集団行動、流言や普及過程などの集合心理現象を扱う社会的行動の問題について時間をかけてみたいと思う。

〔教科書・参考書〕中村昭之編著『心理学概説』（八千代出版）¥1,500

地学

小池一之

地球の歴史の中で人類が出現して以来の地球環境の変遷についてのべる。出来るだけスライド、ビデオなどを使用し、地球の姿を鮮明に説明したい。

〔教科書〕日本第四紀学会編『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』（古今書院）¥2,200

心理学

高橋良博

心理学を初めて学ぶ者を対象として、なるべく日常的な問題に即しながら、心理学の主要な領域と、その研究方法についての知識を深め、人間の心理学的理解に興味を持ってもらう事を目的に講義を進めてゆく予定である。

また、講義の中で随時供覧実験などを折り込みながら心理学研究の雰囲気も伝えたい。

〔教科書〕中村昭之監修『心理学概説』（八千代出版）¥1,500

地学

漆原和子

前期は、主として日本列島の生いたちについて説明する。後期は、最も新しい地質時代である第四紀において人類がどのように自然環境の変遷に対応してきたかについて説明する。

〔教科書〕『日本の地形』（岩波新書）

〔参考書〕『自然環境の生いたち—第四紀と現在』（朝倉書店）

コンピュータ概論

三好重明

コンピュータとは何かという問題から始めて、アルゴリズムの設計、アルゴリズムの理論、コンピュータ（ハードウェア）の構造、システムソフ

トウェア等の基本的部分を学びながら、実際にプログラムを組んで、コンピュータというものを概観したい。プログラム言語としては、BASIC と Pascalを用いる予定である。

〔教科書〕講義の際指定する。

コンピュータ概論

竹 田 洋 一

コンピュータとはいかなるものかという基礎知識の把握とパソコン言語の基本であるBASIC言語に基づくプログラミング技術の習得を目的とする。コンピュータの基本概念とシステムの解説、並びにBASIC文法の説明を中心とした講義と実際にパソコン(PC9801)を自分で操作する実習を並行して行なう。最終的には、コンピュータに対する慣れ親しみを持つとともに簡単なプログラムを自分で書けるようになることを目標に置く。

〔教科書〕高作義明著『入門BASIC』

(アスキー出版局) ¥1,500

〔参考書〕必要に応じて適宜紹介する。

生 物 学

清 水 善 和

複雑多岐にわたる生物学の各分野の内容を、生命の起源から人類の誕生に至るまでの生物進化の概念を縦系に、また近年発展の著しい遺伝子を中心とした分子生物学の知識を横系に配して統一し、大系化された生物学の基礎知識の修得をめざす。また、折りにふれてバイオテクノロジー、脳死、生殖革命などの現代的な問題についても言及する。

保健体育科目（共通）

保健体育理論

大石 武士

体育概念及び保健的な面について。

有意義な生活を送るために体力を高めなければならぬと考えるが、そのための方策について講義を進める。

保健体育理論（再クラス）

牧野 茂

健康の正しい認識、健康を阻害する因子、健康・体力づくりを中心テーマとし、具体的な事例又は話題をとりあげながら授業を展開する。

保健体育理論

宮沢 栄作

心身両面からの健康の条件と、それともなう身体運動の意義について、併せてスポーツと体育の概念的ことごとらについてふれていく。

保健体育理論

竹田 幸夫

体育・スポーツに関する基礎的な知識についての講義を行なう。とくに、スポーツ運動学の立場から人間の運動の様々な特徴を具体的な例によって解説する。また、現代における社会生活と健康・スポーツとの関わりを考えていく。

〔教科書〕 駒沢大学保健体育部編『保健体育概論』
（カツサ出版部）¥1,700

〔参考書〕 白石 豊編『スポーツ上達の基礎理論』
（自由現代社）¥1,200

保健体育理論（再クラス）

長濱 友雄

科学技術の発達と共に人間はだんだんと身体を動かすことが少なくなっている。医学の進歩とともに寿命も大巾にのびて高齢化社会をむかえている現在、我々はそれにどのように対応し、健康で

随 意 科 目 (共 通)

比較思想特講

佐々木 宏 幹

欧米とアジアの思想を巨視的に取り扱った諸文献を取りあげ、内容を紹介するとともに、アジアの諸民族と文化、とくに宗教文化に焦点をおき、日本人の思考や行動の様式に見られる諸特徴を比較文化論的に考察したい。

比較思想特講

洗 建

法律と宗教のかかわりについて考察する。法律が規範の体系である以上、社会で主要な伝統となってきた宗教の世界観や人間観と無縁ではあり得ない。東西の宗教文化と日本の近代法をめぐる問題について考える。

〔参考書〕随時指示する。

ドイツ語F

松 本 洋 子

ドイツの新聞、雑誌 (Die Zeit, Die Frankfurter Allgemeine, Der Spiegelなど) の論評を読みながら、ドイツ語の読解力をつけて行く。同時にドイツの歴史、社会についての理解を深めて行きたい。テキストはプリントで配布する。

ドイツ語FLL (初級)

小林 ゲアリンデ

生きたドイツ語に触れ、聴き取り能力をつけることをめざす。そして基本的な語彙や文型を身につけ、ドイツ語の基礎的な表現力を養成し、簡単な日常会話ができるようにしたい。テキストは教室で適宜配布する。

ドイツ語FLL (中級)

松 岡 晋

本講義はFLL (初級) 終了者を対象とするが、時間割りその他の都合でそれを未履修の学生も、もちろん受講できる。また初級・中級の両方を同時に履修してもかまわない。

教材は、カセット・テープを予定しているが、受講者の希望により変更する場合もありうる。ドイツ語のヒアリングと基本的構文を用いての会話能力を習得したい意欲的な学生の受講を希望する。

フランス語F

遠 山 博 雄

前期については語学のレベルを中級から上級に引き上げることを第一目的とし、フランス語の文章を欲張らずにじっくりと読んでいきます。テキストは参加する学生諸君の希望を聞いてから、また所属学部を考慮にいれて、第一回の授業の時に決定します。後期に関しては、前期授業による語学知識の深化をふまえて、再度学生諸君と相談の上教材を選択するつもりです。

フランス語FLL (初級)

加 藤 節 子

現在フランス留学中のため、4月の第一回授業で指示いたします。

フランス語FLL (初級)

M. マルタン

初心者のための実用的なフランス語会話です。やさしい聞きとり練習や文章パターンの習得を通

じて、基礎的会話に必要な表現能力を養成することを目的とします。テキストは教室で配布します。
〔教科書〕『Entrée Libre』

フランス語 F L L (中級)

M. マルタン

初級会話にやや慣れた学生のための実用会話。初級会話を簡単に復習したあと、下記の教科書を使って、少し高度な聴きとり、及び表現の練習をします。
〔教科書〕『Avec Plaisir 1』

中国語 F

釜屋 修

対象は、中国語Ⅱ単位取得者もしくはそれ同等を実力を有する人。今年度は小小説(ショート・ショート)や新聞ニュースなどヴァリエティに富んだ教材を扱いたい。

中国語の読解力、文章解析力に磨きをかけ、現代中国社会の状況に興味をもつ方々の受講を歓迎する。

〔教科書〕プリント配布。
〔参考書〕随時指示。

中国語 F L L (初級)

釜屋 修

ビデオ教材を中心としたヒアリング、会話を行う。中国語Ⅰ、Ⅱを修得した人で、日常会話能力の基礎をかため、一層の向上をめざす。同時に発音の矯正、文型の復習なども行うようにしたい。
〔教科書〕ヒアリングによるノート方式。

中国語 F L L (中級)

松本 丁俊

中国語 F L L 初級を終えたもの又は中国語を一年以上履修したものを対象とする。会話を中心として授業を進めます。

〔教科書〕必要に応じて教場でプリントを配ります。

スペイン語 F

ソニア・エレロ・ガルシア

正規授業の1・2年次でスペイン語を修了した学生を対象にフリートーキングの形式で、スペイン語圏世界の文化・政治・風俗・社会の現状を、新聞その他の教材を利用して授業を行います。
〔教科書〕特に指定しません。

スペイン語 F L L (初級)

ホワン・ナバロ

初心者を対象に、スライドやビデオを見ながら、やさしい日常会話を勉強します。正規授業のスペイン語を履修している学生の受講を望みます。

スペイン語 F L L (中級)

ホワン・ナバロ

前年度 L L 初級を終えたもの、またはそれと同等の学力を身につけているものを対象に、ビデオを見ながら、日常会話を勉強します。

ロシア語 F

杉山 秀子

本講座はロシア語初級課程を終えたものを主たる対象とする。ロシア語の読解力と表現力を身につけるための平易な読みもの — 最新版のアガニョーク、諷刺漫画(クロコディル)、スポーツニクなどをさまざまな角度からとりあげ、同時に、現代ソ連におけるペレストロイカの動向を探っていくきたい。

〔教科書〕プリントを教場で配布。

ロシア語 F L L (初級)

池田 ガリーナ

テキストに従いやさしいロシア語の日常会話を

学習する。正しいロシア語の発音やイントネーションを練習し簡単なロシア語の表現力を身につけることを目的とする。

〔教科書〕教場にて指示。

ロシア語F L L (中級)

池田 ガリーナ

初級課程で得た知識を土台に更にロシア語独得な生の言いまわしや、日常会話のイントネーションや、平均的速度になれてもらい、自由な発話への第一歩となる様に準備したい。

〔教科書〕教場にて指示。

法律学科

基礎教育科目

法学概論 (佐々木 信)	48
法学概論 (大久保 治男)	48

専門教育科目

1 年次必修科目

憲 法 (齊藤 寿)	49
民 法 I (河野 弘矩)	49

1 年次選択科目

民法IV(1) (青山 尚史)	49
-----------------------	----

2 年次必修科目

行政法 I (梅木 崇)	49
行政法 I (金子 昇平)	49
刑法 I (山口 邦夫)	50
刑法 I (松村 格)	50
民法II(1) (青野 博之)	50
民法III(1) (鶴井 俊吉)	50
商法 I (関口 雅夫)	50
商法 I (山田 泰彦)	50
国際法 I (東 壽太郎)	50
国際法 I (齋藤 洋)	51

2 年次選択科目

政治学原論 (上條 末夫)	51
マス・コミュニケーション論 (安川 一)	51
政治史 (寺崎 修)	51
経済原論 (浅野 克巳)	51
裁判法 (雨宮 眞也)	51
外国法 (英米法) (佐々木 信)	52
外国法 (独 法) (山口 邦夫)	52
外国法 (仏 法) (上井 長久)	52
外国法 (社会主義法) (土岐 茂)	52

3 年次必修科目

刑法 II (山口 邦夫)	52
刑法 II (松村 格)	53
商法 II (荒木 正孝)	53
商法 II (島原 宏明)	53
民事訴訟法 I (杉浦 智紹)	53

3 年次選択科目

行政学 (福田 耕治)	53
財政学 (里中 恆志)	53
日本法制史 (大久保 治男)	54
西洋法制史 (佐々木 信)	54
国際関係論 (首藤 素子)	54
経済政策 (森岡 仁)	54
刑事政策 (齊藤 誠二)	54

比較憲法 (前期: 青山 武憲) (後期: 西 修)	55
行政法 II (齊藤 寿)	55
民法II(2) (鶴井 俊吉)	55
民法III(2) (青野 博之)	55
地方自治法 (梅木 崇)	55
経済法 (川井 克倭)	55
労働法 (佐藤 時次郎)	56
税法 (金子 昇平)	56
社会保障法 (佐藤 時次郎)	56
外交史 (首藤 素子)	56
国際法 II (齋藤 洋)	56
国際私法 (笠原 俊宏)	56
時事英語 (山下 高明)	57

3・4 年次選択科目

外書講読 (英) (島原 宏明)	57
外書講読 (英) (金子 昇平)	57
外書講読 (独) (松村 格)	57
外書講読 (仏) (荒木 正孝)	57
外書講読 (中) (3 選) (江 英居)	57
外書講読 (中) (4 選) (江 英居)	57
外書講読 (ス) (佐藤 玖美子)	58

4 年次必修科目

刑事訴訟法 (齊藤 誠二)	58
---------------------	----

4 年次選択科目

法哲学 (矢崎 光圀)	58
民法IV(2) (青山 尚史)	58
倒産法 (雨宮 眞也)	58
商法 III (山田 泰彦)	59
知的財産権法 (盛岡 一夫)	59
民事訴訟法 II (梶 善夫)	59
政治思想史 (小林 正敏)	59

法 律 学 科

基礎教育科目

法 学 概 論

佐々木 信

法学部一年次生にとって通常要求される今日の法学に関する基礎知識、基礎理論の概略、およびこれらに関連する今日の多様な法的諸問題の考察について必要と考えられる法学方法論の入門的概説を主内容とする。同年次および次年次以降の学習にとって必要な法学学習の精神的準備度の向上が狙いである。

〔教科書〕佐々木 信『法学・上』（成文堂）

※未定

〔参考書〕授業の折、適宜指示する。

法 学 概 論

大久保 治 男

法学部で学んでいこうとしている諸君に必要な最小限の基礎的概念や理論を概説する。法とは何か、法の目的、法の根拠、法源、法の種類、法の解釈、法の効力、法と国家などの総論と民法、刑法等全体を鳥瞰し2年次以降の法学の各講義がスムーズに受け入れられるべく入門的ガイドを講ずる各論とよりなる。現代社会の諸特質もふまえ、社会が繁栄し、各個人と全体との調和のために最大公約数としての法秩序をいかに合目的的に運用していかねばならないかを多角的に分析し、これらの背景になっている法史的、法哲学的、法社会学的問題にふれたり、アップ、ツー、デイトの事例にまで具体的に展開して受講生に法学に対する興味と意欲を起させるよう配慮する。

〔教科書〕大久保治男著『法学概説』（芦書房）

〔参考書〕水辺編・大久保他共著『演習ノート法学』（法学書院）

大久保治男著『家族関係』（芦書房）

専門教育科目

1 年次必修科目

憲法

齊藤 寿

「基本的人権論」と「統治機構論」を中心に、学説・判例・事例研究等を通して、体系化した講義を続け、基本的・強靱な思考力と科学的な創造力とを養いたいと思う。前者の「基本的人権論」では、自由権・平等権・人身保護権・救済権・参政権・社会権などについて講義し、後者の「統治機構論」では、国会・内閣・裁判所・自治体・財団などについて講義する。

〔教科書〕『憲法原理の分析と展開』、『憲法論理の展開』、『憲法要論』など、拙著の中から、講義の際、選択・指示する。

民法 I

河野 弘 矩

本講義は、民法第一編「総則」を対象とする。教科書および参考書については、未定。

1 年次選択科目

民法 IV (1)

青山 尚 史

生活の基礎であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最少限度の説明、そして親族法に大部分の時間を

充て、最後に時限の残余状況により相続法の概要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『親族法講義』（啓文社）

2 年次必修科目

行政法 I

梅木 崇

行政法学の基礎理論を具体的事例を通じて理解することを目的とする。当然のことであるが、最高裁をはじめとする裁判所の判例を参照しながら、具体的な説明を行い、それを通じて行政法の一般理論の理解に資する。また、すぐれて今日的な問題の理解も必要と思われるので、この点にも意を用いる。

〔教科書〕梅木他著『行政法体系』

〔参考書〕梅木著『やさしい行政法』（有斐閣）

『行政判例百選 I, II』

行政法 I

金子 昇 平

行政法の総論的問題、すなわち行政法概念、行政法の存在形式、行政立法、行政計画、行政手続、行政指導、行政契約、行政強制、行政調査、行政上の損害賠償・損失補償、行政救済手続、行政事件訴訟法等に関する問題を、個別的、具体的に検討する講義を試みる。

〔教科書〕原田尚彦『行政法要論』〔全訂版〕

（学陽書房）¥2,500

〔参考書〕塩野 宏・室井 力編『行政法を学ぶ(1)(2)』（有斐閣双書）

刑法 I

山口 邦夫

ドイツ刑法を継受した、わが国の刑法を理解するにあたって、その歴史的背景を考慮しながら講義をすすめたい。また、フランス刑法の流れをくむ旧刑法をも参考にしながら、刑法総論の解釈学を行う。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕山口邦夫『一九世紀ドイツ刑法学研究』(八千代出版)

刑法 I

松村 格

前期の前半において、刑法と刑法学の全体像を罪刑法定主義・責任主義・謙抑主義といった法原則を中心に把握し、その後犯罪論を詳細に勉強していく。したがって、行為論・構成要件論・違法論・責任論・未遂論・共犯論・罪数論も、まずその大要をつかんでから後刻詳しく検討していくこととする。全体的にシステムティックな理解を中心とする。

〔教科書〕①松村 格『刑法学への誘い』(八千代出版)

②松村 格『日本刑法(総則講義案)』(八千代出版)

〔参考書〕①齊藤誠二編『演習ノート刑法総論』平成2年版(法学書院)

②『刑法判例百選I総論』(第3版)

民法 II (1)

青野 博之

本講義は、民法典の第2編「物権」の第1章から第6章までを対象として行う。不動産売買をめぐるトラブルがどのように解決されるかなど、物権変動を中心に、講義を進める。判例・学説がどのような事案でどう解決をめざしているかに関心を持って、講義を聴きにきてほしい。受講生からの質問は大歓迎である。

教科書は下記のものを使うが、ほかに自分で気に入ったものがあればそれでもよい。

〔教科書〕川井 健著『民法教室 物権法』(日本評論社)

民法 III (1)

鶴井 俊吉

民法III(1)は、民法典のうち第三編「債権」の第一章「総則」、いわゆる「債権総論」と呼ばれる部分を本講義の対象とする。

債権総論は、一般的・抽象的でよく解り難いといわれているが、それは債権をその成立の原因から切り離して抽象的に取扱い、その性質ないし効力の共通の部分の規定するものだからである。

講義では、できる限り具体的な事例などをあげて解説する予定である。

〔教科書〕遠藤・川井他編『民法(4)債権総論』(有斐閣双書)

商法 I

関口 雅夫

商法Iは、商法学のうち、「商法総則」および「会社法」を、主要な対象としている。

本講義は、平易を旨とし、商法Iを、論理体系的にかつ判例を通じて実践的に理解し、その基礎的知識を修得することを目的とする。

〔教科書〕西脇敏男著『企業法—商法総則・会社法—』(八千代出版)¥4,326

商法 I

山田 泰彦

株式会社法の体系を中心に講義し、その基本的な理解を深めることを目的とします。

〔教科書〕荒木正孝『商法講義(総則・会社法)』(成文堂)¥2,300

国際法 I

東 寿太郎

国際法の構造と機能、国際法における国家の地位と責任、地的・人的管轄権など、国際法の骨格を形成する分野について講義を行う。法原則の政治的、経済的、社会的基盤の理解の上に、法概念の確実な把握ができるよう配慮したい。

〔教科書〕小田・石本・寺沢編『新版現代国際法』(有斐閣)

国際法 I

齋藤 洋

本講座は、国際法の全体系のなかで、平和的国際関係における法領域を概観する。国際法の歴史から始めて、基礎理論、法の主体と客体、国際法行為、紛争の平和的処理を中心に、国際法の基礎知識の修得と、国際社会で実際に生きてはたっている法としての理解をめざすものである。

〔教科書〕桜井光堂『改訂 国際法』（有信堂）

を配付し、参考書等を指示する。

〔教科書〕香内三郎他『現代メディア論』（新曜社）

〔参考書〕適宜指示します。

政治史

寺崎 修

近代日本政治史上の諸事件を素材に、近代日本の形成過程をわかりやすく説明する。これまで不明とされてきた問題や、今日、比較的軽視されている問題についても言及するつもりである。

〔教科書〕開講時に指示する。

2 年次選択科目

政治学原論

上條末夫

法律学を学ぶためには、政治学の素養を欠くことができない。本講義は国家および権力をキイ概念として、政治の本質を解明することに主眼をおく。日本の政治を例示し、またそれと諸外国の政治とを比較することによって理解を深め、随時、時事問題も取り上げて興味のもてる講義内容とする。

〔教科書〕上條末夫ほか『基礎政治学』（北樹出版）¥2,300

〔参考書〕堀江 湛ほか『政治学の方法とアプローチ』（学陽書房）¥2,800

マス・コミュニケーション論

安川 一

「現代社会=文化におけるマス・メディアの位置」を主要テーマとする。最近注目を集めた出来事や話題（例えば、少女連続殺人事件、一連の天皇関連行事、セクシュアル・ハラスメント、等々）に関わるメディア現象の分析を絡めながら、マス・コミ研究の膨大な理論的・実証的蓄積を、あらためて現代社会=文化論として再構成していく。そうした中で、マス・メディアと政治過程、マス・メディアと日常生活、マス・メディアと大衆文化、メディア・リテラシーとリアリティ構成、等々の論点を浮かび上がらせていく。

基礎的なデータ等は教科書を参照。適宜、資料

経済原論

浅野克巳

現実の経済問題を念頭におきながら、現代経済学の基礎理論をできるかぎり平易に解説してゆきたい。なお、公務員試験（その他国家試験）の受験志望者には必要に応じて問題の解説も行うので、以下の問題集も用意されたい。

- I ミクロ経済学の理論
 - 1. 消費者行動の理論
 - 2. 企業行動の理論
 - 3. 市場と価格決定
- II マクロ経済学の理論
 - 1. 経済循環と国民所得の概念
 - 2. 国民所得の決定
 - 3. 経済の変動と成長
- III 現代経済学の課題と方向
- IV 経済学の生成過程

〔教科書〕浅野・荒木・浅田『エコノミックス』（成蹊堂）1988年、¥3,400

〔参考書〕青山編著『経済原論の頻出問題』（実務教育出版）1990年、¥906

裁判法

雨宮眞也

裁判所法を中心に、司法制度の組織と運用について、その理論と実態を講義する。

裁判の本質、裁判の構造、裁判の論理、裁判と法律解釈、裁判と事実認定、裁判の機能、判例の成立と意義などに特に重点を置いて講義する。

当面する司法の諸問題についても論じてみたい。

また、二年次生のためには、民事訴訟法や刑事訴訟法の予備知識を修得するための機会となるよ

うに心がけるつもりである。

〔教科書〕兼子 一・竹下守夫著『裁判法』
〔新版〕（有斐閣）¥3,200

外国法（英米法）

佐々木 信

講義内容としてはつぎを予定している。

(1)わが国と英米法 (2)英米法の諸特質 (3)英米法の構造と法源 (4)現代英米法研究諸傾向管見。
なお、本講では英米法体系Anglo-American System of Lawあるいはコモン・ロー体系Common Law Systemと称される法文化の精神と技術の基礎的な理解に力点をおくとともに、これを通じていわゆる比較法学の基本的な諸問題の省察にすこしでもすすんでいきたいと思う。

〔教科書〕佐々木 信『イギリス法学講義 上』
（成文堂）¥未定

外国法（独法）

山口 邦夫

この講義の目的は、単なる外国法のひとつとしてのドイツ法を説くのではなく、また比較法のために一国法としてのドイツ法を説くでもない。それは、わが国が明治時代以降、いくつかのヨーロッパの法を継受した歴史的事実を基礎に、わが国の諸法律および法思想に多大なる影響を与えた外国法のひとつとしてのドイツ法を講義することにある。したがって、おもに19世紀以降のドイツ法と日本の法律との関連を、「法学入門」風に講義することとなる。

前期は、憲法をはじめとするおもな法典についての概略を説明し、後期には、それらの背景となった法思想を、著名な法思想家を中心に講義を進めたい。

受講者の条件として、一年次においてドイツ語を履修したか、あるいはドイツ語に興味をもって、みずから学ぶ意欲のあることが望ましい。

外国法（仏法）

上井 長久

一般に外国法を学ぶことは、外国の法思想・法制度・法原理の意義、機能及びその歴史的、社会的背景などを探ることであり、同時にそれらを通して外国法に固有の考え方や見方を会得する

ことである。外国法の学習はまた、わが国の法理解にも役立つ。とくに、フランス法はわが国の法に対して過去においても現在においても大きな影響を及ぼしており、わが国の法を理解する上でも重要である。

本講は、主として、フランス私法を理解する上で必要な、フランス古法、革命期の法、法典編纂及びその後の変遷、自然法、権利と法、司法制度など基礎的問題を解明してゆく。適宜、わが国の法との関連もみてゆく。

〔教科書〕開講のときに、プリントを配付する。

〔参考書〕開講のときに掲げる。

外国法（社会主義法）

土 岐 茂

今年、現代中国に焦点をあてて講義する。

昨年来のソ連・東欧の激動は、そもそも「社会主義」とは何だったのか、また、これからどうなるのか、基本問題にたちかえて考えざるを得ない問題を提起した。「天安門事件」を経た中国もその例外ではない。「社会主義」をめぐる中国での論争や諸問題のありようを探る内在的検討を通じて、現代中国法の歴史と現在をふり返ってみたい。また、これによって多少なりとも社会主義法の基本概念を考えていきたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指定する。

〔参考書〕浅井 敦『中国憲法の論点』（法律文化社）¥2,000

3 年次必修科目

刑法Ⅱ

山口 邦夫

法益による犯罪の分類が、現在、通説的な説明方法となっているが、各犯罪類型のもつ歴史的背景を加味しつつ、その犯罪類型の論理構造を解明しながら講義をすすめたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

刑 法 Ⅱ

松 村 格

人工受精、脳死と臓器移植、安楽死、公害被害児、コンピューター犯罪、磁気カードの改ざん、贈収賄罪など現代まさに問題になっている重大犯罪をテーマにとりあげて、生命や暴力・傷害の概念、財産や文書の概念について全員で考えてみたいと思う。教科書の各個所にわたって同時に学習していくし、時には教科書をはなれることもあるので、毎回出席していないと理解できなくなる。

〔教科書〕松村 格『日本刑法（各則講義案）』

（八千代出版）

〔参考書〕講義で随時指示する。

商 法 Ⅱ

荒 木 正 孝

手形法・小切手法と商行為法が講義の対象であるが、授業時間の制約があるので、現代の商取引において信用や支払の用具として重要な意義をもつ手形・小切手に関する法理論や判例等を検討し、時間が許せば、商行為法にも言及することにした。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕随時指示する。

商 法 Ⅱ

島 原 宏 明

現代取引社会における金融の用具としてきわめて重要な地位にある手形および小切手について、その法理論的な構造をあきらかにするとともに、手形・小切手をめぐる実際上のトラブルとそれに対する法的解釈を、判例等を参照しながら考察していく。

〔教科書〕高島正夫『手形法小切手法（改訂版）』

（慶応通信）

〔参考書〕開講時に指示する。

民事訴訟法Ⅰ

杉 浦 智 紹

「訴訟」は訴訟法と実体法を総合する場であり、民事訴訟法学は「民事訴訟」をその学問対象とす

る。訴訟構造は、總ての審査手続の範型をなすものであるから、学生諸君は等しく研究することが必要であると思う。

講義は、判決手続を中心に、民事訴訟の基礎理論からはじめて、訴訟主体論、訴訟客体論、訴訟行為論、第一審訴訟手続論及び裁判論へと進める予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

3 年次 選 択 科 目

行 政 学

福 田 耕 治

— 国レベルでは到底管理できない地球的規模の問題が山積する現在、わが国を取り巻く行政環境も大きく変わりつつある。本講義では、こうした行政の現実と行政理論の動向にも言及しながら、わが国が直面する行政課題や諸外国から指摘される日本官僚制の問題点、国内行政の「国際化」への対応と具体的争点を分かり易く概説する。また、国際機関の行政、国際行政と国内行政との関係など、国際化時代に行政学が取り組むべき課題を理論的かつ実証的に解明することにした。

〔教科書・参考書〕講義時に適宜指示する。

財 政 学

里 中 恆 志

経済生活のなかで公共部門の関与する比重は確実に増しつつある。財政学は公共財政経済を対象とする学問であるが、そこには市場経済原理とは異なる原理が機能する。国民が財政意志の形成に参加する方法は民主的な手続をとおしてであるから、適切な財政政策の実現のためには国民が財政をコントロールするルールとその制度の背後に作用し合う諸力について理解していなければならない。このような観点から公共収入政策、公共支出政策の原理および基準を考察し、現実の財政問題に対する判断力を養う。

〔教科書〕授業始めに指示する。

日本法制史

大久保 治 男

我が国における法律文化の変遷の流れを上古時代より近代まで概説する。基本法、刑事法、財産法、家族法等の各分野につき幅広くふれ、さらに我々の意識や興味や風習・言語等の中に残る法制史的な事柄にまで展開したい。教授方法は講義の他にOHP、スライド、ビデオ等視聴覚的教材やシンポジウム方式もとり入れ楽しい法制史にして学生の研究意欲を起こさせるよう工夫する。温故知新、永劫回帰なのでもあるから我々の祖先の法律文化の沈積物を発掘、探求して価値づける。世は「歴史ブーム」である。時代考証にも役立ち、多くの話題を受講生に提供する一味ちがうユニークな法制史にしたい。学問探求には史的考察が必須前提でもあろう。

〔教科書〕大久保治男他著『日本法制史』
(高文堂出版社)

〔参考書〕大久保治男著『大江戸刑事録』
(六法出版社)

西洋法制史

佐々木 信

講義内容としてはつきを予定している。

(1)いわゆる「西洋法制史」学の形成・その学問的性格について、(2)ヨーロッパの法文化における諸要素について、(3)ヨーロッパにおける封建法の形成過程について、(4)ヨーロッパ中世における法思想の理解について。

歴史は現代の理解に資するとする考えもあることであるので、上記についてはとくに今日における理解を紹介することに力を入れたい。西洋法制史の分野では、今のところ、企画はあるものの、適当な教科書はないので、学生諸君に入手可能な史料を教材とする予定である。

〔教科書〕特に指定しない。場合によってはプリントを用意する。

国際関係論

首 藤 素 子

第1に、1950年代以降現在までの国際関係における行動主体の多様化についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対す

る援助の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕渡辺昭夫編『講座 国際政治』第4巻
(東大出版会)1989年、¥2,266

〔参考書〕細谷千博・丸山直起編『国際政治ハンドブック』改訂版(有信堂高文社)
1991年

経 済 政 策

森 岡 仁

経済政策を理解するには経済の理論的知識を必要とするが、ここでは法学部の学生諸君にも十分理解しうるように講義を進める。内容は以下のとおりである。

- I. 現代経済と経済政策
- II. 経済政策学の発展
- III. 現代経済政策の課題
- IV. 経済の成長政策
- V. 経済の安定政策
- VI. 産業組織政策
- VII. 社会均衡化政策
- VIII. 経済政策と人口政策

〔教科書〕森岡(他)『現代経済政策』
(千倉書房)¥2,300

刑 事 政 策

齊 藤 誠 二

これまで、刑事政策は、犯罪の原因を生物学的・心理学的・社会的に分析する犯罪原因論と、犯罪者をどう処遇するのか・社会から犯罪をなくするためにどうしたらよいか、ということを考える犯罪対策論からなる、といわれていた。ところが、1970年代から、ヨーロッパやアメリカでは、ふつう、この2つのほかに、法の執行の過程ないしは刑事司法のプロセスというものを分析することがくわえられるようになってきている。これは、国際的に、刑事政策を展開するには、どうしても、どういうプロセスで、犯罪者が、犯罪者というレッテルを貼られていくのか、という分析をしなければならないと考えられたためである。ここでも、こういう方向もくわえながら、わが国の刑事政策が当面する多くの問題を語っていく。

〔教科書〕(前期)齊藤 他『刑事政策入門』
(有斐閣)
(後期)森下 忠『刑事政策入門』
(成文堂)

比較憲法

(前期)青山 武 憲
(後期)西 修

比較憲法の研究は、世界各国憲法の動向を知り、かつ日本国憲法の意義、問題点を知るという点で、重要な意義を有する。講義は、英、米、仏、独、ソ、中の主要諸国の憲法体制ならびに主要項目(平和主義、議会制度等)の比較検討を中心に行なう予定である。

〔教科書〕開講時指定。

〔参考書〕開講時指定。

行政法Ⅱ

齊藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・営造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて、学んでいきます。

そして、時間的に可能であれば、生活空間(環境)形成行政法などにも、およぶ予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕『現代行政法論』(勁草書房)。

『行政法Ⅰ・Ⅱ』(評論社)など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

民法Ⅱ(2)

鶴井 俊吉

民法Ⅱ(2)は、担保物権法を対象とする。担保物権法は、資本主義経済の発展に伴って、その重要性がますます増大している。今日、財産法部門で最も変化の多いところであり、取引界の要請により、新しい法令が制定され、年々歳々進展し、そして著しく変動している。

講義では、民法典の第二編「物権」の留置権、先取特権、質権、抵当権を中心に、譲渡担保、仮登記担保等がその内容となる。物的担保制度の基礎的原理については、できるかぎりわかりやすく、具体的事例などをあげて解説する。

〔教科書〕遠藤・川井・原島他編『民法(3) 担保物権』(有斐閣双書)¥1,400

民法Ⅲ(2)

青野 博之

いわゆる債権各論について、講義する。売買、賃貸借、請負といった契約上のトラブル、事故にあった場合の不法行為に基づく損害賠償がどういうものか、について受講生自身が考えるきっかけにはなると思う。受講生の活発な質問を期待する。

教科書は下記のものを使う予定であるが、ほかに自分で気に入ったものがあればそれでもよい。

〔教科書〕藤岡康宏ほか著『民法Ⅳ 債権各論』(有斐閣)

地方自治法

梅木 崇

憲法および行政法との関連を重視しながら、地方自治法における主要な制度を解説する。また、地方自治の運営について、行政の実態と裁判所の判例をとりあげ、その理解を深める。本講の目的は、地方自治法そのものを理解させることよりも、地方自治行政という行政の具体化過程を通じて、わが国における行政権の行使に関する基礎的なものの考えかたを学ぶとともに、統治の機構について、比較的詳細に考察する点にある。その際、諸種の公務員試験の問題についても説明するよう努める。

〔教科書・参考書〕開講にあたって指示する。

経済法

川井 克倭

経済法—独占禁止法を中心として—

第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。

第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的。その他の私的独占、カルテル、企業統合、独占的状态、不公正な取引方法等について、な

るべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップトウデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕現在執筆中である。

〔参考書〕講義の中で紹介する。

川井 克倭著『カルテルと課徴金』
(日本経済新聞社)

労働法

佐藤 時次郎

労働法の全般に亘り、特に基本的な事項を中心に解説を施す。この場合、最近の重要判例等を取り上げて新しい動向等の把握に遺憾なからしめたいと考える。

〔教科書〕佐藤時次郎・原 慎一・志賀直人共著
『社会生活における労働ルール』
(蒼文社)

税法

金子昇平

租税法の基礎的原理および租税法体系についての法の仕組を明らかにすることにより、個別的、具体的な租税事件を検討しながら“あるべき租税法”とは何か、を解明していきたい。

〔教科書〕金子 宏『租税法』(弘文堂)
¥3,800

社会保障法

佐藤 時次郎

I 社会保障法総論

1. 社会保障立法の推移
2. 社会保障法の概念
3. 社会保障法の体系

II 社会保障法各論

1. 雇用保険法
2. 労働者災害補償保険法
3. 健康保険法・国民健康保険法
4. 厚生年金保険法
5. 国民年金法
6. 国家的扶助金法

上記項目に従いその要点につきノートを取らせ、問題点に関する学説、判例、裁定例及び現実を生

起した事件等に解説を加える。

〔教科書〕佐藤・慶谷・志賀共著

『社会保障法講義ノート』(蒼文社)

外交史

首藤 素子

19世紀末から第2次世界大戦に至る国際政治の展開を扱い、最終回には冷戦の起源まで進めたい。

第1部として、ドイツの国家統一にはじまる西歐列強間の勢力均衡政策の展開とその帰結としての第1次世界大戦の勃発に至る外交史の展開を講義する。

第2部として、ヴェルサイユ体制ならびに東アジアにおけるワシントン体制の形成とその崩壊の過程をあつかう。単なる事件史としてではなく、その背後にある経済的、社会的要因やさまざまな政治指導者たちの思想について理解を深め、現状認識や将来の展望に対する長期的で相対的な視野を得るような講義内容にしたい。

〔教科書〕講義において指示する。

国際法 II

齋藤 洋

現在われわれは平和を満喫し、世界中で経済活動を行ない、あるいは旅行に出かけている。しかしその一方で全世界では戦争や内乱などが数多く発生しており、われわれがそれらに巻き込まれる可能性も極めて高くなっている。その時われわれはいかに行動すべきか？いかなる権利を与えられ、義務が課せられるのか？それらを定めるのが戦時国際法である。

本講座では、戦争に対する考え方の変遷から始まり、戦時国際法上の一連の基本原則を講義することで、基礎知識の修得をめざしたい。その際、政治的な宣伝や言動に迷わされないためにも、用語及び各事項の正確な概念定義を身につけてほしい。

〔教科書〕開講時に指示する。

国際私法

笠原 俊宏

涉外的要素を有する私法上の問題の規律を目的とするのが国際私法である。講義においては、わが国の法源である法例およびいくつかの特別立法

について解説し、さらに、国際私法の展望として、画期的に変化しつつある準拠法決定の構造に論及したい。なるべく身近な問題を想定することにより、理解しやすいものとなるよう工夫するつもりである。

〔教科書・参考書〕開講時に指示する。

時事英語

山下高明

生きた英語の宝庫である英文新聞・雑誌は流動する内外情勢を把握するための絶好の手がかりを提供するものである。英文紙を読解できるようになることは新しい21世紀に要求される国際人にとり欠くことのできない条件である。

本講では最新の内外英文新聞・雑誌の記事・論評を資料として時事英語に特有の語法やスタイルを解明し、あわせて重要なニュースの意義と背景についても解説をくわえる。

〔教科書〕山下・寺沢共編『英文時事ニュース読解』（古今書院）

安藤・加藤共著『新大学英文法教本』（英潮社新社）

3・4年次選択科目

外書講読(英)

島原宏明

イギリスまたはアメリカの私法に関する基本書の中から記述の平易なものを選んでいっしょに読んでいくつもりである。具体的な授業の進め方については受講生諸君と相談して決めたい。

〔教科書〕プリントを配布する。

外書講読(英)

金子昇平

前期はアメリカ憲法を逐条的に読み、基本的人権と統治機構に関して、どのような憲法問題が存在するのかを明らかにしていきたい。後期はアメリカ最高裁判所の判例を読み、判例の研究にウエイトを置いた講義をしていく。

〔教科書〕開講時にプリントを配布する。

〔参考書〕講義内容に応じて適宜指示する。

外書講読(独)

松村格

法理論・法哲学・一般法学・刑法学に関する書物を教材にして講読したいと思っている。勉強してみたいと思う人は、積極的に参加してみるとよいと思う。まずは門を叩くことが大事であり、何事もそこから始まるということである。

〔教科書〕授業が始まってから指示する。

外書講読(仏)

荒木正孝

わが国の法制度は、その多くが欧米諸国の影響を強く受け、またはそれらに倣って作られたものであるから、母国における法制度の内容や法的思考等を学ぶことは、わが国の諸制度を理解するうえで重要な意味がある。この授業では、原書の読解によってフランス法の仕組みやその背景について理解を深めてゆく。受講者は、毎回十分に下調べをして出席するように希望する。

〔教科書〕受講者と相談して決める。

外書講読(中)(3選)

江英居

社会主義中華人民共和国の新憲法と三民主義中華民国の「五権憲法」を解説しながら、国家政治機構および国民の基本的人権についての規定を比較しながら授業を進めていく。さらに、政治と法律に関する文章の文型を解説する。

〔教科書〕江英居著『中国憲法』（大学書林）

〔参考書〕『六法全書』（台北 三民書局）

『中華人民共和国法律滙編』

（北京 人民出版社）

外書講読(中)(4選)

江英居

社会主義中華人民共和国における現在実施されている中華人民共和国刑法についての特徴を講読し、特に、死刑の執行猶予制、主刑の一つである

保護観察の設け及び反革命罪についての規定を解説する。さらに、犯罪と刑罰に関する専門語を説明する。

〔教科書〕江 英居著『中国刑法』（公論社）

外 書 講 読 (ス)

佐 藤 玖 美 子

スペイン最大の発行部数を誇るEl País紙の、特に政治、社会面の講読を行う。学生諸君が、1、2年で習得したスペイン語の知識の深化、発展をはかると共に、社会主義国である一方で王制を存続させている特殊な国、スペインの政治、社会情勢をさぐってみよう。

〔教科書〕プリント

4 年次必修科目

刑事訴訟法

齊 藤 誠 二

刑事訴訟の制度は、その時代のその国の社会的・文化的・政治的な要請を鋭く反映する法制度である。ここでは、刑事訴訟の流れにそって現代のわが国の刑事訴訟が当面しているいろいろの問題を分析しながら、わが刑事訴訟が歩む方向を考えていく。また、刑事訴訟はひじょうに実践的な性格をもつものでもある。そこで、ここでは、ただ、刑事訴訟の理論的な分析ばかりではなくて、実際に訴訟の場でおこなわれている姿が多く語られることになるであろう。さらに、現代の刑事訴訟は、刑事司法という形で、刑事政策と深くむすびついている。ここでは、いつも、こういう方向でのアプローチも心掛けていくつもりである。

〔教科書〕追って教場で指示する。

〔参考書〕松尾浩也『刑事訴訟法』

〔上・下I・II〕(弘文堂)

鈴木茂嗣『刑事訴訟法』

(青林書院新社)

横川敏雄『刑事訴訟』(成文堂)

福井 厚『刑事訴訟法』(有斐閣)

4 年次選択科目

法 哲 学

矢 崎 光 圀

現代は変動の時代である。法もまた変わる。たとえばヨーロッパ共同体・EC法のような新しい法モデルの出現！情報化社会、高度技術化社会…といわれる現状のなかで法はどんな役割を果しているか、また果すべきであるか？このような疑問はすでに「法とは何か」と「法はどう在るべきか」という法哲学上の基本的な問いかけを含んでいる。かたい言葉でいうと、法の定義、概念規定と法の価値、理念の課題であるが、それらは法哲学が取りくむ数多い課題の若干にすぎない。こうしてみると、法哲学は私たちが身边をふり返り、それと法とのかかわりを模索し思案し反省するところからはじまるのではないか。こういう角度、法と人間の角度から上記の課題のほか、法の解釈の課題などに少しずつ入ってみよう。

〔参考書〕矢崎光圀『日常世界の法構造』

(みすず書房) ¥3,000, その他。

講義の早い段階で参考文献の紹介をする。

民 法 IV (2)

青 山 尚 史

民法IV-(2)は、相続法(民法典第5編 882条～1044条)である。親族法が人間生活の基礎であり根源をなすところの種族保存の生活関係を直接規律する純粹身分法を中心とするのに対して、相続法は親族生活の裏づけをなす身分財産法が中心となる。民法第5編は、大別すると、相続法と遺言法そしてこの両者の調節機能を果たしている遺留分法とから成り立っている。

〔教科書〕鍛冶良堅著『相続法講義』(啓文社)

倒 産 法

雨 宮 眞 也

倒産は、社会の縮図であり、生きたドラマである。倒産において、経営者、債権者、従業員その他関係者の利害は、最も鋭くからみあい対立する。

これを解きほぐし、妥当な処理を行うためには、破産法、会社更生法のみならず、民法、商法、借地借家法、労働法、民事訴訟法、民事執行法などを総合的に活用していかなければならない。倒産法を学習することは、これらの語法の復習、集約としての意味をも持つであろう。

〔教科書・参考書〕開講時に指示する。

商 法 Ⅲ

山 田 泰 彦

複雑・高度化した社会生活は、様々な危険に満ちている。危険が顕在化し、自分がその被害者となったり、あるいは加害者の立場に心ならずも立ったとき、自己の被った損害をどのように補填し、またどのようにして損害を賠償すべきか。これを社会的なリスク配分のもと、社会的に担うものとして保険法がある。現代生活において、保険法の果す役割は、ときとして決定的ですらある。また、四囲を海にかこまれた日本が、国際取引を積極的に展開することで、今日の経済大国に結実したのは周知であるが、こうした国際取引の基礎となるものに、海上運送があるのであって、これに関する法律の意義は大きい。前期は、保険法を、後期は海商法を概観する。

知的財産権法

盛 岡 一 夫

企業が発展するために必要なことは、優秀な技術を開発することであり、そのために企業は巨大な投資をしている。そこで、前期は、発明はどのような手続によって特許権を取得するのか、従業者が発明した場合の法律関係、特許権の保護、ノウ・ハウ、トレード・シークレット（企業秘密）およびコンピュータ・ソフトウェアの保護等について講義する。後期は、意匠法、商標法等の工業所有権法および著作権法について解説する。

〔教科書〕盛岡一夫『工業所有権法概説』

（法学書院）

民事訴訟法Ⅱ

梶 善 夫

民事訴訟法第3編上訴および民事執行法について講義する。年間講義予定時間のうち3分の1を上訴に、3分の2を民事執行法にあてる。平成3

年1月1日から施行された民事保全法についても触れる予定である。第1回目の講義の時に年間の講義予定表を配付する。

〔教科書〕特に指定しない。

〔参考書〕新堂幸司・竹下守夫編『基本判例からみた民事執行法』（有斐閣）

政治思想史

小 林 正 敏

プラトン、アリストテレスから現代に至る政治思想史、政治学説史について、思想家を中心に、その時代的背景にもふれながら論述する。

〔教科書〕特定のテキストは用いない。

政治学科

基礎教育科目

基礎政治学 (福田 耕治)	61
基礎政治学 (前田 英昭)	61
基礎政治学 (小林 正敏)	61

専門教育科目

1 年次必修科目

憲 法 (竹花 光範)	62
-------------------	----

1 年次選択科目

海外政治事情 (東アジア圏) (竹花 光範)	62
海外政治事情 (西欧圏) (佐藤 恭三)	62
海外政治事情 (東欧圏) (小林 正敏)	62
海外政治事情 (北米圏) (小堀 訓男)	62
海外政治事情 (中近東・アフリカ圏) (山下 高明)	62
海外政治事情 (東南アジア圏) (首藤 素子)	63

2 年次必修科目

政治学原論 (福岡 政行)	63
日本政治史 (寺崎 修)	63
経済原論 (浅野 克巳)	63
行政法 (総論) (梅木 崇)	63
国際法 (東 壽太郎)	63

2 年次選択科目

社会学原理 (渡辺 源樹)	64
マス・コミュニケーション論 (安川 一)	64
刑 法 (山口 邦夫)	64
民 法 (林 幸司)	64
外 国 法 (英米法) (佐々木 信)	64
プロゼミ (小林 正敏・小堀 訓男・ 寺崎 修)	64
プロゼミ (早川 純貴)	65
プロゼミ (福田 耕治)	65
プロゼミ (前田 英昭)	65

3 年次必修科目

政治社会学 (上條 末夫)	65
行政学 (福田 耕治)	65
国際政治学 (小堀 訓男)	65
外交史 (首藤 素子)	66
政治制度 (前田 英昭)	66

4 年次必修科目

政治思想史 (小林 正敏)	66
---------------------	----

3・4 年次選択科目

外書講読 I・II (英) (首藤 素子)	66
外書講読 I・II (英) (佐藤 恭三)	66
外書講読 I・II (英) (竹花 光範)	66
外書講読 I・II (独) (早川 純貴)	66
外書講読 I・II (仏) (荒木 正孝)	67
外書講読 I (中) (3 選) (江 英居)	67
外書講読 II (中) (4 選) (江 英居)	67
外書講読 I・II (ス) (佐藤 玖美子)	67
政治心理学 (上條 末夫)	67
財 政 学 (里中 恆志)	67
国際経済学 (徳永 俊明)	67
日本法制史 (大久保 治男)	68
西洋法制史 (佐々木 信)	68
西洋政治史 (前期: 鬼柳 勝一) (後期: 浦田 早苗)	68
福祉国家論 (福岡 政行)	68
経済政策 (森岡 仁)	68
刑事政策 (齊藤 誠二)	69
比較憲法 (竹花 光範)	69
行 政 法 (各論) (梅木 崇)	69
経 済 法 (川井 克俊)	69
商 法 (山田 泰彦)	69
労 働 法 (佐藤 時次郎)	69
比較政治学 (福岡 政行)	70
国際関係論 (首藤 素子)	70
国家安全保障論 (小堀 訓男)	70
宣伝広告論 (上條 末夫)	70
政 党 論 (早川 純貴)	70
議会関係法 (前田 英昭)	70
地方自治法 (梅木 崇)	71
出入国管理論 (竹内 昭太郎)	71
時事英語 (山下 高明)	71

政治学

基礎教育科目

基礎政治学

福田 耕 治

政治学の幅広い眺望を心得て、基礎的な概念や考え方になじんでおくことは重要である。現代の政治現象を理解するために、本講義ではまず伝統的な政治学の基礎である政治制度や政治思想、政治権力論などを概説する。次に、政治意識と政治参加、世論と圧力団体、政党と選挙、議会と政治家、官僚制および国際関係などに関する問題を取り上げ、政治の動的な側面や政治と行政の関係を明らかにする。その際、政治過程論、政治行動論の観点からする現代政治学の分析手法についても検討を加える。このような作業を通じて、デモクラシーの理念と現実との間のギャップや現代政治の構造と過程の問題状況を探究することにした。

〔教科書・参考書〕講義時に適宜指示する。

基礎政治学

前 田 英 昭

本講座では、政治学を学ぶ上で必要な基礎知識を身につけるとともに、今日の政治現象を考えながら、政治学の専門分野に進むための準備ができるよう心がけたい。

参考文献は随時紹介する。

教科書は使わない。

基礎政治学

小 林 正 敏

本講座は「政治学入門」のために設けられているものである。従って、まず政治学がいかなる学問であるかを理解するとともに、専門的な政治の諸領域を学ぶについて必要とされる基礎的知識を

身につけることを目的としている。

また本講座は2年次に配当されている政治学原論と不可分の関係にあり、基礎的、全般的であると同時に、選挙制度、国際機構、政治思想、民主政治論などにはとくに力をいれ、政治学原論と合わせて全体をカバーすることになっている。講義にあたって、随時、時事的な問題も取りあげて、理論と現実がかみ合うように心がけたい。

〔教科書〕小林正敏他著『政治学講義』（成文堂）

専 門 教 育 科 目

1 年次必修科目

憲 法

竹 花 光 範

先ず、日本国憲法成立の経緯と法理について述べ、ついで日本国憲法の特質について述べる。その後、日本国憲法本文の各条について講義するのであるが、時間的に逐条的講義には限界があるので、各章ごとに規定内容と問題点を整理し、日本国憲法の存在性格が理解できるような講義とした。

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

パ政治を歴史的にとらえていこうというわけです。とりあえず、近代ヨーロッパ史の大きな“うねり”となった19世紀中葉を講義のスタートとします。

〔教科書〕特に指定しません。

〔参考書〕R. Langhorne, *The Collapse of the Concert of Europe* (Macmillan, 1981); F. H. Hinsley, *Power and the Pursuit of Peace* (C. U. P. 1967)

海外政治事情（東欧圏）

小 林 正 敏

1989年以來の改革によって、政治的概念としての「東欧」は大きく変容した。この講義では、多様化する旧「ソ連・東欧圏」諸国の政治を中心に、その国際関係、社会構造等にも論及することにした。

1 年次選択科目

海外政治事情（東アジア圏）

竹 花 光 範

本講義の中心は、中国の政治事情である。時間が許せば、その他、南北朝鮮、モンゴルについても論及したい。なお、講義の内容は、過去から現在にいたる政治事情の変遷が中心になるが、できるかぎり、時事的な問題もとりあげてコメントしていくつもりである。

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

海外政治事情（北米圏）

小 堀 訓 男

前期は、アメリカ史を概観し、「アメリカの民主主義」にキリスト教が、どのような影響を与えたか、を中心に考察する。

後期は、ルーズベルト大統領からレーガン大統領までの、アメリカ政治の特質を、各大統領のおこなった政策決定という側面から観察して、アメリカ政治を理解する。

〔教科書〕講義中に指示する。

海外政治事情（西欧圏）

佐 藤 恭 三

日々生起する事象を知るだけで、現実がわかるわけではありません。現実の基底には“時”の流れがあります。この講義をこういう視点から取り組むつもりです。つまり変貌著しい現代のヨーロッ

海外政治事情（中近東・アフリカ圏）

山 下 高 明

世界最大の産油地帯中近東・北アフリカは複雑な各国政情にくわえ米・ソ超大国の戦略がからみ合うきわめて重要な地域である。しかもこの地域ではパレスチナ紛争、イラン革命、イラン・イラク戦争、イラクのクウェート侵攻と世界的な事件が続発し現代世界で最大の紛争多発地帯となっている。

本講では中近東情勢の現状を最新資料によって分析し、その歴史的背景と将来動向の解明を試みる。

海外政治事情（東南アジア圏）

首藤素子

今年度はASEAN諸国を各国別にとりあげ政治史の展開と現状の問題について概観する。次に、国際関係における東南アジアそしてアジアNIC Sの政治経済の問題を扱う。日本との関わりが深いにもかかわらず、学生からあまり関心をもたれることのなかった東南アジア地域に対して何らかの知的関心あるいは基礎的な理解を得てほしいと願う。

〔教科書〕有斐閣選書『東南アジア現代史』
¥1,700

〔参考書〕講義において随時指示する。

2 年次必修科目

政治学原論

福岡政行

本講座は政治学全体の理論的位置づけを行うもので、多角的な分析を行う。

行政国家＝福祉国家＝大衆社会という今日の状況の下で、議会デモクラシーをどのように理解するのが重要なポイントになる。システム分析・文化論的アプローチ・社会化理論などを中心に、前期は理論的分析を中心に行う。

後期は、政治学のかかえる今日の課題について、応用科学としての政治学原論と考え、講義を進めてゆく。

日本政治史

寺崎修

明治維新以降の近代日本政治史を講義する。ただし、近代日本政治史上の諸問題に重点をおくので、基礎的知識については、概説書により予習しておくことを希望する。

〔教科書〕開講時に指示する。

経済原論

浅野克巳

現実の経済問題を念頭におきながら、現代経済学の基礎理論をできるかぎり平易に解説してゆきたい。なお、公務員試験（其他国家試験）の受験志望者には必要に応じて問題の解説も行うので、以下の問題集も用意されたい。

I ミクロ経済学の理論

1. 消費者行動の理論
2. 企業行動の理論
3. 市場と価格決定

II マクロ経済学の理論

1. 経済循環と国民所得の概念
2. 国民所得の決定
3. 経済の変動と成長

III 現代経済学の課題と方向

IV 経済学の生成過程

〔教科書〕浅野・荒木・浅田『エコノミックス』
（成蹊堂）1988年、¥3,400

〔参考書〕青山編著『経済原論の頻出問題』
（実務教育出版）1990年、¥906

行政法（総論）

梅木崇

行政法学の基礎理論を具体的事例を通じて理解することを目的とする。当然のことながら、最高裁判所の判例を中心とする諸種の判例を素材とする解説を行う。

〔教科書〕梅木他著『行政法体系』（啓正社）

国際法

東寿太郎

世界を構成する国家の数が増大し、国際関係の緊密化が進展するとともに、国際的規制を必要とする生活関係がますます増加している。このような状況下で、構造的な変容過程に入りつつある国際法の諸原則について、歴史的社会的視野から見なおすことに重点をおく。

〔教科書〕小田滋・石本泰雄・寺沢一編
『新版 現代国際法』（有斐閣）

2 年次選択科目

んで出席すること。

社会学原理

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

マス・コミュニケーション論

安 川 一

「現代社会=文化におけるマス・メディアの位置」を主要テーマとする。最近注目を集めた出来事や話題（例えば、幼女連続殺人事件、一連の天皇関連行事、セクシュアル・ハラスメント、等々）に関わるメディア現象の分析を絡めながら、マス・コミ研究の膨大な理論的・実証的蓄積を、あらためて現代社会=文化論として再構成していく。そうした中で、マス・メディアと政治過程、マス・メディアと日常生活、マス・メディアと大衆文化、メディア・リテラシーとリアリティ構成、等々の論点を浮かび上がらせていく。

基礎的なデータ等は教科書を参照。適宜、資料を配付し、参考書等を指示する。

〔教科書〕香内三郎他『現代メディア論』（新曜社）

〔参考書〕適宜指示します。

刑 法

山 口 邦 夫

この時間は、いわゆる実定刑法の解釈学を講義するのではなく、政治思想と関連させながら、刑事法を中心に、おもに啓蒙期以降の法思想を考察する。但し毎時限、出席することができ、さらに、こちらで指定する文庫本などを読破してくる意欲のある者の参加を望む。内容は、少人数のゼミ風にな、討論中心となる。

〔参考書〕そのつど前の週に指示する。第1回目
はプラトン「ソクラテスの弁明」を読

民 法

林 幸 司

民法典のうち第一編「総則」・第二編「物権」・第三編「債権」、いわゆる『財産法』と呼ばれる分野を対象とし、その基本的な構造の理解を目的とする。

また本講義では、重要な法制度や権利・義務が「受講生自身の日常生活とどのように密接に結びついているか」を実感できるように留意し、『鶴呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもらえよう努力していきたいと考えている。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

外 国 法 (英米法)

佐々木 信

講義内容としてはつぎを予定している。

(1)わが国と英米法 (2)英米法の諸特質 (3)英米法の構造と法源 (4)現代英米法研究諸傾向管見。なお、本講では英米法体系Anglo-American System of Lawあるいはコモン・ロー体系Common Law Systemと称される法文化の精神と技術の基礎的な理解に力点をおくとともに、これを通じていわゆる比較法学の基本的な諸問題の省察にすこしでもすすんでいきたいと思う。

〔教科書〕佐々木 信『イギリス法学講義 上』

(成文堂) 予定

プ ロ ゼ ミ

小 林 正 敏・小 堀 訓 男
寺 崎 修

プロゼミは本ゼミのための予備的な知識および研究方法について考究し、討議するものである。そこで、次のことを中心にして指導を行う。

1. 政治学一般に関する研究方法
テーマのきめ方、文献や資料の選び方およびその使用方法など。
2. 研究論文の書き方
3. 研究発表の方法
4. 各種の実地見学
政治学を学ぶにあって必要な施設・機関などの見学を適宜行う。

プロゼミ

早川純貴

前半は日本および世界の政治・経済上の重要な事件をとりあげ、毎時間二つの班にそれぞれ違う観点から問題点の報告をしてもらい、合わせてパネル・ディスカッションをおこなう。後半ではそれぞれの班が自由にテーマを決め発表・討論をおこなう。

〔教科書〕使用せず。

〔参考書〕講義時に随時紹介。

プロゼミ

福田耕治

このプロゼミでは、研究の方法、研究論文の読み方や書き方（外国語文献を含む）、討論や研究発表のしかたについて基礎的な能力を身につけ、政治や行政に対する関心を深め、各自の問題意識を養うことを目指したい。

本年度は、「1992年EC域内市場統合と日本」を統一テーマとして考察する。ECの機構と政策決定、政策実施過程の構造、ECの行財政の改革、行政官僚制の特色、欧州議会と直接選挙制度、政党、国際利益集団の機能および共通農業政策、地域政策、環境・消費者保護政策などECの諸政策とわが国のそれとの比較、ECの対外関係とわが国への影響など、政治学・行政学分野の問題を中心に取り上げてみたい。

〔教科書・参考書〕最新の文献や資料を選び、必要に応じて紹介、指示する。

プロゼミ

前田英昭

議会制民主主義の仕組みと実態の問題を中心テーマにして、本ゼミのための予備的な知識や学習、研究方法などについて考え、議論する。各種の実地見学も行う。

3年次必修科目

政治社会学

上條末夫

現代政治学の中心をなすのが政治社会学である。その対象領域は広範であり、アプローチは多様であるが、主として日本の現代政治を対象とし、そのメカニズムを多角的かつ総合的に分析する。具体的には、日本のデモクラシーのあり方に視点をおき、内閣や政党の構造、政治参加としての選挙、マス・メディアや圧力団体の機能と役割、世論の形成と機能などを取り扱う。

〔教科書〕上條末夫『政治社会学概論』

（北樹出版）¥2,300

〔参考書〕上條末夫『戦後日本の総選挙』

（北樹出版）¥2,300

行政学

福田耕治

一国レベルでは到底管理できない地球的規模の問題が山積する現在、わが国を取り巻く行政環境も大きく変わりつつある。本講義では、こうした行政の現実と行政理論の動向にも言及しながら、わが国が直面する行政課題や諸外国から指摘される日本官僚制の問題点、国内行政の「国際化」への対応と具体的争点を分かり易く概説する。また、国際機関の行政、国際行政と国内行政との関係など、国際化時代に行政学が取り組むべき課題を理論的かつ実証的に解明することにした。

〔教科書・参考書〕講義時に適宜指示する。

国際政治学

小堀訓男

国家、権力、国際政治の主体、国際政治の客体、国際政治における権力と道義、国内政治と国際政治等を中心に、前期では“国際政治の本質”について講義する。後期では“国際政治の問題”として、二つの世界の対立、植民地ナショナリズム、地域的安全保障、エネルギーを中心とした国際問題を中心に検討する。

外交史

首藤素子

19世紀末から第2次世界大戦に至る国際政治の展開を扱い、最終回には冷戦の起源まで進めたい。

第1部として、ドイツの国家統一にはじまる西欧列強間の勢力均衡政策の展開とその帰結としての第1次世界大戦の勃発に至る外交史の展開を講義する。

第2部として、ヴェルサイユ体制ならびに東アジアにおけるワシントン体制の形成とその崩壊の過程をあつかう。単なる事件史としてではなく、その背後にある経済的、社会的要因やさまざまな政治指導者たちの思想について理解を深め、現状認識や将来の展望に対する長期的で相対的な視野を得るような講義内容にしたい。

〔教科書〕講義において指示する。

政治制度

前田英昭

イギリス、アメリカ、フランス及び西ドイツの政治制度の歴史的発展を辿りながら、日本と比較して、各国において現在どのような特色を持った政治体制の中で政治が行われているかを明らかにする。

教科書は特に使わない。

〔参考書〕読売新聞社『西欧の議会』¥4,100

ラスキ『イギリスの議会政治』

(日本評論社) ¥3,800

前田英昭『国会の100年』(原書房)

¥2,800

4年次必修科目

政治思想史

小林正敏

プラトン、アリストテレスから現代に至る政治思想史、政治学説史について、思想家を中心に、その時代的背景にもふれながら論述する。

〔教科書〕特定のテキストは用いない。

3・4年次選択科目

外書講読Ⅰ・Ⅱ(英)

首藤素子

日本の外交政策に関する論文を読んでいく。適宜文献のコピーを配布し、進み具合に応じて、日米関係や日本とアジア諸国の関係についての論文をなるべく多く読んでいきたいと思う。

外書講読Ⅰ・Ⅱ(英)

佐藤恭三

太平洋戦争前後から現在にいたるまで、日米関係が重視され、日英関係がいきおい背景に追いやられている現状がある。第一次世界大戦以降の日英関係の変遷を辿る本書のなかから、特に太平洋戦争直前の対英外交を論じた部分を中心に学びたい。

〔教科書〕K. Sato, *Japan and Britain at the Crossroads* (Tokyo: Senshu U.P., 1986) [コピーで配布します。]

外書講読Ⅰ・Ⅱ(英)

竹花光範

本年度も、昨年度同様、A. H. Birch, *Representative and Responsible Government*. の一部を読む予定である。例年通り、進行度にとらわれず、内容を吟味することに時間をかけていくつもりである。

〔教科書〕開講時に必要な部分をプリントして配布する。

外書講読Ⅰ・Ⅱ(独)

早川純貴

ナチズムの権力掌握の過程を、ドイツ社会の構造的変化・経済変動の側面および政党政治の崩壊からとらえたドイツ語文献をとりあげ、ヒトラーを生み出した社会的・政治経済的背景を考える。

〔教科書〕開講時にコピー配布

外書講読 I・II (仏)

荒木正孝

わが国の法制度は、その多くが欧米諸国の影響を強く受け、またはそれらに倣って作られたものであるから、母国における法制度の内容や法的思考等を学ぶことは、わが国の諸制度を理解するうえで重要な意味がある。この授業では、原書の読解によってフランス法の仕組みやその背景について理解を深めてゆく。受講者は、毎回十分に下調べをして出席するように希望する。

〔教科書〕受講者と相談して決める。

外書講読 I (中) (3選)

江英居

社会主義中華人民共和国の新憲法と三民主義中華民国の「五権憲法」を解説しながら、国家政治機構および国民の基本的人権についての規定を比較しながら授業を進めていく。さらに、政治と法律に関する文章の文型を解説する。

〔教科書〕江英居著『中国憲法』(大学書林)

〔参考書〕『六法全書』(台北 三民書局)

『中華人民共和国法律滙編』

(北京 人民出版社)

外書講読 II (中) (4選)

江英居

社会主義中華人民共和国における現在実施されている中華人民共和国刑法についての特徴を講読し、特に、死刑の執行猶予制、主刑の一つである保護観察の設け及び反革命罪についての規定を解説する。さらに、犯罪と刑罰に関する専門語を説明する。

〔教科書〕江英居著『中国刑法』(公論社)

外書講読 I・II (ス)

佐藤玖美子

スペイン最大の発行部数を誇るEl País紙の、特に政治、社会面の講読を行う。学生諸君が、1、2年で習得したスペイン語の知識の深化、発展を

はかると共に、社会主義国である一方で王制を存続させている特殊な国、スペインの政治、社会情勢をさぐってみよう。

〔教科書〕プリント

政治心理学

上條末夫

政治行動論の一つとしての政治心理学は、政治現象の心理的側面を分析する学問である。政治的人間の意識、態度、行動などの特徴を明らかにし、さらに集団行動としての大衆運動、投票行動などを分析する。また、集団内におけるリーダーシップ、グルーピング、ヒューマンリレーションなども扱う。

〔教科書〕堀江・富田・上條編著『政治心理学』

(北樹出版) ¥2,300

財政学

里中恆志

経済生活のなかで公共部門の関与する比重は確実に増しつつある。財政学は公共財政経済を対象とする学問であるが、そこには市場経済原理とは異なる原理が機能する。国民が財政意志の形成に参加する方法は民主的な手続をとおしてであるから、適切な財政政策の実現のためには国民が財政をコントロールするルールとその制度の背後に作用し合う諸力について理解していなければならない。このような観点から公共収入政策、公共支出政策の原理および基準を考察し、現実の財政問題に対する判断力を養う。

〔教科書〕授業始めに指示する。

国際経済学

徳永俊明

資本主義世界経済の歴史と第2次世界大戦後の資本主義世界経済の主要な問題について、その基本的メカニズムの解明をめざします。講義内容はつぎのとおりです。

- I 資本主義世界経済の歴史(時期区分と各時期の特徴・歴史的位置づけ)
- II 第2次世界大戦後の資本主義世界経済(歴史的位置と基本構造、貿易、国際通貨制度、資本輸出—「援助」・多国籍企業、新植民地主義、「南北問題」と新国際経済秩序、

資本主義世界経済の危機、日本経済と世界
経済、その他)
〔教科書〕徳永俊明『世界経済と第3世界』
(大月書店) ¥1,800

日本法制史

大久保 治 男

我が国における法律文化の変遷の流れを上古時代より近代まで概説する。基本法、刑事法、財産法、家族法等の各分野につき幅広くふれ、さらに我々の意識や興味や風習・言語等の中に残る法制史的事柄にまで展開したい。教授方法は講義の他にOHP、スライド、ビデオ等視聴覚的教材やシンポジウム方式もとり入れ楽しい法制史にして学生の研究意欲を起こさせるよう工夫する。温故知新、永劫回帰なのでもあるから我々の祖先の法律文化の沈積物を発掘、探求して価値づける。世は「歴史ブーム」である。時代考証にも役立つ、多くの話題を受講生に提供する一味ちがうユニークな法制史にしたい。学問探求には史的考察が必須前提でもあろう。

〔教科書〕大久保治男他著『日本法制史』
(高文堂出版社)

〔参考書〕大久保治男著『大江戸刑事録』
(六法出版社)

西洋法制史

佐々木 信

講義内容としてはつぎを予定している。

(1)いわゆる「西洋法制史」学の形成・その学問的性格について、(2)ヨーロッパの法文化における諸要素について、(3)ヨーロッパにおける封建法の形成過程について、(4)ヨーロッパ中世における法思想の理解について。

歴史は現代の理解に資するとする考えもあることであるので、上記についてはとくに今日における理解を紹介することに力を入れたい。西洋法制史の分野では、今のところ、企画はあるものの、適当な教科書はないので、学生諸君に入手可能な史料を教材とする予定である。

〔教科書〕特に指定しない。場合によってはプリントを用意する。

西洋政治史

(前期) 鬼 柳 勝 一
(後期) 浦 田 早 苗

ヨーロッパにおいて自由と民主化が今日ほど問われている時代はない。このような概念の実践と制度化をめざした政治が本格的に登場するのは、近代市民社会においてである。

講義では、受講生各自の関心を基礎に、近代市民革命から現代に至るまでの政治上の主要な問題を史的に整理しようと思う。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕講義進行の都度列举する。

福祉国家論

福 岡 政 行

現代国家は、行政国家と言われる。そして、現代の行政国家は、その基底において、マス・デモクラシーを採用しているため、必然的に福祉国家の傾向がある。

しかしながら、今日、福祉の見直しが叫ばれ、福祉予算の再検討が始まっている。確かに、ありあまる福祉は“福祉病”を生み、無気力人間を生んでくる。だが、本当に福祉を必要としている人は、依然として多い。

このような社会的背景を踏まえて、日本の権力構造を分析して、講義を進めてゆきたい。

ディスカッションなども採り入れてゆきたい。

〔教科書〕追って指示。

経 済 政 策

森 岡 仁

経済政策を理解するには経済の理論的知識を必要とするが、ここでは法学部の学生諸君にも十分理解しうるように講義を進める。内容は以下のとおりである。

- I. 現代経済と経済政策
- II. 経済政策学の発展
- III. 現代経済政策の課題
- IV. 経済の成長政策
- V. 経済の安定政策
- VI. 産業組織政策
- VII. 社会均衡化政策
- VIII. 経済政策と人口政策

〔教科書〕森岡(他)『現代経済政策』

(千倉書房) ¥2,300

刑事政策

齊藤 誠二

これまで、刑事政策は、犯罪の原因を生物学的・心理学的・社会的に分析する犯罪原因論と、犯罪者をどう処遇するのか・社会から犯罪をなくすためにはどうしたらよいか、ということを考える犯罪対策論からなる、といわれていた。ところが、1970年代から、ヨーロッパやアメリカでは、ふつう、この2つのほかに、法の執行の過程ないしは刑事司法のプロセスというものを分析することがくわえられるようになってきている。これは、国際的に、刑事政策を展開するには、どうしても、どういうプロセスで、犯罪者が、犯罪者というレッテルを貼られていくのか、という分析をしなければならぬと考えられたためである。ここでも、こういう方向もくわえながら、わが国の刑事政策が当面する多くの問題を語っていく。

〔教科書〕(前期) 齊藤 他『刑事政策入門』
(有斐閣)
(後期) 森下 忠『刑事政策入門』
(成文堂)

比較憲法

竹花 光範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法とは
2. 憲法の概念と分類
3. 国体と元首(共和制と君主制, 元首, 国のシンボル等)
4. 統治の原理と構造(民主政治の基本原則, 議院内閣制と大統領制, 一院制と二院制, 社会主義国における議会制度等)

〔教科書・参考書〕講義の中で述べる。

行政法(各論)

梅木 崇

昨年度の講義(行政法総論)で講じられなかった部分と、警察行政、給付行政について説明する。特に国家賠償法、行政不服審査法、行政事件訴訟法については、豊富に判例をひいて、抽象的理論の具体的理解を可能にしたい。警察(秩序維持作用)法および給付行政法においては、行政法の基礎理論の具体的応用の面を中心にする。その際、

行政判例の研究が平行することはいうまでもない。また各種の公務員試験の実例にも言及する予定である。比較的人数の少ない講義なのでゼミナールに類似した形式をとることにする。学生の積極的な意見発表を期待する。

〔教科書〕梅木他著『行政法体系』(啓正社)
齊藤・梅木著『現代行政法論』
(勁草書房)

経済法

川井 克倭

経済法—独占禁止法を中心として—

- 第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。
- 第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的。その他の私的独占, カルテル, 企業統合, 独占の状態, 不公正な取引方法等について、なるべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップトゥデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕現在執筆中である。

〔参考書〕講義の中で紹介する。

川井克倭著『カルテルと課徴金』
(日本経済新聞社)

商法

山田 泰彦

株式会社法の体系を中心に講義し、その基本的な理解を深めることを目的とします。

〔教科書〕荒木正孝『商法講義(総則・会社法)』
(成文堂) ¥2,300

労働法

佐藤 時次郎

労働法の全般に亘り、特に基本的な事項を中心に解説を施す。この場合、最近の重要判例等を取り上げて新しい動向等の把握に遺憾なからしめたいと考える。

〔教科書〕佐藤時次郎・原 慎一・志賀直人共著
『社会生活における労働ルール』
(蒼文社)

比較政治学

福岡 政行

世界各国の政治システムと文化の比較研究を中心に
行う。ゲストスピーカーの参加もあって、学生
のレポートを中心に行う。

本年度は、ゴルバチョフの世界戦略を中心に、
アジアの問題について、近代化・民主化・自由化
・経済成長などを中心に考えてゆく。

国際関係論

首藤 素子

第1に、1950年代以降現在までの国際関係にお
ける行動主体の多様化についてできる限り具体的
に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係
について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対す
る援助の2点を中心に、これもできる限り新しい
資料をふまえながら問題の所在を理解できるよう
にしたい。第3に、現代の国際関係における紛争
の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸
国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力
と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕渡辺昭夫編『講座 国際政治』第4巻
(東大出版会) 1989年、¥2,266

〔参考書〕細谷千博・丸山直起編『国際政治ハン
ドブック』改訂版(有信堂高文社)
1991年

国家安全保障論

小堀 訓男

国際社会のなかで、一つの国家が存続するには
どのような条件が必要なのか、そして、国家的利
益とは一体何をもって利益というのか、等々を中
心に考えながら国家安全保障の原理と理念を究明
する。

〔教科書〕小堀・志鳥共著『国家安全保障の研究』
(高文堂出版) ¥1,200

宣伝広告論

上條 末夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を
主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そ
して実際について、具体例によって説明する。現
代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュ
ニケーションがきわめて重要な役割をもっている。
主権者としての国民は、これにどう対応していく
べきか、あるいは社会人として、社会および個人
の関係をどう調整していくべきか、という問題を
解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

政党論

早川 純貴

前期は戦後西ドイツにおける政党政治の展開、
すなわちCDU-CSU アデナウアー政権に始まり、
SPD とCDU との大連合そしてSPD の政権奪取の過
程を辿りつつ、いかにしてSPD (社民党) 政権が
可能となったのかを論じる。後期はイギリスの二
大政党政治について、とりわけ戦後の保守党と労
働党による「合意の政治」から70年代以降に「敵
対政治」への転換、さらにはサッチャー政治の特
質までを論じる。

〔教科書〕使用せず。

〔参考書〕講義時に随時紹介。

議会関係法

前田 英昭

憲法第四章(国会)、国会法、公職選挙法、政
治資金規正法など議会に關係する法律を取り上げ、
日本の議会政治を取り巻く法状況を明らかにする。
教科書は特に使わない。

〔参考書〕松澤浩一『議会法』(ぎょうせい)

¥3,800

浅野一郎『国会事典』(有斐閣)

¥2,800

前田英昭『国会の100年』(原書房)

¥2,800

解』(古今書院)
安藤・加藤共著『新大学英文法教本』
(英潮社新社)

地方自治法

梅 木 崇

憲法および行政法との関連を重視しながら、地方自治法における主要な制度を解説する。また、地方自治の運営について、行政の実態と裁判所の判例をとりあげ、その理解を深める。本講の目的は、地方自治法そのものを理解させることよりも、地方自治行政という行政の具体化過程を通じて、わが国における行政権の行使に関する基礎的なものの考えかたを学ぶとともに、統治の機構について、比較的詳細に考察する点にある。その際、諸種の公務員試験の問題についても説明するよう努める。

〔教科書・参考書〕開講にあたって指示する。

出入国管理論

竹 内 昭太郎

序論で、人の出国入国について国が管理する行政があること。それには内外人共通の記録管理面と、内外人区別がある許否管理面の二面があることを認識したうえで、現代の先進文明国では許否管理面がどのように行われているかを、一般的に考察する。

本論としては、わが国が戦後のアメリカ法制移入のもとに、いかなる立地条件と国際条件の上に乗って外国人の入国滞在を許否管理しているかについて、法令及び実務の双方から論述していく。

〔教科書〕竹内昭太郎著『出入国管理論』

(駒沢書店) ¥1,030

〔参考書〕坂中英徳著『今後の出入国管理行政のあり方』(日本加除出版KK) ¥2,800

時事英語

山 下 高 明

生きた英語の宝庫である英文新聞・雑誌は流動する内外情勢を把握するための絶好の手がかりを提供するものである。英文紙を読解できるようになることは新しい21世紀に要求される国際人にとり欠くことのできない条件である。

本講では最新の内外英文新聞・雑誌の記事・論評を資料として時事英語に特有の語法やスタイルを解明し、あわせて重要なニュースの意義と背景についても解説をくわえる。

〔教科書〕山下・寺沢共編『英文時事ニュース読

他 学 部 履 修 科 目

(全学部・短大共通)

※他学部科目の講義内容が掲載されているが、受講できる科目は各学部・短大によって異なっている。(履修についての詳細は、「他学部科目の履修方法」を参照すること。)

目 次

禅学特講Ⅰ(原田 弘道)……………1	中国経済論(小杉 修二)……………7
禅学特講Ⅱ(黒丸 寛之)……………1	アジア経済論(小林 英夫)……………7
禅学特講Ⅲ(石井 修道)……………1	日本経済史(古庄 正)……………7
禅学特講Ⅳ(鈴木 格禅)……………1	中小企業論(三井 逸友)……………8
禅学思想史(峰岸 孝哉)……………1	教育経済論(谷敷 正光)……………8
哲学史(中村 友太郎)……………1	アメリカ経済論(瀬戸岡 紘)……………8
インド仏教史(田上 太秀)……………2	財務会計論(遠藤 孝)……………8
中国仏教史(前期:佐藤 達玄)	管理会計論(中原 章吉)……………9
(後期:岡部 和雄)……………2	会計監査論(飯岡 透)……………9
日本仏教史(山内 舜雄)……………2	商業政策(岩下 弘)……………9
日用経典(皆川 広義)……………2	貿易論(古沢 紘造)……………9
仏教美術(中島 亮一)……………2	マーケティング(曾我 信孝)……………9
現代哲学概説(田島 節夫)……………2	原価計算論(加藤 利安)……………9
上代文学(小野 寛)……………2	労務管理論(石井 脩二)……………10
中世文学(水原 一)……………3	行政法Ⅱ(齊藤 寿)……………10
近世文学(富士 昭雄)……………3	民法Ⅳ(1)(青山 尚史)……………10
近代文学(片岡 懋)……………3	民法Ⅳ(2)(青山 尚史)……………10
中国文学(中村 璋八)……………3	比較憲法(竹花 光範)……………10
英文学特講Ⅰ(石原 孝哉)……………3	地方自治法(梅木 崇)……………10
英文学特講Ⅱ(高野 正夫)……………3	経済法(川井 克俊)……………11
英文学特講Ⅲ(高野 正夫)……………3	国際関係論(首藤 素子)……………11
英文学特講Ⅳ(中岡 洋)……………3	西洋政治史(前期:鬼柳 勝一)
英文学特講Ⅴ(高松 雄一)……………4	(後期:浦田 早苗)……………11
英文学特講Ⅵ(丸小 哲雄)……………4	宣伝広告論(上條 末夫)……………11
英米演劇特講(落合 和昭)……………4	政党論(早川 純貴)……………11
米文学特講Ⅰ(東 雄一郎)……………4	経営学史(北村 健之助)……………12
米文学特講Ⅲ(岸本 茂和)……………4	国際経営論(桑名 義晴)……………12
時事英語(大沢 一雄)……………4	経営統計(後藤 儀一郎)……………12
地質学(貝塚 爽平)……………4	保険経営論(石名坂 邦昭)……………12
気候学(中村 和郎)……………4	財務会計論(渡辺 恵一郎)……………12
人口地理学(河邊 宏)……………5	経営分析論(片桐 伸夫)……………12
応用地理学Ⅰ(高木 正博)……………5	税務会計論(高木 克己)……………13
都市地理学(今朝洞 重美)……………5	経営労務論(中村 眞人)……………13
文化地理学(菱口 善美)……………5	商業史(山田 勝)……………13
日本史特講Ⅶ(近代)(山口 一之)……………5	国文講読Ⅰ(上代)(佐原 作美)……………13
東洋史特講Ⅹ(近・現代)(渡辺 惇)……………5	国文講読Ⅱ(中古)(大塚 英子)……………13
西洋文化史Ⅰ(椋川 一朗)……………5	国文講読Ⅲ(中世)(岡崎 正)……………13
日本仏教史Ⅱ(廣瀬 良弘)……………5	国文講読Ⅳ(近世)(清田 啓子)……………13
歴史哲学(麻生 建)……………5	国文講読Ⅴ(近・現代)(吉田 司雄)……………13
哲学史(丸山 豊樹)……………6	国文講読Ⅴ(近・現代)(前期:尾形 国治)
日本民俗学(谷口 貢)……………6	(後期:田澤 英藏)……………14
マスコミュニケーション(川本 勝)……………6	国文特講Ⅴ(近・現代)(尾形 国治)……………14
産業社会学(安藤 喜久雄)……………6	英文タイプライティングⅡ(竹内 美恵子)……………14
都市社会学(文屋 俊子)……………6	時事英語(岡本 誠)……………14
社会福祉発達史(林 千代)……………6	計算機言語概論(杉田 徹)……………14
ソビエト経済論(山縣 弘志)……………7	臨床放射線特論Ⅰ(本間 襄)……………14
社会政策(光岡 博美)……………7	応用計測学(檀尾 英次)……………14
国民所得論(吉野 紀)……………7	

他学部履修科目

禅学特講Ⅰ

原田弘道

禅宗と公案

公案は禅宗における經典觀と深いかわりをもつ。そこで公案の成立とその歴史的展開を通し、その意義と機能について考察する。

(1)公案の起源と歴史、看話禅の成立 (2)曹洞宗と公案 (3)公案の諸相、公案の意義と機能。以上の順序で講義を進める。

禅学特講Ⅱ

黒丸寛之

道元禅師と法華経について、『正法眼蔵』の所説を中心として考察する。道元禅師の法華思想は、その著述の随処に見られるので、受講希望者は必ず『正法眼蔵』を所持すること（既刊本の何れでも差し支えない）。

禅学特講Ⅲ

石井修道

平成2年度につづいて『大慧書』を読む。大慧宗杲は看話禅の大成就者である。その後の禅思想に大きな影響を与えた大慧の看話禅の性格は、『大慧書』に最もよくあらわれている。書とは、手紙のことであり、大慧が居士に与えた手紙を中心としているので、主張は明了である。宋代禅の性格を知る入門書と言えるであろう。荒木見悟博士の訳注本もあるが、まず禅録になれる意味もふくめて和刻本をテキストにして、和刻本の誤読についても言及したい。

〔参考書〕『大慧書』（筑摩書房）¥3,500

禅学特講Ⅳ

鈴木格禅

『見聞宝永記』講読

本書は通常『損翁老人見聞宝永記』と呼ばれる。損翁老人とは、仙台の泰心院に往した損翁宗益（1649～1708）のことである。損翁は面山瑞方（1683～1769）の師であり、面山の宗教的人格形成に頗る影響を与えた古聖である。面山が損翁に随侍したのは約二年間程にすぎないが、その間における損翁の法益を集録したのが本書である。従って本書は、損翁における面山の「随聞記」といってよく、内容は多岐にわたるが、その根底には、現状にもなお光輝を放つ洞門の宗教的志操が一貫して流れている。本学年度は、前年度にひきつづき本書を講読し、学道の資助としたい。

〔教科書〕『統曹洞宗全書（法語・歌頌）』

P.411～P.445 までをコピーすること。

禅学思想史

峰岸孝哉

禅学思想史の範囲はもとより広く考えられるが、本年は日本禅、とりわけ永平道元（1200～53）の流れを汲む曹洞教団の展開に注目し、そこにみられる教学・思想の歴史的な性格を跡付けてみたい。

〔教科書〕『道元禅の歴史』〔講座道元Ⅱ〕

（春秋社）

〔参考書〕鈴木泰山著『禅宗の地方発展』

（吉川弘文館）

廣瀬良弘著『禅宗地方展開史の研究』

（吉川弘文館）

哲学史

中村友太郎

西洋の思想と文化は、ヘレニズムとヘブライズム、ギリシア哲学と聖書的信仰の結合の上に形成されてきた。ここではとくにキリスト教的な中世哲学の形成とその展開をあとづけることを主眼と

したい。それは、神・自然・人間をめぐる理性の立場と信仰の立場との対決・調和・抗争の思想史という様相を呈するであろう。なお前期にはその背景となるギリシヤ哲学史を簡単に展望することから始めたい。

〔教科書〕教場で指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

インド仏教史

田上太秀

1. 仏教の起源と発展
2. 経典の成立・種類・思想など。
3. 仏教の人間観・政治批判・経済倫理・自然観・教育思想・家庭倫理など。

〔教科書〕プリント使用

中国仏教史

(前期) 佐藤達玄
(後期) 岡部和雄

中國民衆の仏教受容と、固有思想との関係を概観した上で、隋代より唐宋代に至る間の儒仏道三教の交渉史を中心に考察したい。

〔教科書〕『仏教史概説-中国篇』（平楽寺書店）

日本仏教史

山内舜雄

下記の教科書に依り、上古より中世を経て、鎌倉仏教までを概説する。特に鎌倉新宗の発生母胎になった、中世は中古天台本覚法門を詳説する。

〔教科書〕宇井伯寿著『日本仏教概史』（岩波書店）は絶版となっているが、古本もあり、必要箇所のみをコピーしてもよい。

日用経典

皆川広義

曹洞宗における日常依用の経典ならびに宗典について回向文をふまえて解説し、宗門儀礼の意義と新しい表詮を考察する。

〔教科書〕桜井秀雄著『曹洞宗回向文講義』

（曹洞宗宗務庁）

仏教美術

中島亮一

仏教美術全般の問題を背景にして、仏教美術が展開して来た過程をスライドを見ながら、諸尊像が出現して来る背景、その表現の様式的な変化、さらにそこにこめられた精神的（宗教的）な意味などを考察する。

〔教科書〕佐和隆研著『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）¥680

現代哲学概説

田島節夫

今世紀哲学の多岐にわたる動向を統一ある視点から概説することは容易でないが、まず固有な意味での現代哲学の創始者たちとして、現象学におけるフッサール、分析哲学におけるフレイゲ、プラグマティズムおよび記号論におけるパースの各場合をとりあげ、相互の関連を考えながらそれぞれの業績に注目したい。西洋哲学の過去の遺産にたいして彼らのもたらしたものを問いなおすことから、今日までにあらわれた今世紀の重要な哲学的営為の意味を再考しつつ、哲学の新しい可能性をひらく道を探ることにしよう。本講義の視点を含むテキストとしては田島著『現象学と記号論』を参照されたい。ただし講義ではテーマに即し新たな題材をも取り扱うであろう。

〔教科書〕田島節夫著『現象学と記号論』

（世界書院）¥2,500

上代文学

小野寛

上代は日本文学の草創期である。日本文学のすべての原点である。説話文学として『古事記』や『日本書紀』の神話・伝説がある。『古風土記』の地名起源説話などもおもしろい。『古事記』『日本書紀』にはまた、「うた」が多く含まれている。古代人たちが曲節をつけ、所作をつけ、楽器を伴奏に唱ったものである。これを『記紀歌謡』という。そして「うた」はやがて書記されるようになり、記載文学としての「うた」の集である『万葉集』が登場する。これら上代文学の神髄に触れてみよう。

〔教科書〕適宜指定し、あるいはプリントを使う。

中世文学

水原 一

中世軍記の巨篇『太平記』について、本文を講読し、歴史背景や人物を論じ、思想的基盤などにも言及する。

〔教科書〕『版本太平記抄』水原・長谷川

英文学特講Ⅰ

石原孝哉

ルネッサンス期の英文学について講じる。中世のたそがれから近世の夜明けへの過渡期の文学を、過去と未来の両方に開かれたものとしてとらえ、文化のさまざまな方面から論じる。意欲的な学生の受講を望む。

〔教科書〕『シェイクスピア喜劇とロマンスの発展』（三修社）

近世文学

富士昭雄

『去来抄』の講読を通して、蕉風俳諧の特質を考察する。

〔教科書〕『去来抄』（桜楓社）

英文学特講Ⅱ

高野正夫

18世紀の英詩においては主に二つの流れがあった。ひとつは、PopeやJohnsonなどの古典主義の伝統を受け継いだAugustan Ageの詩人たちであり、もうひとつは、このような古典主義から脱して、人間的感情を回復しようとした、いわばRomanticismへの移行期の詩人とともに言える、非伝統的詩人たちである。このまったく対照的な詩を生み出した18世紀の詩人を中心に論じていく予定です。

〔教科書〕教場にて指示します。

近代文学

片岡 懋

夏目漱石の『羨虚集』、『鶉籠』所収の短篇から『野分』『麗美人草』、『坑夫』、『三四郎』、『それから』などについて考察する。

英文学特講Ⅲ

高野正夫

イギリス・ロマン派の主要な詩人について、それぞれの時代的背景や特徴をふまえながら読んでいく予定です。

〔教科書〕教場にて指示します。

中国文学

中村璋八

中国の民族思想の中心的な陰陽五行説を集大成した五行大義を平易な解説をしながら、演習方式で読んで行く。この陰陽五行説は、儒教や道教など中国の文化の中で重要な位置を占めているだけでなく、日本にも夙に伝来し、奈良朝から江戸期に至るまでの陰陽道・仏教・神道・国文学・年間行事、民間信仰など多くの方面に大きな影響を及ぼし、現代においても暦・習俗の中に受け継がれている。そこで、国文学や日本史・東洋史を専攻する人々には欠かせない内容を含むものと思う。是非熟読されたい。

〔教科書〕『五行大義』（明德出版）¥2,000

英文学特講Ⅳ

中岡 洋

イギリス小説の代表的傑作Jane EyreやWuthering Heightsを残したBrontë sistersについて、彼女たちの文学史的位相を見定め、彼女たちの生涯と芸術について詳述する。

〔教科書〕教場にて指示する。

英文学特講V

高松雄一

20世紀イギリスのモダニズム文学の種々相を考察する。

〔教科書〕必要があれば開講時に指示する。

英文学特講VI

丸小哲雄

文学（虚構）テキストを批判的に検討する理論と実践。とりわけテキスト研究をすすめる。テキストの読み（物語構成を捉える遠近法）。テキストの解釈（テキストの意味と主題の捉え方）。そしてテキストの読みと解釈の後でどのようにしてテキスト批評を行なうか。前期では文学理論としてロシア・フォルマリズム、受容理論、構造主義、ポスト構造主義などを主として講義します。後期ではテキストの読み・解釈・批評の実践として、英米及び日本文学からテキストを選び、実践批評の意義と快楽を目指します。

〔教科書・参考書〕開講時に指示します。また、適宜、プリントも配布します。

英米演劇特講

落合和昭

ギリシャ悲劇から時代をおって、演劇の思潮について学ぶ。

また、講義用のテキストとしては、図や写真が多くのっているアメリカの大学生用のテキストを用いる。課題としては、レポートを十回（一回につき四百字の原稿用紙二枚程度）ほど提出してもらう。

米文学特講I

東雄一郎

主として20世紀、現代のアメリカ詩を扱う。勿論、アメリカ詩の流れを考察する場合に不可欠な存在である詩人達、Edgar Allan Poe, Walt Whitman, Emily Dickinson 等も扱うことは言うまでもない。実際、個々の詩人の代表作品を味読、

鑑賞しながら講義をすすめていく。清教徒主義の内向性と開拓者精神の外向性を常に偏在させ、American Renaissance, Realism, Chicago Renaissance, Harlem Renaissanceを展開させて行くアメリカの精神風土との関連の上から、Modernism とPost-Modernismを代表する詩人の個々の作品にあたるつもりである。

〔教科書〕開講時に指示します。

〔参考書〕開講時に指示します。

米文学特講III

岸本茂和

New England 出身のふたりの女流文学者 — 詩人Emily Dickinson と小説家Sarah Orne Jewett の作品を通して、19世紀中葉以後におけるAmerican Victorianismについて考察する。

教科書・参考書については開講時指示する。

時事英語

大沢一雄

時事英語の研究をおこなう。時事英語とは大まかにいうと、新聞、テレビ、ラジオ等のmass media すなわちマスコミで用いられる英語である。

地質学

貝塚爽平

関東・東海地方でみられる、地震・火山・地層・岩石・地質構造・地殻変動などを解説しつつ一般論に及ぶ。また、日本列島ないし地球規模でおこる地質現象 — たとえば大洋底の運動・造山運動・海面変動・気候変動・氷床の形成・サンゴ礁分布帯の形成 — についても講ずる。後期には教科書を使う予定。

気候学

中村和郎

身近な気候現象に注目し、その研究を通して気候学の基本的諸概念と研究方法、世界諸地域の気候を学ぶ。

小テストを3回実施する。
〔教科書〕中村和郎・木村龍治・内嶋善兵衛著
『日本の気候』（岩波書店）¥3,400

人口地理学

河邊 宏

人口現象の地理学的分析には、人口学の基礎的な知識が不可欠である。そこで前期には、出生、死亡、移動という人口の変動要素に関する分析手法を授業と演習とによって学習する。

後期では、日本を中心とする人口の研究例によって人口現象の地域的な差の出現のありかたを観察し、人口現象についての理解を深めてもらう。

〔教科書〕使用しない。

〔参考書〕R. ワーズ著（河邊他訳）地域人口分析法－地理学と人口学の接点（古今書院）
¥5,500

応用地理学 I

高木 正博

河川と地域の関係を、災害・利水・親水などの視点から捉える。水と人とのかかわりあいについて、地理学と他の研究分野を関連させてのべる。

〔参考書〕高橋 裕著『河川工学』（東京大学出版会）

都市地理学

今朝洞 重美

都市の地理学的研究とは具体的にはどのようなものか、日本、外国にテーマをとり学習する。

〔参考書〕山鹿誠次著『都市地理学』（大明堂）

文化地理学

こも
茨口 善美

本講義では、まず文化地理学の中心的課題、すなわち(1)文化、(2)文化領域、(3)文化景観、(4)文化史(誌)、(5)文化生態について概観する。さらに内・外の研究事例を紹介しながら、文化地理学的手法による地域分析について議論する。

日本史特講Ⅶ（近代）

山口 一之

日清戦争とその後の中国問題を講義する。

東洋史特講Ⅹ（近・現代）

渡辺 惇

近代中国民衆結社史：近代中国における民衆の動きを理解する一環として、秘密結社（会党・帮会）をとりあげ、その発生、発展、組織の特色、時代背景等について講義する。

〔教科書〕特に定めない。

〔参考書〕講義の中で紹介、指示する。

西洋文化史 I

椽川 一朗

西洋の都市（とくにドイツ都市）の歴史を、社会構成を中心に講述する。

〔参考書〕椽川著『ドイツの都市と農村』（吉川弘文館）¥2,900

日本仏教史Ⅱ

廣瀬 良弘

日本仏教史の流れを概観し、のちに中・近世にかけての仏教と当該期の社会・文化とのかかわりについて講述する。

〔参考書〕参考史料は随時コピーして配布。

歴史哲学

麻生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、

今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）
¥2,500

哲 学 史

丸 山 豊 樹

この講義の内容は「近代哲学史」である。近世哲学も古代・中世の哲学の発展であるから、最初は古代・中世との哲学との関連を概観した後で、近世独自の思想を論ずる。

近代を特徴づける最初の哲学は「イギリス経験論」と「大陸合理論」であるが、それを総合するカントの哲学は、近代の「科学」を対象とする最初の哲学とみなすことができ、その内容は現代においてもなお多くの問題を含んでいる。まずカントを重点的に論じた後で、その後の多様な現代哲学に論及するつもりである。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕その都度指示する。

日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

マスコミュニケーション

川 本 勝

マス・コミュニケーションの生産過程から受容過程にいたるまでの主要なメカニズムを、これまでのマスコミ研究の成果、理論を紹介しながら考察し、マス・コミュニケーションの特質、社会的機能、効果や影響などを検討する。

高度情報化社会といわれる現代、ニューメディアを含めて、マス・メディアが社会や人びとの社会生活とどのようなかかわりをもっているか、社

会的に分析する。

〔参考書〕その都度指示する。

産業社会学

安 藤 喜 久 雄

産業社会学の生成、発展について概観するとともに、主要な領域について解説し、そこでの諸問題が現代人にとってどのような意味をもっているか考察する。

〔教科書〕安藤喜久雄他著『産業と組織の社会学』（学文社）

都市社会学

文 屋 俊 子

都市社会学の成立と展開、都市化、都市的生活様式、都市の社会構造についてとりあげる。とくに現代日本の大都市におけるひとびとの生活様式、生活の場としての都市における諸問題について、最近の研究をとりあげ、議論したい。

参考文献として、外国の新旧の論文を集めたものとして、

鈴木 広編『都市化の社会学（増補）』（誠信書房）¥3,800

日本の論文を集めたものとして、

『リーディングス 日本の社会学7 都市』

『リーディングス 日本の社会学5 生活構造』（東京大学出版会）各¥2,500

などが適当かと考えている。

社会福祉発達史

林 千 代

いつの時代にも、人々の生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本資は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕 随時紹介

ソビエト経済論

山 縣 弘 志

ペレストロイカはなぜ必要とされたのか。ペレストロイカはどこへ行くのか。ジャーナリスティックな興味に終わらないためには、歴史と社会主義理念に関する知識が不可欠である。

〔教科書〕 なし

〔参考書〕 講義の中で指示する。

社会政策

光 岡 博 美

社会政策とは資本主義社会で発生する労働問題を体制の枠内で解決しようとする諸施策やイデオロギーの総体を表わす言葉として使用されている。本年度の講義では、社会政策の発祥の地であるドイツの社会政策思想、及び、それを受容した戦前日本の社会政策について説明する。また後期においては、賃金や労働条件が労使の自主的な団体交渉によって決定されるような労働問題処理の制度的枠組が成立した戦後の時代を対象とし、戦後日本における労使関係の史的展開についての講義を行うこととする。

〔参考書〕 教場で指示する。

国民所得論

吉 野 紀

本講は現代マクロ経済理論の内容を経験的検証と具体的な政策への応用とに言及しつつ体系的に解説することを目的とする。主たる関心の対象は家計・企業等の集計部門であり、政府や海外部門を取り込んだ国民経済全体である。これら諸部門の経済活動水準がどのように決定され、また相互に影響し合うのかを解き明かすことによって、生きた経済現象を変貌して止まない姿としてとらえることができれば目的の過半は達成できたといえる。相互的関連の全体像を描くためにはIS-LM分析が教育的効果を依然持ち続けているので、早い時期にこれを扱い、徐々にこの枠を崩しながら現実の日本経済への応用力を高めてゆきたい。

中国経済論

小 杉 修 二

現代の中国は対外開放、経済成長と生活の向上の結合、経済改革の試み等、新たな活気がみなぎるようになった。また、企業自主権の拡大、株式会社、個人営業の公認、失業・倒産の制度化、「1国2制度」「6・4天安門事件」等々話題にこと欠かない状況である。

本講義ではこのような目前的変化をとらえると同時に、より長い視野と射程で問題を論じることとする。即ち、本講義のキー・ワードは、超大国志向、社会主義、発展途上国である。この三点で中国の長期的動態を論ずる。

〔教科書〕 小杉修二著『現代中国の国家目的と経済建設—超大国志向・低開発経済・社会主義』（龍溪書舎）¥3,000

アジア経済論

小 林 英 夫

今年度は、戦後の日本とアジアの経済関係に焦点をあてその歴史的推移を論ずる。Ⅰ. 賠償過程 Ⅱ. 借款過程 Ⅲ. 直接企業進出の三つの時期に時期区分してその過程を追う。参考書は、追って指示する。

日本経済史

古 庄 正

日本経済史の研究対象は広範であるが、本年度は産業革命期の諸問題を中心に講義してみたい。

講義要綱

- (1) 産業革命の本質と類型
- (2) 帝国主義世界体制の確立と経済政策
- (3) 産業革命の展開とその特質
- (4) 産業構造と外国貿易
- (5) 地主制の確立
- (6) 労働者階級の成立と初期労働運動
- (7) 植民地圏の確保と帝国主義への転化
- (8) 天皇制国家の確立
- (9) 独占段階への移行

〔参考書〕 石井寛治『日本経済史』（東大出版会）¥1,900

中小企業論

三井逸友

「中小企業」とは「マイナー」なものだという、日本の学生諸君に蔓延している『俗論』とは裏腹に、今や各国は挙げて国際的「中小企業フィーバー」の直中にある。その意味するところは何なのか、そして中小企業群の現実の存在とその状態はどのような理論的・現実的枠組から解説をされるべきなのか。ここでは、「分業関係の発展」と「競争と支配・管理」の展開を手掛かりとして、中小企業と大企業セクターとの経済的関係、中小企業群の集積と結合「集中」と「過剰」のメカニズム、さらにこれらに対する「中小企業政策」の意味を解いていくことを講義のねらいとする。講義の中では、内外の豊富な話題・実態を盛り込んで説明していくつもりである。

〔教科書〕 巽・佐藤編『新 中小企業論を学ぶ』

(有斐閣) ¥1,700

車戸 實編『中小企業論』

(八千代出版) ¥3,200

〔参考書〕 中小企業庁編『中小企業白書』

(各年次)

教育経済論

やしき
谷 敷 正 光

経済発展に産業教育の果たした役割とその意義について考察する。特に、本年度は、戦前・戦後の日本資本主義発展と産業教育を中心に講義する予定である。

戦前は産業資本確立期を中心に、戦後は朝鮮戦争を契機に復興した日本経済から現在までを産業教育要請とそれに対応した政府の経済政策、経済団体の産業教育政策を日本資本主義発展との関連で考察する。

授業中は、できるだけ必要な資料を配布する。

〔教科書〕 豊田俊雄編『わが国産業化と実業教育』

(東大出版)

〔参考書〕 高浜介二著『現代資本主義の発展と教育』(汐文社)

本庄良邦著『産業教育体制論研究』

(三和書房)

『産業教育百年史』(ぎょうせい)

アメリカ経済論

瀬戸岡 紘

1987年度の私のアメリカ生活と研究活動でのエピソードを多数まじえながら、今日のアメリカ経済事情についてのトータルな解説をおこなう(アメリカの社会・国家・宗教とアメリカ資本主義の関連、財政と金融の制度と問題点、先端産業の役割と限界、農業の現状と諸問題、多国籍企業の実態、日米経済摩擦の経過と展望、アメリカ的生活様式、ほか)。講義では、一回ごとにひとつずつテーマをかかげ、受講者諸君の関心にてらして問題をたて、それを具体的な資料やデータをもとづいて解明する。授業は極力たのしく、理路整然とわかりやすくすすめるつもりであるが、定刻に開始するので遅参しがちな学生を出席を遠慮されたい。

財務会計論

遠藤 孝

会計学は狭義には財務会計論を指す。いいかえれば財務会計論は狭義会計学であり、会計学原理であるわけである。

一般に財務会計とは、企業活動—企業情報を、株主、債権者、労働組合など企業をとりまく利害関係者に報告・伝達する役割をはたす会計といわれている。この情報伝達の手段となるものが貸借対照表、損益計算書などの財務諸表であり、したがって財務会計論は財務諸表論としての性格をもっている。

いうまでもなく企業は社会的に重要な役割をはたしており、利害関係者も増大していて、社会性を高めている。したがってこれら企業の活動(情報)を伝達する財務会計についても、商法、税法、「企業会計原則」など種々の規制が加えられている。そしてこの社会的規制の内容によって財務会計の内容、性格は大きく変ることとなる。

この講義では、財務会計とは何か(その社会的意味・役割)、これを規制する企業会計制度の構造、役割、国会計制度との比較、会計計算の構造、貸借対照表、損益計算書、連結財務諸表などの財務諸表の性格、内容などについて講義する。

参考書などは講義の最初の時間に発表する。

なお、本講義は他学部、他学科に公開しており、経済学部その他、法学部の商法専攻者、その他の学生の履修を期待している。

管理会計論

中原 章 吉

会計学とは何かという考察の上で管理会計が財務会計との関連のうえでどのように位置づけられるのか。そして、管理会計とはどのような基礎のうえに成立しているものなのかを検討することから始めて、管理会計の内容に入っていく。とくにこの講義では企業における財務諸表分析と付加価値会計を内容としてとりあげていく。OAやメカトロニクスそして産業用ロボットによって第2の産業革命がさげばれているわが国の企業経営の中で、会計は、そして付加価値会計はどのように対応していくのか。また、欧米など諸外国の企業経営の中での会計の現状や歴史と、わが国との関連も考慮に入れて講義を展開していきたい。

〔教科書〕 中原章吉著『企業付加価値計算書の研究』（白桃書房）¥3,500

〔参考書〕 中原章吉編著『経営財務と管理会計』（中央経済社）

会計監査論

飯 岡 透

財務諸表監査の目的は、企業の作成した財務諸表がその企業の財政状態や経営成績を適正に表示しているかどうかについて監査人が意見を表明することであり、企業規模の拡大及び企業活動の複雑化に伴い、近年その役割はますます重要になっている。

本講義では、わが国をはじめ、英・米・西独の監査制度、監査役と会計監査人、監査証拠、個別財務諸表・連結財務諸表・中間財務諸表の監査手続、監査報告書などについて教授する。

〔教科書〕 飯岡 透著『株式会社社会計監査論』（創成社）

〔参考書〕 飯岡 透編『会計監査基本規則集』（創成社）

商 業 政 策

岩 下 弘

日米構造問題協議を契機として90年代の日本の流通のあり方が大きく変わろうとしている。「90年代の流通ビジョン」から日米構造問題協議を最終報告を経て、大店法の廃止が予定されている。そしてそれに代わるものとしてゾーニング規制論、

街づくり法論が注目をあびている。

今年度は日米構造問題協議を中心に、従来からの商業調整システムと大店法後の新たな商業秩序の形式について海外の流通政策と比較しながら講義する。

消費者政策、独禁政策にも言及する。

貿 易 論

古 沢 紘 造

オゾン層破壊、熱帯林破壊、温暖化、酸性雨、放射能汚染など地球を取り巻く環境はますます深刻になっています。一方、私たち生命体は水・大気・土壌の汚染により生存を脅かされるところまで来ています。本講義では、こうした危機的状況を踏まえ、生命系の経済学の立場に立って日本の対外経済関係（貿易、投資、援助）を批判的に考察したいと思います。その際、構造的に、また、人々の生活の実態に触れながら検討をすすめます。

生命系の経済学とは、人格をもった人間としてのニーズ、環境、資源、地球のすべての生命との共存などを基準とした主体的な指標の確立と、それを実現し保証する政策と運動を具体的に提示する経済学です。

マーケティング

曾 我 信 孝

現代社会の矛盾点をマーケティングの側面から分析する。その展開は、1つめに矛盾点を明確にするための分析をする。2つめにその矛盾点がマーケティングとどう関連しているかを検討する。3つめにマーケティング政策が社会的にどのような影響を及ぼしているか、批判的な側面から考察する。4つめに勤労的消費がどのように収奪されているかを明確にする。

「矛盾点」は一応分配の不均衡に置いている。したがって、独占産業資本のみならず、独占商業資本の消費者支配のメカニズムも分析対象にする。〔参考書〕講義中に適宜紹介する。

原価計算論

加 藤 利 安

原価計算は企業会計の一領域を形成している。昨年度に続き本年度も、我が国の『原価計算基準』（原価計算制度）の内容を中心にして、原価

計算の目的、役割、機能について講義するつもりである。またその際に、原価計算の発達や展開についてもできるだけふれることとする。試験は、中間と期末の2回行う予定である。講義はノートと以下の教科書、参考書を使用して行う。

〔教科書〕 諸井勝之助著『原価計算講義』
(東大出版会)

〔参考書〕 津曲直躬著『原価計算論講義』
(中央経済社)

労務管理論

石井脩二

周知のように近年の日本企業をとりまく経営環境は、つとにその複雑さをまし、とりわけ国際化や情報化・ソフト化と称される経済基調や体質の転換のなかでその生き残り戦略が真剣に模索されている。この講義では、重大な経営環境の変化のなかで生き残り戦略の要となる「人事・労務管理」の新たな展開方向を検討するつもりである。特に、日本企業の海外進出が活発化するなかで従来日本企業の競争力の源泉をなしているといわれてきたいわゆる「日本的経営」がどの程度の通用性をもちうるのか、また国内ではサービス経済化の波のなかでいかなる人事・労務管理が必要とされているのか、といった現在の諸問題を検討する。

〔参考書〕 『労務管理先端シリーズ(1), (2), (3)』
(中央経済社) 各¥2,800

行政法Ⅱ

斉藤 寿

行政法の各論として、各種の行政法領域ごとに、関係法令を類型化し、解釈学的にとらえるとともに、判例や事例研究を通して、行政法令の現実的機能にふれつつ、興味深い講義を続け、楽しく研究します。

主な内容としては、(1)行政組織法、(2)公務員法、(3)公物法・営造物法、(4)警察法、(5)統制法、(6)公企業法、(7)公用負担法、(8)財政法、などについて、学んでいきます。そして、時間的に可能であれば、生活空間(環境)形成行政法などにも、および予定です。これらの講義は、一年間・全体を通じて、極めて楽しい雰囲気の中でなされます。

〔教科書〕 『現代行政法論』(勁草書房)、
『行政法Ⅰ・Ⅱ』(評論社)など、拙著の中から、講義の際、選択・指示します。

民法Ⅳ(1)

青山尚史

生活の基盤であり根源をなす家族生活を規律した親族法は、最も身近な法律である。講義では、夫婦・親子・親族を中心としつつ、民法全般の基礎知識をも加えるつもりである。すなわち、民法総則の簡単な説明、ついで物権と債権につき必要最小限度の説明、そして親族法に大部分の時間を充て、最後に時限の残余状況により相続法の概要を体系的に説明しようと考えている。

〔教科書〕 鍛治良堅著『親族法講義』(啓文社)

民法Ⅳ(2)

青山尚史

民法Ⅳ-(2)は、相続法(民法典第5編 882条～1044条)である。親族法が人間生活の基礎であり根源をなすところの種族保存の生活関係を直接規律する純粹身分法を中心とするのに対して、相続法は親族生活の裏づけをなす身分財産法が中心となる。民法第5編は、大別すると、相続法と遺言法そしてこの両者の調節機能を果たしている遺留分法とから成り立っている。

〔教科書〕 鍛治良堅著『相続法講義』(啓文社)

比較憲法

竹花光範

本年度も、昨年度と同様、次の順序で講義を行う予定である。

1. 比較憲法学とは
2. 憲法概念と分類
3. 国体と元首(共和制と君主制、元首、国のシンボル等)
4. 統治の原理と構造(民主政治の基本原則、議院内閣制と大統領制、一院制と二院制、社会主義国における議会制度等)

〔教科書・参考書〕 講義中で述べる。

地方自治法

梅木 崇

憲法および行政法との関連を重視しながら、地方自治法における主要な制度を解説する。また、

地方自治の運営について、行政の実態と裁判所の判例をとりあげ、その理解を深める。本講の目的は、地方自治法そのものを理解させることよりも、地方自治行政という行政の具体化過程を通じて、わが国における行政権の行使に関する基礎的なものの考えかたを学ぶとともに、統治の機構について、比較的詳細に考察する点にある。その際、諸種の公務員試験の問題についても説明するよう努める。

〔教科書・参考書〕開講にあたって指示する。

経 済 法

川 井 克 倭

経済法—独占禁止法を中心として—

第1部 経済法概説。経済法とは何か。経済法と競争政策。経済法における独占禁止法の位置づけ。

第2部 独占禁止法。独占禁止法の目的・その他私的独占、カルテル、企業統合、独占的状态、不公正な取引方法等について、なるべく条文に即して講義する。

このほか、最近でいえば経済の国際化を迎えて、国の内外で競争政策に対する関心が高まっている。日米構造問題協議しかり、臨行審の公的規制の見直ししかりである。このようなアップデートの問題に対して講義し、学生の社会的問題に対する学問的素養を高める。

〔教科書〕現在執筆中である。

〔参考書〕講義の中で紹介する。

抄著『カルテルと課徴金』（日本経済新聞社）

国際関係論

首 藤 素 子

第1に、1950年代以降現在までの国際関係における行動主体の多様化についてできる限り具体的に現状分析をする。第2に、戦後日本の対外関係について、日米経済摩擦、東南アジア諸国に対する援助の2点を中心に、これもできる限り新しい資料をふまえながら問題の所在を理解できるようにしたい。第3に、現代の国際関係における紛争の問題について、とくに南北問題及び第3世界諸国における紛争と軍事化の構造をとりあげ、暴力と平和の問題に対する関心を深めるようにしたい。

〔教科書〕渡辺昭夫編『講座国際政治』第4巻

（東大出版会）1989年 円2,266

〔参考書〕細谷千博・丸山直起編

『国際政治 ハンドブック』改訂版
（有信堂高文社）1991年

西洋政治史

（前期）鬼 柳 勝 一
（後期）浦 田 早 苗

ヨーロッパにおいて自由と民主化が今日ほど問われている時代はない。このような概念の実践と制度化をめざした政治が本格的に登場するのは、近代市民社会においてである。

講義では、受講生各自の関心を基礎に、近代市民革命から現代に至るまでの政治上の主要な問題を史的に整理しようと思う。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕講義進行の都度列挙する。

宣伝広告論

上 條 末 夫

政治宣伝と政治的コミュニケーションの問題を主として取り上げる。政治宣伝の理論、歴史、そして実際について、具体例によって説明する。現代は宣伝の時代ともいわれ、政治も宣伝やコミュニケーションがきわめて重要な役割をもっている。主権者としての国民は、これにどう対応していくべきか、あるいは社会人として、社会および個人の間をどう調整していくべきか、という問題を解明していきたい。

〔参考書〕その都度指示する。

政 党 論

早 川 純 貴

前期は戦後西ドイツにおける政党政治の展開、すなわちCDU-CSU アデナウアー政権に始まり、SPDとCDUとの大連合そしてSPDの政権奪取の過程を辿りつつ、いかにしてSPD（社民党）政権が可能となったのかを論じる。後期はイギリスの二大政党政治について、とりわけ戦後の保守党と労働党による「合意の政治」から70年代以降の「敵対政治」への転換、さらにサッチャー政治の特質までを論じる。

〔教科書〕使用せず。

〔参考書〕講義時に随時紹介

経営学史

北村 健之助

ドイツ経営経済学（前史、成立、1・2・3・4次方法論争、現代の経営経済学）およびアメリカ経営学（成行管理、科学的管理法、管理過程論、行動科学的展開）等々の発展過程を現代経営学を軸に探り、経営学の基本問題に迫ることができればと思います。テキスト、参考書は一応下記に示しましたが、必要があればその都度他の参考書もお薦めする積りです。

〔教科書〕藤芳誠一著『図説 経営学』（学文社）

国際経営論

桑名 義晴

われわれの住む地球は、かつての人間が想像もしなかったほどに時間的にも空間的にも狭くなっている。このため現在、世界の企業の国際化やグローバル化も非常に活発になってきている。とくに近年の日本企業は、地球規模で事業活動を展開するようになってきている。

本講義では、近年の日本企業にとって最も重要な経営課題の1つになってきている国際経営の諸問題を多面的な角度から検討していく。たとえば、国際環境の激変と政治リスク管理、グローバル競争戦略、国際情報システム、国際経営組織、国際人事管理、日本的経営の国際的適用性などの諸問題を、日本や欧米のグローバル企業のケースも織り込みながら講義していく予定である。

〔教科書〕中村久人・桑名義晴『最新国際経営論』（中央経済社）¥2,800

〔参考書〕講義中に紹介します。

経営統計

後藤 儀一郎

統計学、特に推測統計学の知識は経営学あるいは経済学の分野においても広く用いられている。統計学はもはや資料の収集とそれを表や図で表わすだけのものでない。不確実性と危険を含むあらゆる状況を理論的かつ組織的な方法で考察する。推測統計学の理論を学びながらそれらが実際においてどのように応用（例えば統計的品質管理、時系列分析、線形計画等）されるかを、学習する。

〔参考書〕吉野・後藤著『現代統計解析』（芦書房）¥2,700

保険経営論

石名坂 邦昭

今日、日本経済は世界的な景気の停滞と貿易摩擦の激化から輸出の減少傾向となり、一方国内の個人消費、住宅投資、設備投資が伸び悩むなど景気回復に暗い材料が多い。こうした中において高齢化問題など企業が克服しなければならないリスクが山積されている。そこで本講義においてはいかに各企業が企業危険に対処したらよいかといった観点から、リスク・マネジメントおよび保険を科学的にかつ実際の問題を取りあげながら行う。

〔教科書〕石名坂邦昭著『リスク・マネジメントの基礎』（白桃書房）¥2,500

財務会計論

渡辺 恵一郎

財務会計論は会計学の一分野であり、企業の経営成績と財政状態を明らかにするという基本的な機能を取り扱っている。財務会計の目的は、企業経営に直接従事する経営者が、投資者、債権者、その他企業の経済活動に利害関係をもつ人々に対して、適切な企業情報を提供することにある。この主たる提供手段が貸借対照表、損益計算書などの財務諸表である。

講義では、財務諸表を作成するための会計処理と表示方法を中心とする課題とし、またこれに関するわが国の商法、税法などの会計法規を取り上げ、さらに国際会計基準との関連にも触れる。

〔教科書〕染谷恭次郎著『現代財務会計』（中央経済社）

経営分析論

片桐 伸夫

経営分析の方法を大略、以下の要領で講義する予定ですが、特に伝統的、基本的方法である収益性、流動性の分析にポイントを置きます。

1. 収益性分析
2. 流動性分析
3. 生産性分析
4. 成長性分析

〔教科書〕開講の時指示します。

税務会計論

高木克己

我々が社会生活を送って行く上で、一生逃れることが出来ないものに税の問題がある。その中で特に重要な位置を占めている法人税法を中心に講義を行う。法人税法の中心課題である課税所得計算の構造を明らかにし、企業会計と税務会計の考え方や処理の違いを、広範な事例を解説しながら講義を進めて行くが、随時、課題を設定し、レポートの提出を求める。なお、テキスト、参考書は開講時に指示する。

経営労務論

中村真人

経営労務論は、企業経営における労働・労働力・労働者の諸問題を研究する学問である。特に、個別企業の労務管理および労使関係の理論・歴史・実態の解明をめざす。

本講義では、まず、企業労働に関する諸概念、労務管理と労使関係の歴史的発展などにつき概説する。つぎに、賃金、労働時間、雇用管理、労使関係、その他について各論を解説する。最後に、以上の知識をふまえた上で、現代日本における企業労働の具体的な諸問題を取り上げる予定である。

講義の中では、現実の諸事例にも、適宜、言及していく。

商業史

山田勝

現代商業の生成過程を、貿易を中心に講義する。特に商人（社）を中心にすえ、現代商業との関連に留意しつつ行う。対象とする時代は欧米については16世紀以降、日本については19世紀中葉以降とする予定である。

〔教科書〕開講時に指示する。

国文講読Ⅰ（上代）

佐原作美

『万葉集』の代表的歌人である柿本人麻呂や山上憶良などの歌を中心に鑑賞しながら講読していきたい。

〔教科書〕土橋 寛編『作者別 万葉集』
(桜楓社) ¥1,600

国文講読Ⅱ（中古）

大塚英子

平安貴族女性の一般教養ともされた、古今集の歌群にわけ入ってみよう。現代の私達にはむづかしくなった歌語も、多くの具体例に即して意味をたどると、こどばやイメージの生まれ育っていく様子が甦る。こうした歌語が、日本文学の源流となったことを知りたい。

〔教科書〕新潮日本古典集成『古今和歌集』
(新潮社) ¥2,370

国文講読Ⅲ（中世）

岡崎正

中世室町期に完成した演劇である能の詞章「謡曲」を読む。「謡曲」は先行文芸の粹をあつめ、そして後代文芸に大きな影響を与えた。いわば日本詩華の集散地のような位置にあった。謡曲を読むことによって劇文芸（戯曲）としての構造や、その文芸的価値を探る。

〔教科書〕増田・小林・羽田編
『能一本説と展開』(桜楓社)

国文講読Ⅳ（近世）

清田啓子

江戸が上方の影響から脱して独自の文芸をもち始めてから作品で、最も江戸的・都会的と目される黄表紙を読んでみようと思う。

〔教科書〕小池正胤他編『江戸の戯作絵本』(一)
(二) (社会思想社・教養文庫)
各¥640

国文講読Ⅴ（近・現代）

吉田司雄

近代文学の中から、別の世界（異郷・他界・桃源郷・ユートピア）への旅をモチーフとする小説を読みすすめてゆく。泉鏡花『高野聖』、夏目漱石『草枕』、谷崎潤一郎『吉野葛』、川端康成『雪国』、太宰治『お伽草紙』などを取り上げる

予定。

〔教科書〕最初の授業時に指示する。

〔参考文献〕鶴田欣也『日本近代文学における「向う側」』（明治書院）¥2,800
前田愛著作集第6巻『テキストのユートピア』（筑摩書房）¥4,940

国文講読V（近・現代）

（前期）尾形国治
（後期）田澤英藏

前期

夏目漱石の作品を読む。「三四郎」, 「それから」, 「門」, 「こころ」, 「明暗」のほか、「夢十夜」などを予定している。

後期

森鷗外の作品を読む。鷗外の文芸における営為の大略を知るために、最初の契機となるような作品について講ずる。

〔教科書〕重松泰雄編『森鷗外』（桜楓社）
その他のものは開講後に指示する。

国文特講V（近・現代）

尾形国治

明治・大正・昭和期の名作を1年間でおよそ12～3作品じっくりと読む。作者とその時代、生い立ちの問題、さらにはその文学的特色と可能性、その限界など、さまざまな角度から考察してみたいと思う。

〔教科書〕各種文庫本

英文タイプライティングII

竹内美恵子

キーボードのブラインド・タッチを習得していることを前提として授業をすすめます。おもにレター、各文書をスピーディに処理できることを学びます。

細かい内容は教場で説明します。なお、授業では基礎実技の指導はいたしません。

時事英語

岡本誠

その日の朝の英語ニュースを聞く。受講者はこれを機会に世の中の政治経済の動きにも関心をもつことが肝要。また当日は耳をよく掃除してやること。

〔教科書〕テープ使用。

計算機言語概論

杉田徹

高度情報化社会と呼ばれる二十一世紀の基盤技術のひとつにコンピュータが上げられる。その利用はあらゆる分野で急速に進められている。特に通信分野、医療関係の検査診断機器には、顕著なものがある。将来、診療放射線技師を目指す諸君にとって、コンピュータの基本知識は必要不可欠なものである。この講義ではパーソナルコンピュータの高級言語であるBASICを中心に、アルゴリズム的発想の習得とその活用を目標に授業を進める。講義は次のテーマで行う。

1. コンピュータ言語の基本理論
2. BASIC 言語
3. パーソナルコンピュータ (PC-9801) による実習

〔教科書〕戸川隼人著『ザ・BASIC』
(サイエンス社) ¥1,700

臨床放射線特論I

本間襄

医療の中で、診療録・依頼箋の内容を理解し、相互のコミュニケーションに欠かせない外来医学用語の初歩的知識の修得を目的とする。

〔教科書〕定めず

応用計測学

櫃尾英治

X線CT装置, MRI装置および核医学装置(ガンマカメラ, シングルホトンCT, ポジトロンCT)を中心とした医用機器のハードウェア, ソフトウェアについて概説する。また, 超音波装置, CRならびにPACS等についても講述する。

教職および資格講座

教 職 課 程
学校図書館司書教諭講座
社会教育主事講座
博物館学講座
社会福祉主事 講 座
社会福祉士基礎

※上記の教職および資格講座授業科目の講義内容が掲載されているが、各学部において受講できる課程および講座は以下のとおりである。
(履修についての詳細は、「教職課程・資格講座の履修要項」を参照すること。)

課 程 ・ 講 座 名	資 格 取 得 学 部
教 職 課 程	全 学 部
学校図書館司書教諭講座	全 学 部
社会教育主事講座	全 学 部
博物館学講座	仏教学部・文学部
社会福祉主事講座 社会福祉士基礎	全 学 部

講義内容目次

I 教職課程

(1) 教職に関する専門科目(必修)

教育原理(上岡 安彦).....	1
教育原理(末藤 美津子).....	1
教育原理(坂本 信昭).....	1
教育原理(村山 輝吉).....	1
教育原理(小山 一乗).....	1
教育心理学(教育方法論を含む) (大浜 幾久子).....	2
教育心理学(教育方法論を含む) (改田 明子).....	2
教育心理学(教育方法論を含む) (国眼 眞理子).....	2
教育心理学(教育方法論を含む) (中村 均).....	2
教育心理学(教育方法論を含む) (難波 和明).....	2
青年心理学(教育方法論を含む) (大浜 幾久子).....	2
青年心理学(教育方法論を含む) (川田 三夫).....	2
青年心理学(教育方法論を含む) (岸本 弘).....	3
青年心理学(教育方法論を含む) (牟田 悦子).....	3
特別活動(中野目 直明).....	3
生活指導(佐藤 尚人).....	3
宗教科教育法(松本 皓一).....	3
国語科教育法(神谷 道倫).....	3
書道科教育法(谷村 義雄).....	3
英語科教育法(大沢 一雄).....	4
社会科教育法(川合 元彦).....	4
社会科教育法(中島 義一).....	4
社会科教育法(野呂 肖生).....	4
社会科教育法(長谷部 八朗).....	4
社会科教育法(谷敷 正光).....	4
社会科教育法(大久保 治男).....	5
社会科教育法(橋爪 敏).....	5
職業科教育法(前田 幸一).....	5
商業科教育法(谷敷 正光).....	5
道德教育の研究(上岡 安彦).....	6
教育実習(上岡 安彦).....	6
教育実習(坂本 信昭).....	6
教育実習(村山 輝吉).....	6

(2) 教職に関する専門科目(選択)

教育哲学(汐見 稔幸).....	7
教育社会学(高島 秀樹).....	7
現代社会の諸問題と教育(高島 秀樹).....	7
教育評価(大浜 幾久子).....	7
教育情報学(難波 和明).....	7

教育調査(鈴木 規夫).....	7
教育関係法規(広沢 明).....	8
社会教育の基礎(社会教育概論) (村山 輝吉).....	(8)
社会教育施設(村山 輝吉).....	(8)
図書館学Ⅰ(山崎 慶子).....	(8)
図書館学Ⅱ(源 昌久).....	(8)
青少年問題研究(和田 謙寿).....	8
視聴覚教育(赤堀 正宜).....	(8)
教育臨床心理学(牟田 隆郎).....	8

(3) 教科に関する専門科目

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説(大久保 俊昭).....	9
日本史概説(小松 寿治).....	9
世界史概説(井村 行子).....	9
世界史概説(渡辺 惇).....	9
地誌学概説(今朝洞 重美).....	9
地誌学概説(佐藤 哲夫).....	9
地誌学概説(宮口 侗迪).....	9
人文地理学概説(小林 高壽).....	9
自然地理学概説(早船 元峰).....	10
自然地理学概説(高木 正博).....	10
民法Ⅰ(林 幸司).....	10
政治学原論(上條 末夫).....	10
社会学原論(渡辺 源樹).....	10
経済原論(小野 俊夫).....	10
哲学概説(篠原 壽雄).....	10
哲学概説(國嶋 一則).....	11
倫理学概説(久保 陽一).....	11
宗教学概説(脇本 平也).....	11
宗教学概説(洗 建).....	11
宗教学概説(松田 文雄).....	11
宗教人類学(佐々木 宏幹).....	(11)
民間信仰論(谷口 貢).....	11
東洋思想研究(館野 正美).....	11
民宗宗教成立史(洗 建).....	11
歴史哲学(麻生 建).....	12
日本文化史Ⅰ(廣瀬 良弘).....	(12)
美術史概説(中島 亮一).....	(12)
日本宗教文化史(脇本 平也).....	12

【職業】

産業概説(前田 幸一).....	12
職業指導(山田 勇治).....	12
商業実習(前田 幸一).....	12

【商業】

職業指導(山田 勇治).....	(12)
------------------	------

II 学校図書館司書教諭講座

図書館学Ⅰ(山崎 慶子)……………	13
図書館学Ⅱ(源 昌久)……………	13

III 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎(社会教育概論) (村山 輝吉)……………	14
社会教育計画(村山 輝吉)……………	14
社会教育実習(村山 輝吉)……………	14
社会教育実習(上岡 安彦)……………	14

(2) 選択必修科目

現代社会の諸問題と教育(高島 秀樹)…	(15)
婦人問題と社会教育(矢口 悦子)……………	15
青少年問題研究(和田 謙寿)……………	(15)
青少年指導演習(和田 謙寿)……………	15
社会教育施設(村山 輝吉)……………	15
図書館学Ⅰ(山崎 慶子)……………	(15)
博物館学Ⅰ(倉田 芳郎・太田喜美子)…	(15)
博物館学Ⅱ(竹内 順一)……………	(15)
企業内教育・職業訓練(塩川 正人)……………	15
社会体育Ⅰ(古田 潤子)……………	16
社会体育Ⅱ(古田 潤子)……………	16
視聴覚教育(赤堀 正宜)……………	(16)
教育原理……………	(16)
教育心理学(教育方法論を含む)……………	(16)
青年心理学(教育方法論を含む)……………	(16)
社会心理学(坪井 健)……………	16
教育社会学(高島 秀樹)……………	(16)
教育調査(鈴木 規夫)……………	(16)

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学Ⅰ(倉田 芳郎・太田喜美子)……………	17
博物館学Ⅱ(竹内 順一)……………	17
教育原理……………	(17)
社会教育の基礎(社会教育概論) (村山 輝吉)……………	(17)
視聴覚教育(赤堀 正宜)……………	17
博物館実習Ⅰ(館務) (倉田 芳郎・飯島 武次・ 太田喜美子)……………	17
博物館実習Ⅱ(収集) (所 理喜夫・葉貫 磨哉 恵津森智行・太田喜美子)……………	17
考古発掘実習(千葉 基次)……………	18
博物館実習Ⅲ(見学) (倉田 芳郎・茂沢方尚・ 太田喜美子)……………	18

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅰ(廣瀬 良弘)……………	18
インド仏教文化史(奈良 康明)……………	18
西洋文化史Ⅰ(椋川 一朗)……………	18
西洋文化史Ⅲ(三小田 敏雄)……………	18
仏教美術(中島 亮一)……………	19
現代美術(宮崎 克己)……………	19
禅美術(海老根 聰郎)……………	19
美術史概説(中島 亮一)……………	19
西域美術史(相馬 隆)……………	19
考古学概説Ⅰ(日本)(大三輪 龍彦)……………	19
考古学概説Ⅱ(外国)(飯島 武次)……………	19
考古学特講Ⅱ(高浜 秀)……………	19
考古学特講Ⅳ(飯島 武次)……………	19
日本民俗学(谷口 貢)……………	20
仏教民俗学(和田 謙寿)……………	20
宗教人類学(佐々木 宏幹)……………	20

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

※社会福祉原論(伊藤 秀一)……………	21
※社会福祉原論(永田 幹夫)……………	21
※老人福祉論(東條 光雅)……………	21
※障害者福祉論(原田 信一)……………	21
児童福祉論(前期:安梅 勅江) (後期:高橋 重宏)……………	21
※社会保障論(近藤 功)……………	22
※公的扶助論(伊藤 秀一)……………	22
※地域福祉論(永田 幹夫)……………	22
※心理学(福祉)(井上 孝代)……………	22
※社会学(福祉)(星野 貞一郎)……………	22
※法学(福祉)(鶏徳 啓登)……………	22
リハビリテーション論(原田 信一)……………	23
社会福祉計画論(和田 敏明)……………	23
社会福祉運営論(永田 幹夫)……………	23
家族福祉論(田村 健二)……………	23
医療福祉論(春見 静子)……………	23
婦人福祉論(林 千代)……………	23
保健福祉論(小林 臻)……………	24
社会福祉発達史(林 千代)……………	24
海外社会福祉論(星野貞一郎)……………	24
上記科目のうち ※印は、社会福祉主事、社会福祉士基礎に兼用 する科目、それ以外は社会福祉主事のみ対象と する科目	

注()頁は他の課程・講座と兼用科目のため、
講義内容は主たる課程・講座にのみ掲載し、そ
の頁を表示している。

I 教 職 課 程

(1) 教職に関する専門科目 (必修)

教 育 原 理

上 岡 安 彦

『エミール』(上・中・下)を年間を通して読みます。次に出てくる問題について日本の現象を例として教育学的に考察します。

そして最後に原典に直接触れ、ルソーの音楽の音色を身体で感じることにします。

〔教科書〕『エミール』〔上・中・下〕
(岩波文庫)

上 ¥570, 中 ¥520, 下 ¥520

教 育 原 理

末 藤 美 津 子

新教育運動を概観し、その代表的な思想・実践について具体的に検討する。

〔参考書〕講義中に、そのつど紹介する。

教 育 原 理

坂 本 信 昭

下記のテーマを「問題」としてとりあげ、ともに考えていきます。

1. いま教育のめざすもの
2. ひとの適応・成長・発達
3. 家庭の役割・地域の働き
4. 人格をはぐくむ
5. 学校への期待
6. よりよい授業に向けて
7. 学習をふかめる
8. 教師を育てる
9. 教育制度をみなおす
10. 障害児とともに
11. 内なる差別を考える
12. 学びへの出発

〔教科書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート(エイデル研究所)¥1,800

〔参考書〕教師養成研究会『教育原理』
(学芸図書)¥950

デュエイ著、宮原誠一訳『学校と社会』
(岩波文庫)¥200

教 育 原 理

村 山 輝 吉

テキストにそいながら、下村湖人の著作などを手がかりとして、人間の発達と教育、文化、社会のかかりについて原理的考察をおこない、あわせて教育の制度、形態、内容、方法のもつ意味と問題を社会的歴史的な視座からアプローチしたい。

〔参考書〕『下村湖人全集』〔全10巻〕(国土社)
『教育の原理Ⅰ・Ⅱ』(東大出版会)

〔テキスト〕堀尾輝久著『教育入門』(岩波新書)
¥480

教 育 原 理

小 山 一 乗

教科書や適宜配布する資・史料等に刺激されながら、日常生活の中で自明理のごとくに看過している教育の原初的事象を意識的に対象化し、教育的・教育学的に考察していきたい。日常語と非日常語とに使い分けている用語についてもとりあげてみたい。その際の留意項目は、①教育学研究の諸方向、②教育とは「何」か、③教育の目的・目標、④教育の内容、⑤教育の方法(教授学習・生活指導)、⑥教育の経営、⑦教育の制度、⑧教師。生涯教育・学習における学校教育の意義について一貫して考えるようにする。

〔教科書〕教師養成研究会『教育原理』
(学芸図書)¥950

『教育小六法』(学陽書房)¥2,200

〔参考書〕田村皖司他『きょういく』ビジュアルノート(エイデル研究所)¥1,800

教育心理学
(教育方法論を含む)

大 浜 幾 久 子

前半では、発達心理学・学習心理学・人格心理学など現代心理学の諸分野の基礎理論のうち、教育にかかわるものを解説する。後半では、学校教育を中心に、教育の現場の様々な問題を取りあげ、教育心理学的な考え方や、それに関連した最近の心理学研究を紹介、解説していく。また、知能テストなどの実習や初歩的な実験演習も随時、行う。

教育心理学
(教育方法論を含む)

改 田 明 子

教育心理学の基本的な問題について、学習、発達などの領域を中心に学習する。また、必要に応じて、心理検査などの実習を行なう。

[参考書] 講義中に、そのつど紹介する。

教育心理学
(教育方法論を含む)

国 眼 眞 理 子

教育心理学は、教育という場に応用された心理学である。したがって広汎な領域が含まれるが、中学・高校の免許状取得を念頭において、「心の健康」、「対人関係とパーソナリティ」、「学習意欲と教育評価」の三領域を中心に学び、考えていきたい。

教育心理学
(教育方法論を含む)

中 村 均

教育心理学の研究によって得られた知見と研究の動向を概観し、それを教育方法に展開する方途を検討する。

1. 発達理論と教育方法
 - ・ゲゼル、ピアジェ、ヴィゴツキ等の発達理論から
2. 学習理論と教授方法
 - ・刺激=反応理論(行動主義)の立場から
 - ・認知理論の立場から
3. 個人差の検討
 - ・パーソナリティ理論
 - ・知能観
4. 教育評価

[参考書] 西山 啓・山内光哉監修『新教育心理学入門』(ナカニシヤ出版) ¥2,060
鈴木宏昭他『教科理解の認知心理学』(新曜社) ¥2,600 他適宜紹介する。

教育心理学
(教育方法論を含む)

難 波 和 明

動機づけ、A T I などを中心として、教える立場からだけでなく、学ぶ側の立場を考慮にいたした授業を行うために必要な心理学的な話題を扱うとともに、認知心理学の最近の成果にも触れながら、教育について考えていく。

[教科書] その都度指示する。

青年心理学
(教育方法論を含む)

大 浜 幾 久 子

まず青年期に限らず一般に、人間の発達とは何か、について考察する。その上で青年期の様々な問題を取りあげ、それらに対する心理学的な分析の方法と最近の研究を紹介、解説していく。また、性格テストなどの実習や初歩的な研究演習も随時、行う。

青年心理学
(教育方法論を含む)

川 田 三 夫

今も昔も青年(期)をめぐる問題は少なくない。大きく見れば歴史、社会の問題とも言えるが、基本的には個人的・人格的な問題といえよう。

発達や人格に関する心理学理論の理解だけにとどまらず、現代の青年を理解するために必要な“キー・ワード”やコンセプト、青年にかかわるためのアプローチといったものにも言及してみたい。

国際化が言われる今日、古くて新しい問題でもある“日本人的な”心性といったものを今の青年がどの程度意識しているのかを、学生諸君に問いかけながら考えてみたい。

教科書は特に指定せず、話題や事例など、必要に応じて資料の形で学生に提示している。参考文献も講義の中で紹介している。

青年心理学
(教育方法論を含む)

岸本 弘

内外の青年心理学の研究業績を提示し、わが国の青少年をめぐる発達環境のゆがみについて考察したい。そして効果的な教育方法についても考察したい。

〔教科書〕『思いやりの動機と達成動機』
(学文社) ¥3,600

青年心理学
(教育方法論を含む)

牟田悦子

人間の発達の中で青年期がどのような意味をもつかを考えながら、青年期の身体的、知的、情緒的発達や人間関係の特徴、彼らへの対応について学ぶ。また、現在の学校教育の中で問題になっている様々な事象に対して、各自が考える契機をつくることもこの授業のねらいとしたい。

〔教科書〕岸本 弘編著『ポイント教育学—青年心理学』(学文社) ¥1,000

特別活動

中野目 直明

情報化、国際化、高齢化の進む現代社会において、広い視点から学校教育の意義やこれからの方向を考え、人間形成を目指す特別活動のねらいや内容を明らかにしたい。主として、次の内容を講義する。

1. 現代社会と学校教育の課題
2. 人間形成を目指す特別活動
3. 特別活動の内容とその指導

〔参考書〕中野目直明著『教育情報管理と学校経営』(エイデル研究所) ¥2,000

生活指導

佐藤 尚人

児童・生徒の教育を考える時、教科学習の指導はもちろん、学習がスムーズに行われるための環境づくり、わけでも1人ひとりの子どもの学習への積極的な姿勢を導き出すことは極めて重要である。

本講義では、友だちができない・学習に集中で

きない・登校拒否・非行など具体的事例をもとに、子どもの精神発達の道すじを理解し、教師として子どもにどのように関わってゆくかについて考える。

〔教科書〕講義ノートに基づき進めてゆく。
〔参考書〕随時指示する。

宗教科教育法

松本 皓一

宗教科教授法としての理論と実践上留意すべき諸問題を述べる。

〔参考書〕随時必要に応じて指示する。

国語科教育法

神谷 道倫

前期は中学校・高等学校の国語科教育の意義・目標・内容、あるいは教材に即したそれぞれの指導方法等について講義、後期は実際の教材にあたって、基礎学力を点検するとともに、教材研究のあり方・指導事項・方法等主に模擬授業の形態で具体的に研究を深め、実践に際しての指導力を養成する。

〔教科書〕『中学校・高等学校 国語科教育法(新編)』(桜楓社) ¥1,200

書道科教育法

谷村 義雄

文字を書くことは誰でもできることで決してむずかしいことではない。しかし、書は中国においては四千年の歴史があり、日本においても千数百年の歴史がある。この間にいろいろな書体が出来、そしていろいろな書法が生れた。書の芸術は悠遠の歴史の中で開花したもので、現在もまた現在の書が生れつつある。書を単なる文字記号と考える浅薄な思考に対して、書のもつ思想性、民族性を十分に理解して、書とは何かを改めて問いただす授業にしたいと思う。教育法はどう教えるかではなく、なにを教えるべきかを探究する内容にした。

〔参考書〕学習指導要領解説『芸術科』

英語科教育法

大 沢 一 雄

多くの学者によって唱えられてきたいろいろな外国語教育法を検討し、わが国の英語教育において、どのような教授法を用いたらよいか、発音、語彙（い）、文法等の指導はどのようにしたらよいか、などを考える。講義は、ノートとプリントによっておこなう。

社会科教育法（地理）

川 合 元 彦

社会科教育発足の背景を明らかにし、学習指導要領（社会）の変遷、社会科教育についての論争、地理の学習指導上の諸課題などを考察し、新学習指導要領（社会科・地歴科）についてもとりあげる。また、指導案の具体的な作成も行なう。地図帳は必ず持参すること。

〔参考書〕 随時必要に応じて指示する。

社会科教育法（地理）

中 島 義 一

社会科（地理）教育の諸問題を講義し、後半は学生諸君に交代で壇上に立ってもらって授業演習を行う。下記教科書のほか、地図帳（高校用、中学用どちらでもよい）を忘れずに持ってくる。出席を重視する。遅刻や欠席の多い人は教師として不適格である。

〔教科書〕 山崎謹哉著『新訂 地理教育の本質と実践』（古今書院）¥2,266

社会科教育法（歴史）

野 呂 肖 生

「中・高等学校の現場で社会科の授業をするさいに役立つように」を目標とし、社会科教育（とくに歴史）の理論と実践を学ぶ。とくに個性を重視したい。

社会科教育法

長谷部 八 朗

教育をめぐるさまざまな今日の課題にもふれながら、社会科教育のあり方をともに考えてみたい。

前期は、社会科の性格、目標、歴史、指導計画、指導案、教材研究、教育評価といった問題について、とりあげる予定である。

そして後期には、受講生にテーマを課し、発表してもらう機会を持ちたい。

より詳しい進め方については、最初の授業で述べる。

〔教科書・参考書〕 適宜指示する。

社会科教育法

や しき
谷 敷 正 光

社会科は、民主主義の発展と平和的な国家・社会の形成者の育成をめざす上で、重要な使命を負って誕生した教科であり、日本の将来を担ったと云っても過言ではない教科である。しかし、この社会科教育も、戦後日本資本主義発展とともに大きく変遷し、動揺を続けてきた。

したがって、しっかりと社会科教育を樹立するため、単なる授業方法の技術論ではなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼって充分検討してみたい。その上で、社会科教育の基本原則とその内容・方法の把握につとめ、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。年間の授業計画は次の通りである。

①戦後日本資本主義の発展と教育、②教育の基本概念、③日本資本主義の発展と社会科教育、④社会科教育の基本概念、⑤中学校・高等学校の教育課程と社会科、⑥社会科の学習指導、⑦学習指導案の作成、⑧中学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑨高等学校社会科の目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての社会科授業実践の研究、⑬社会科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕 梶 哲夫著『中等 社会科教育研究(1)』（高陵社）

遠山 啓著『競争原理を超えて』

（太郎次郎社）

石川達三著『人間の壁』（新潮文庫）

〔参考書〕 灰谷健次郎著『兎の眼』（新潮文庫）

無着成恭著『山びこ学校』（角川文庫）

その他、若干のルポ、小説、社会科の教科書、中学校・高等学校学習指導要領も使用する。

〔注意〕年間かなりの資料を作成配布するので、必ずファイルを用意すること。視聴覚教室も使用するので、常に教場には注意しておくこと。

社会科教育法

大久保 治 男

現下山積する教育上の諸問題を意識しつつ、社会科の教科教育法のより効果的実践方法を探究する。学校教育における高校の「政治・経済」「現代社会」中学の「公民」など社会科系列の検定教科書や学習指導要領を分析しつつ社会科教育法の目標、構成、内容等について考究する。さらに具体的に指導計画、指導案、指導方法、教材研究、教育評価については、受講生をグループ別に模擬教育実習を通じて実践させることで合目的教育方法を発見させるよう努める。OHP、スライド、8ミリ、ビデオ等視聴覚教育器機も使用しつつ一方的講義でなく受講生にも積極的に学習参加させ、将来の教師としての自覚や意欲を持たせ楽しい講義となるよう配慮する。

〔教科書〕その都度指示する。

〔参考書〕『学習指導要領』（中学・高校の社会）各自が使用した社会関係の教科書。

社会科教育法

橋 爪 敏

社会科は、戦後の民主的諸改革の一環として、民主的な国民の形成を目的として設定された。したがって、単に知識の習得のみを目的とした教科ではなく、戦後教育の中心を成すものと位置付けられてきた。しかし、それも、現実の政治的状況のなかで紆余曲折し、また現在、再編が企図されつつある。そこで、社会科教師に求められる「資質」は他の教科のそれにも増して、厳しいものがあると言っておく。

この授業では、こうした点を踏まえた上で、社会科教師に必要な基礎的認識や知識を習得する事を目的とする。また、模擬授業等の機会を設けて“教えること”を、実際の体験を通して学習することとしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

職業科教育法

前 田 幸 一

当授業は以下の項目で進めていく。

1. 「技術・家庭のあり方」について、新聞の切り抜きを通して考えていく。
2. 新旧の『中学校学習指導要領』の比較
3. 職業教育について

商業科教育法

谷 敷 正 光

「産業教育」（職業教育）の一つである商業教育は、日本の資本主義をささえる重要な一環としてつねに重視され、産業構造の高度化、経営革新にもなつてめまぐるしく変遷してきた。そして、高度成長期の高校教育の「多様化」政策の破綻にともなつて、商業教育は大きく軌道修正され、さらに、先端産業化、国際化、情報化時代をむかえ、再び修正されようとしている。従つて、本講は「職業教育」のあり方そのものが問われている現在、しっかりと商業教育を樹立するため、この「教科教育法」を商業教育の単なる技術論に終らせることなく、より基本的な「教育とは何か」といったところまでさかのぼり、本来の意味での商業教育論、職業教育論を展開し、教科担当の専門職としての認識を深めるとともに教員としての資質の養成につとめたい。

産業教育振興中央会や全国産業教育振興会連絡協議会などから「近年、産業高等学校の専門教科の教員の確保は困難を極めており」「教員養成に一層のお力添えをお願いいたします」との要請が私立大学協会に行われており、商業の教員はまだ不足している（67年11月）ので、しっかりと勉強して教師をめざして欲しい。年間の授業計画は次の通りである。

①日本資本主義発展と教育・職業教育、②教育の基本概念、③職業教育、商業教育の概念、④高等学校における商業教育の現状と課題、⑤高等学校の教育課程、⑥商業科の教育課程、⑦商業科の学習指導、⑧学習指導案の作成、⑨商業教科・科目の個別目標・内容・取り扱い、⑩教育評価、⑪教育実習の意義、⑫模擬授業を通じての商業科授業実践の研究、⑬商業科教師論、⑭教員採用試験の準備と今年度の採用試験について（教員採用試験の受験希望者は授業とは別に指導する。）

〔教科書〕田中義雄『商業科教育論』（多賀出版）城山三郎『素直な戦士たち』（新潮文庫）

灰谷健次郎『兎の眼』（新潮文庫）
〔参考書〕竹内 宏『日本の学歴社会は変わる』
（有斐閣）

その他、高校商業の教科書、高等学校
学習指導要領、新聞の切り抜き、雑誌、
ルポ、小説なども使用する。

〔注 意〕年間かなりの資料を作成して配布する
ので、必ずファイルを用意すること。
視聴覚教室も使用するので、常に教場
には注意しておくこと。

教育実習後は、口頭報告、レポート作成－提出、
教育問題にかかわるVTRの視聴、グループ編成
による授業（ディスカッション）を行い、教育へ
の理解を深め、望ましい教師像について一緒に考
えたいと思う。参考書は、下記以外にも授業で適
宜紹介する。

〔参考書〕大村はま著『教えるということ』
（共文社）¥480

田村皖司他著『きょういく』ビジュアル
ノート（エイデル研究所）¥1,800

道徳教育の研究

上 岡 安 彦

道徳教育の基礎理解と課題研究を行う。
〔教科書〕『道徳教育の研究』（改訂版）（学芸
図書）¥773

教 育 実 習

村 山 輝 吉

学生が教育実習に主体的にとりくみ、教育実践
について理解を深めるよう、年間を通じて次の事
項を取りあげる。

1. 教育実習の意義と心がまえ
2. 学習指導について
3. 生活指導について
4. 学校と教師に関する諸問題

実習校における実習体験をはさんで、講義、討
議、レポート作成、面接指導等、適宜の方法と形
態で進めていく。

教 育 実 習

上 岡 安 彦

事前指導

学校の教師としての仕事について講義
学習指導案作成実習

訪問指導

実習期間の研究授業参加

事後指導

デューイの『学校と社会』によって自分の教育
実習の体験を吟味し、日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕『中学校 学習指導要領』（大蔵省印
刷局）¥250

『高等学校 学習指導要領』（大蔵省
印刷局）¥361

デューイ『学校と社会』（岩波文庫）
¥350

教 育 実 習

坂 本 信 昭

教育実習前の段階では、教育実習の意義・目標
・内容（領域）に関する講義とビデオ教材「教育
実習の日々」等を視聴し、教育実習の心得など
についての事前準備指導を行う。

教育実習期間中は、できるかぎり実習校を訪問
したいと思っている。

(2) 教職に関する専門科目 (選択)

教育哲学

汐見 稔 幸

昨年までは子ども・青年の発達上に生じている諸問題を考えることを通じて日本の教育問題を分析してきました。今年度はその方法を踏襲しながらも、より学校教育そのものに焦点を絞る方向で学び合いたいと思います。学校とは何か、なぜ学校がときとして抑圧的になるのか、登校拒否・不登校をどうとらえたらよいのか、教師は今何を学ぶことが大切になっているのか。外国の学校と日本の学校はどこが異なるのか等々。どのような具体的テーマを立て、どういうテキストを使うかは参加者で相談して決めます。気楽に教育問題を論じあいたいという人を歓迎します。参加者にもよりますが宿形式でやることも考えています。

教育社会学

高 島 秀 樹

教育社会学は教育を社会的な事象ととらえ、社会学の方法をもって実証的に解明していこうとする教育科学の一部門である。教育が個人の発達を目指す営みであることはいままでもないが、それは同時に人間を社会の成員にふさわしく形成し、次代の担い手を育成することを通して社会の存続・発展を可能にするという、きわめて社会的な営みでもある。

この講義ではこうした教育社会学の基本的な考え方を明らかにした上で、社会集団の教育(家族、遊びと仲間集団、地域社会など)と学校に焦点を合わせ、その基本的特質を明らかにするとともに、現代日本における実態・問題点をできる限り具体的に考察していきたい。

〔教科書〕福永安祥・高島秀樹『教育社会学』
(明星大学) ¥2,000

現代社会の諸問題と教育

高 島 秀 樹

現代日本の社会は多方面において急速な変動を遂げつつあり、そこに多くの問題を内在させている。それらの変動や問題は伝統的な学校中心の日

本の教育のあり方にも大きな影響を与え、いかにあるべきかという鋭い問いを提起していると考えられる。

この講義では現代日本の社会の構造と特質を初めに明らかにした上で、子どもの生活実態を社会化、女性問題と教育、産業・労働の変化と教育、高齢化と教育、情報化と教育、国際化と教育、といった論点を取り上げてできる限り具体的にその実態を明らかにするとともに、単なる講義に留まらず、受講生自身にこれらの問題について考えてもらう機会となるようにしていきたい。

〔教科書〕近藤大生・有本 章編著『現代社会と教育』(福村出版) ¥2,000

教育評価

大 浜 幾 久 子

まず狭義の教育評価にとらわれず、教育心理学の研究手法 — 実験・観察・調査・テスト — の基礎を学ぶ。その上で、発達や学習の測定、評価に関わる研究演習を行い、そのことを通して、教育評価の諸問題に対する考察を深めていきたい。

教育情報学

難 波 和 明

パソコンによる実習によってコンピュータはどのような道具かを紹介するとともに、CAI、CMI、コンピュータ・リテラシーなど、コンピュータと教育に関する話題を扱いながら、情報化時代の教育について考えていく。

教育調査

鈴 木 規 夫

教育調査あるいは社会調査を実際に行い、調査に必要な基本的プロセスを学ぶと共に調査に不可欠なデータの解析法についても学習する。主な内容は、調査主題の設定、主題に関する討議、調査票の作成、調査の実施、結果の分析等である。なお、結果の分析は主としてパソコンを利用する。

教育関係法規

広 沢 明

憲法、教育基本法、子どもの権利条約など教育に関する基本法規につき、具体的事例に触れながら講義を行う。校則、体罰、内申書、日の丸・君が代、教科書検定、学校事故、障害児教育、民族教育など今日的な教育問題について、法的観点から検討をしたい。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

社会教育の基礎（社会教育概論）

村 山 輝 吉

(P. 14) 参照

社会教育施設

村 山 輝 吉

(P. 15) 参照

図書館学Ⅰ

山 崎 慶 子

(P. 13) 参照

図書館学Ⅱ

源 昌 久

(P. 13) 参照

青少年問題研究

和 田 謙 寿

校内暴力や家庭内暴力・いじめ、薬物乱用など、年々少年の不良化や犯罪が増加していることは誠になげかわしい次第である。国家や地方公共団体はこれに対応して万全の策をつくしているが、焼石に水の現状である。この種の問題は理論だけで済ませられるものではなく、実際的な面からの考察が必要である。今年は特に中学校および高等学校の教師をめざす者、ならびに青少年指導者を志す人々を対象として、その理論と現実との両者をつみつけて考察する事にする。更に生活指導教諭を

希望する者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一方法として考えられるので、その旨を授業のはじめに申し込まれる事を希望する。
〔教科書〕和田謙寿著『少年補導の研究』訂正版（大志堂印刷）¥2,500

視聴覚教育

赤 堀 正 宜

(P. 17) 参照

教育臨床心理学

牟 田 隆 郎

現代の青年や子どもをとりまく社会環境は、必ずしも適正なものとはいえない。そのために、感受性に富む若い人たちが、社会のもつさまざまな矛盾を、「問題」というかたちで表現してきている。

本講義では、社会の表面に現れた青少年の諸問題を種々の材料を用いてとりあげ、その発生の機序と対応について、心理面・社会面等から考察していく。

(3) 教科に関する専門科目

教科に関する専門科目で各学科専門教育科目と兼用する科目の講義内容は「専門教育科目」欄に掲載されている。

【社会 地理 歴史 公民】

日本史概説

大久保 俊 昭

日本史のなかで、とくに中世・近世をテーマとして、政治史・経済史などを中心に検討してみたい。参考書等未定。

日本史概説

小 松 寿 治

古代から近世にわたり講義を行なう予定であるが、特に日本史を教える上で、最小限必要である事項を選び、授業を行ないたいと思う。教科書はとくに用意しない。

世界史概説

井 村 行 子

ヨーロッパ、アメリカの歴史を中心とするが、時間の許す範囲内においてアラブ・アフリカ世界についても言及していきたい。教科書等については開講時に指示する。

世界史概説

渡 辺 惇

アジアの歴史を地域的に東アジア、東南アジア、南アジア（インド）、西アジア、内陸アジアに分け、それぞれの歴史的世界の風土、歴史展開の特色等について講義する。

〔教科書〕特に定めず、プリント・資料を配布する。

地誌学概説

今朝洞 重 美

地誌学の本質を説明しつつ、日本地誌と外国地誌を講義する。

地誌学概説

佐 藤 哲 夫

アジアの地誌を例にして、地誌学の方法を学習する。日本人にとっては身近な地域であるアジアだが、視点を定めなければ、その多様な世界を统一的に理解することは難しい。アジア各地の自然と土地利用、都市の発達と民族の多様性などについて、地誌学的な立場から説明を行う。

地誌学概説

宮 口 侗 迪

日本という「地域」をどのように理解すればよいかということテーマとしながら、地誌学のあり方を講じていきたい。日本を相対化するために非日本的な世界にもふれる。教科書は特に使用せず、参考書は講義中に紹介する。

人文地理学概説

小 林 高 壽

歴史学は時間の経過を追って、人間の作り出した社会構造と人間心理に迫ってゆくが、地理学は空間の中に人文現象と、人間の認識される範囲の自然現象を追求し、説明する。人文地理学は従って常に歴史現象と歴史学とに交錯しつつ、人文現象に対する学的究明を深め、拡大しつつ、空間のもつ意味を固定的にでなく、究明しようとする。それ故にそこで扱われる素材は多様となる。

かくの如くして、本講においては、人文地理学の多様性をしっかりと受けとめ、将来の教職の現場にあって、応用のきく学問を勉強させようとする。

環境としての自然の基礎的理解、歴史学と地理学の交錯分野にまで、講義の内容が及ぶのは必然である。

- 〔教科書〕長谷川典夫著『教養のための地理学トピックス』（大明堂）¥2,800
 〔参考書〕高校用地図帳（アトラス）と、二宮書店地理統計。

自然地理学概説

早 船 元 峰

人間生活の舞台である大地の形成過程について論じ、人間と自然とのかかわりあいについて論じる。

さらに受講生に 2.5万分の1、5万分の1の地形図を用意（10枚程度）させ、それらをもとに種々なる作業（土地利用図・切峰面図・帯状平行投影地形断面図等を作成）をさせてより一層の理解を深めさせる。トレース紙・方眼紙・色鉛筆・黒インク等各人用意すること。

自然地理学概説

高 木 正 博

自然地理学の分野のうち、土地・水を基本的な視点において、自然環境と人間生活とのかかわりを展望する。

民法 I

林 幸 司

民法典のうち第一編「総則」と第二編「物権」（いわゆる担保物権法を含む）を対象とし、その基本的な構造の理解を目的とする。

また本講義では、重要な法制度や権利・義務が「受講生自身の日常生活とどのように密着しているか」を実感できるように留意し、『鵜呑み』ではなく『理解』する方法を習得してもらえよう努力していきたいと考えている。

- 〔教科書〕開講時に指示する。
 〔参考書〕開講時に指示する。

政治学原論

上 條 末 夫

国家、権力、イデオロギー、議会、選挙、政党

などの概念の解説を通じて政治の本質を明らかにすることに主眼をおくと共に、国際政治の本質とシステムについて解明する。また、政治システムにおける主権者たる国民の政治参加のあり方や役割を明確にし、民主政治のあるべき姿を示したい。そのことによって、将来政治教育の一端を担う際に必要な最小限の基礎学力が身につくような講義とする。

- 〔教科書〕加藤秀治郎著『政治学入門』（芦書房）¥2,000

- 〔参考書〕上條末夫ほか著『基礎政治学』（北樹出版）¥2,300

社会学原論

渡 辺 源 樹

何よりも社会学は現実科学であるという視点をふまえ、つとめて人間の存在・行動の問題と関らしめながら、集団論・組織論などを中心として基礎理論にぞくする諸問題を講述するとともに、現代社会学の課題とその主要問題を体系的かつ具体的に講述する。

経済原論

小 野 俊 夫

いわゆる近代経済学の立場から、近年の学問的成果をも考慮し、現代経済学の基本を解説し、複雑な現代経済を理解しうる力を養うことを目指す。
 〔教科書〕開講の際に指示する。

哲学概説

篠 原 壽 雄

中国の哲学・東洋思想を理解しようとする、儒教・仏教、そして道教の学習は欠かせない。そこで前期は老荘の学と道教を学びたい。後期には墨子の非命、非儒などの精神が韓非子にいかにか受容されたかなどを中心に、先秦の人びとの心にあるものを探りたい。ついで荘子を学び、併せて中国禅思想を考究したい。

- 〔教科書〕『荘子』〔内篇〕（中公文庫）

哲学概説

國 嶋 一 則

人間は、何かを頼りとし支えとしなければ生きてゆけない。しかし日常、われわれは自己の人生の頼りとなり支えとなるものを自覚していない。それを自覚することは、自分がどのような生き方をしているのかを知ることである。つまり主義に拠り主張をもって生きることである。

歴史上の大きな主義を検討することによって、現代世界の有力な主義を明確にし、自己の持つべき主義を選択する手掛りとしてほしい。

〔参考書〕その都度示す。

倫理学概説

久 保 陽 一

ヘーゲルの『法哲学』第3部「人倫」の箇所を読みながら、現代における家族、社会、国家のあり方とそこで人間の生き方について考えることにする。

〔教科書〕世界の名著『ヘーゲル』（中央公論社）

宗教学概説

脇 本 平 也

——宗教学説史——経験科学としての宗教学の成立と展開を、問題中心に学説史的にあとづけてみる。

参考文献をその都度指示する。

宗教学概説

洗 建

宗教学の体系について概観し、その中から宗教社会学的問題、とりわけ政教関係の問題をとりあげる。

〔参考書〕適時指示する。

宗教学概説

松 田 文 雄

初めに宗教学の研究手法、その領域などを概説し、今年度は日本仏教の特色について述べる。

〔参考書〕随時指示する。

宗教人類学

佐々木 宏 幹

(P.20) 参照

民間信仰論

谷 口 貢

日本社会の各地に展開している神祭りや信仰行事の具体的な事例を紹介しながら、神と人が織り成すさまざまな世界には、どのような意味があるのかを探っていきたい。そして、民間信仰の性格や機能、あるいは現代的意義といった問題について考察を加える。

〔参考書〕必要に応じて紹介する。

東洋思想研究

館 野 正 美

本年度は、中国古代の医学思想について講じてゆきたい。中国古代の医学は、アーユルヴェーダやユナニと並んで、世界三大古典医学のひとつであり、そこには、たんなる養生法の技術を越えた、人間存在の本質に迫る哲学的思惟が看取できる。

本年度は特に、いわゆる“気の医学”としての中国古代医学の、最も根幹をなす哲学的思惟の原初形態を概観してみたい。

〔教科書〕プリント使用

〔参考書〕授業中に紹介します。

民衆宗教成立史

洗 建

新宗教の規定をめぐる諸問題、新宗教の展開、発達史を概観し、主要な新宗教教団について紹介

する。
〔参考書〕堀 一郎編『日本の宗教』（大明堂）
¥2,000

日本興業銀行産業調査部編『日本産業
読本』（東洋経済新報社）
武藤博道・日本経済研究センター編
『図説日本産業』（日本経済新聞社）

歴史哲学

麻生 建

歴史哲学をめぐる諸問題について概観した後で、歴史哲学の基盤をなす歴史「認識」の問題を、「解釈学」を中心に考えてゆく。「解釈学」とは、今日では哲学一般の構成要素の一つとして「人間存在」そのものに関わるものとされているが、そもそもは「他者理解」の問題、「歴史理解」の問題である。

〔教科書〕麻生 建『解釈学』（世界書院）
¥2,500

日本文学史 I

廣瀬 良弘

(P.18) 参照

美術史概説

中島 亮一

(P.19) 参照

日本宗教文化史

脇本 平也

—夢の問題—

教科書、およびその他の関連の文献を読む。出欠をとり、文献読解の分担を課する。

〔教科書〕奥田 勲『明恵—遍歴と夢—』（東大出版会）、河合隼雄『明恵—夢を生きる』（法蔵館）

【職業】

産業概説

前田 幸一

日本の主要な諸産業を順次とりあげ、それらの産業の特性と歴史、現状と問題点を勉強していく。

〔参考書〕宮沢健一・竹内 宏編『日本産業教室』（有斐閣）

職業指導

山田 勇治

学校における進路指導とは、中学・高校の卒業時における就職や進学のみならず、個々の生徒の発達段階に応じて、その能力・適性等を伸ばし、生徒自ら望ましい進路を選択・決定させ、その後の職業生活において自己実現できるように指導し、援助する活動をいう。ところが現状では、学力などによる振り分けが横行し、本来あるべき進路指導には程遠い。

そこで、こういった学校進路指導の現状を文部省の実施した実態調査などによって明らかにしてみたい。

また、将来職業につくための準備教育、つまり職業教育についても講述する予定である。

〔教科書〕山田勇治著『会計教育論』（創成社）
¥1,300

〔参考書〕近藤大生・有本 章編著『職業と教育—職業指導論—』（福村出版）
¥1,500

商業実習

前田 幸一

商品取引における事務手続きについて勉強をしていく。

〔教科書・参考書〕講義の際指示する。

【商業】

職業指導

山田 勇治

(P.12) 参照

Ⅱ 学校図書館司書教諭講座

図書館学Ⅰ

山崎慶子

小学校、中学校、高等学校各々の学校の教育目標を達成するために学校図書館はなくてはならぬ設備である。

人格形成期にある児童生徒たちが多くの事を学び教養や趣味を豊かに育てるためには、教科書他にたくさんの資料が必要となる。児童生徒たちが生涯にわたって学ぶことの面白さを知る魅力ある学校図書館はどうあるべきか、そのためにはどのような研究や工夫が必要か。学校図書館を預かり教員の中心的存在として活躍する司書教諭の職務内容全般について、特に読書指導の意義及び資料利用の技能育成について考察を深めたい。

前期講義は「学校図書館通論」と「学校図書館の管理と運用」後期は「学校図書館の利用指導」「読書指導」

〔教科書〕図書館教育研究会『新編 学校図書館通論』（学芸図書）¥1,442

図書館学Ⅱ

源昌久

この講義においては、司書教諭の資格を修得する上で必要な諸科目の内、主として資料組織法（分類法・目録法）について論じる。前期には分類法、後期には目録法を講じ、各々の概念的フレーム・ワーク、基本的規則およびコンピュータとの関連等について言及する。開講時に詳しいシラバスを示す。

〔教科書〕日本図書館協会分類委員会改訂編集

『日本十進分類法 新訂8版』

（日本図書館協会）

日本図書館協会目録委員会編

『日本目録規則1987年版』

（日本図書館協会）

Ⅲ 社会教育主事講座

(1) 必修科目

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山輝吉

社会教育の本質について理解を図ることを目的とする。その内容としておもに下記の事項を取りあげる。

1. 社会教育の意義 — 理念, 歴史, 現状, 外国との比較, 社会教育と学校教育
2. 多様な学習の機会
3. 社会教育の法と行財政
4. 社会教育の施設
5. 学習者の理解
6. 社会教育の内容と方法
7. 社会教育と生涯教育・生涯学習

〔教科書〕 碓井・倉内編『新社会教育』

(学文社) ¥2,000

〔参考書〕 『社会教育ハンドブック』

(エイデル研究所)

社会教育計画

村山輝吉

社会教育主事として社会教育計画を立てるに際して必要な事項について基礎的な理解を図る。社会教育の対象の理解と組織化, 地域社会と社会教育, 社会教育調査とデータの活用, 社会教育事業計画, 学習情報の提供と学習相談, 社会教育と広報・広聴, 社会教育施設の経営, 社会教育の評価等が主な内容となる。

〔参考書〕 碓井正久・倉内史郎編著『新社会教育』

(学文社) ¥2,000

社会教育実習

村山輝吉

- 実習前の指導 — これまでの経験に学ぶ。
実習期間 — 個別の訪問指導。
実習後の指導 — 個別の体験の整理・検討とそこから生ずる課題の追求。

社会教育実習

上岡安彦

事前指導

社会教育分野の活動について講義

実習期間

社会教育施設訪問指導

事後指導

ジェルピ『生涯教育』によって自分の社会教育実習の体験を吟味し, 日本の教育を考えてみる。

〔教科書〕 永田良行著『成人教育への挑戦』

(全日本社会教育連合会) ¥773

ジェルピ著『生涯教育』(東京創元社)

¥1,500

(2) 選択必修科目

現代社会の諸問題と教育

高島秀樹

(P. 7) 参照

婦人問題と社会教育

矢口悦子

婦人問題の解決にむけて社会教育はこれまでどのような活動を展開してきたのか、今後何をなすべきかを明らかにしたい。特に、学習者の婦人問題への認識の深まりを軸として進められる婦人問題学習の事例を紹介する。それを通じて、皆さん自身の意識や状況についても考えていただきたいと思っている。

〔参考書〕必要に応じて提示する。

青少年問題研究

和田謙寿

(P. 8) 参照

青少年指導演習

和田謙寿

将来、青少年指導者を希望する者、つまり、社会教育主事や社会福祉主事、少年指導委員・補導教諭などの業務に従事しようとする人々には是非とも必要な講座である。本年は少年の非行問題を中心に授業を展開して行きたいと思う。特に教師になった場合は専攻をした学問は当然のこと、受持ち生徒の生活指導にも多大な比重で尽くさねばならぬので、非行対策の問題は重要な課題となる。

更に少年の問題に興味を持ち、研究しようとして心掛ける者は、青少年問題研究室の研修生として入室されるのも一つの方法であろう。

〔参考書〕和田謙寿著『少年補導の研究』訂正版
(大志堂印刷) ¥2,500

社会教育施設

村山輝吉

1. 社会教育施設とは何か
2. 社会教育施設にかかわる人々
3. 公民館
4. 図書館
5. 博物館
6. 社会体育施設
7. その他の社会教育施設・関連施設
8. 社会教育施設をめぐる動向と課題

〔参考書〕小林文人編『公民館・図書館・博物館』
(講座・現代社会教育 第6巻)
(亜紀書房)

図書館学 I

山崎慶子

(P. 13) 参照

博物館学 I

倉田芳郎・太田喜美子

(P. 17) 参照

博物館学 II

竹内順一

(P. 17) 参照

企業内教育・職業訓練

塩川正人

「企業」を知らずに「現代」を語れません。

この“生きもの”のように変貌する企業の真の姿を企業人教育20年の専門家が、事例と企業論で語ります。

本講座でつかんでほしいポイントは

★教職や社会教育活動を希望する諸君は

●「企業」を教える際、教科書にない話材づくりに。

●企業の実体、特性をつかみ、各種指導に活かす。

★会社就職を希望する諸君は

●自分に最適な企業を選ぶ研究の場とする。

本講座は、学生諸君との対話と討論を中心に展開します。

社会体育 I

古田潤子

野口三千三氏の理論と方法論を基にして、私なりの考え方や方法を加味したものです。

“人間のからだはどうあるべきか” “いいからだとはどういうのか” “それにはどうしたらよいか” ということ動きを通じて考え、行動できるからだづくりを行います。

立つ・寝る・歩く等あらゆる姿勢に於て、地球の表面と接触しているからだの最下部に全体重を任せきることの出来る能力と感覚を身につけます。

「社会体育 I・II」は必ず対で履修すること。

〔参考書〕野口三千三著『原初生命体としての人間』（三笠書房）¥980

社会体育 II

古田潤子

人間の動きと道具との関係。

動きに於ける人と人との対話。

動きと呼吸との関係。

動きのイメージ。

効率のいい力の使い方。

あらゆる行動に対して最良の適応が出来る基本姿勢…等について動きながらたしかめ、自己発見していきます。

視聴覚教育

赤堀正宜

(P. 17) 参照

教育原理

(P. 1) 参照

教育心理学

(教育方法論を含む)

(P. 2) 参照

青年心理学

(教育方法論を含む)

(P. 2・3) 参照

社会心理学

坪井健

社会心理学は、元来、社会学と心理学の境界領域にある現象を研究対象としてきた。従って、社会的アプローチと心理学的アプローチが並存しており、必ずしも統一されたものになっていない。

本講義は、個人の心理（行動）に影響を与える社会的諸条件に関心を持つ心理学的アプローチにも留意しつつ、現実の社会における人々の心理（行動）に関心を持ち、社会過程を重視する社会的アプローチを基調にして、社会生活をしている人々の社会心理諸現象の分析的な解明を目的としたい。

〔教科書〕穴田義孝編『こころ・行動そして社会』（人間の科学社）

教育社会学

高島秀樹

(P. 7) 参照

教育調査

鈴木規夫

(P. 7) 参照

IV 博物館学講座

(1) 必修科目

博物館学Ⅰ

倉田芳郎・太田喜美子

学芸員課程の必修科目であり、社会教育主事課程の選択必修科目でもある。「博物館実習Ⅲ（見学）」ならびに「実習Ⅳ（特講）」と有機的に関連をもたせるので、同年度に併せて受講していただきたい。また、後期は午後いっぱい使って見学を行うことになるので、時間割を組むうえで、各自研究してもらいたい。なるべく2～3年生の時に受けておくことが望ましい。4年生で受けると、学芸員資格を卒業時に取得するのは難しい。本講義は博物館の基本のみを講ずるので、2単位である。社教主事資格を取得希望の方は、「博物館学Ⅱ」（2単位）も履修することが必要である。受講方法については、誤りの無いようにしたいので、4月第1週の時間は必ず出席すること。

博物館学Ⅱ

竹内順一

博物館の運営について、以下の項目を中心に実際例をとりあげる。①展覧会実施マニュアル ②パブリシティ ③インスタレーション ④美術館エデュケーター ⑤レジストレーション ⑥学芸員の研究 ⑦学芸員の文章と翻訳 ⑧外国における特別展の実施。これらを通して、将来の博物館像を追求し、専門家の分業体制とともにレジストラの役割の重要性を考える。（しばしばレポート課題がある）

〔参考書〕講義時に指示する。

教育原理

(P. 1) 参照

社会教育の基礎（社会教育概論）

村山輝吉

(P. 14) 参照

視聴覚教育

赤堀正宜

学校教育や社会教育における視聴覚教材やコンピュータなどの教育メディアの利用と選択について考える。

また、学校教育番組や社会教育番組の利用は、教育方法・内容の革新とつながり、教育工学の一部となっている。視聴覚教育の原理・具体的な利用方法、その教育的効果を明らかにしていく。

〔参考書〕プリント使用

博物館実習Ⅰ（館務）

倉田芳郎・飯島武次
太田喜美子

博物館で10日間以上、学芸員の指導により実習を行なう。学芸員課程の必修科目である。この科目は学芸員課程の総仕上げでもあり、無条件に、誰でも履修できるわけではないので、年度第1週のこの科目の時間に必ず出席すること。欠席した場合は来年度履修することになる。

博物館実習Ⅱ（収集）

所 理喜夫・葉 貫 磨 哉
恵津森 智 行・太 田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。詳しくは、年度第1週の講義時間に話すので、必ず出席すること。実習の種類・時期は下記の予定である。このうちの、1つを履修すればよい。

1. 考古学発掘調査 7月中旬から8月中旬
2. 民俗調査 12月か2月
3. 文書・石仏調査 9月下旬
4. 石仏調査 10月上旬

博物館実習Ⅲ（見学）

倉田 芳郎・茂沢 方尚
太田 喜美子

学芸員課程の必修科目である。

都内および都周辺の博物館を見学する。博物館・学芸員の使命・役割を識るためには教室の講義だけでは不足である。そのため、現場で学芸員の方のご講義を承り、博物館運営上の諸問題について考えたい。実習の組分けを決定する関係上、今年度履修しようとする学生は、必ず4月第1週に出席すること。

考古発掘実習

千葉 基次

一般的に言えば、考古学は机上の実習の一方で、遺跡を調査するための技術も必要とする。十分な技術は、一回の実習で身に付くと思えないが、いつの場合も基本・基礎の変わることはない。発掘調査は、一人では実施できないので、学友とこの基礎を、汗と泥にまみれて野外実習する経験も良いでしょう。

(2) 選択必修科目

日本文化史Ⅰ

廣瀬 良弘

日本文化の流れを概観し、中世・近世にかけての文化について詳述する。その際には絵巻物等の分析をも試みたいと思う。

〔参考書〕参考史料は随時コピーして配布。

〔参考書〕奈良康明著『仏教史Ⅰーインド、東南アジアー』（山川出版社）
奈良康明著『釈尊との対話』（NHKブックス）

西洋文化史Ⅰ

椽川 一朗

西洋の都市（とくにドイツ都市）の歴史を、社会構成を中心に講述する。

〔参考書〕椽川著『ドイツの都市と農村』（吉川弘文館）¥2,900

インド仏教文化史

奈良 康明

いかなる社会であれ、その成員により獲得され、習熟され、伝達されていく諸観念や慣習、儀礼等がある。かかる生活様式の統合的な体系を文化と呼んでいい。仏教の研究においても、例えば涅槃を中核におく高次の教理の研究も仏教文化の一側面を明らかにするものであることは疑いない。そうした高いレベルの観念や行法を一方におきつつ、他方に、各種民間信仰的な諸観念や儀礼、生活慣習等、日常レベルの生活様式を考察し、且つ、両レベルのかかわりあいを見るところにはじめて仏教文化が全的なすがたでとらえられるのではないか。本講座はこうした視座からインドの社会、宗教とかかわらせつつ、仏教文化の歴史にアプローチをこころみる。

西洋文化史Ⅲ

三小田 敏雄

昨年度にひき続き、本年度はヘレニズムとローマ文化を取り上げる。一つの文明の成立からその成長、そして衰退まで克明に辿ることによって、文化・文明の特質を見出す目を養い、広く世界の諸文化を公平に理解する態度を育てたい。

〔教科書〕『世界の歴史2』ギリシアとローマ（中公文庫）

〔参考書〕ウォールバンク『ヘレニズム世界』（教文館）

仏教美術

中島亮一

仏教美術全般の問題を背景にして、仏教美術が展開して来た過程をスライドを見ながら、諸尊像が出現して来る背景、その表現の様式的な変化、さらにそこにこめられた精神的（宗教的）な意味などを考察する。

〔教科書〕佐和隆研著『仏教美術入門』（社会思想社・教養文庫576）¥680

現代美術

宮崎克己

19世紀、20世紀の西洋絵画について、様々な角度から考える。絵画の造形表現の問題（色彩、空間など）、表現内容の問題（象徴性、思想など）、社会的問題（展覧会の形式、ジャーナリズムとの関係など）等を、代表的作品を選んで具体的に論ずる。

受講者には適宜、美術館、展覧会の見学およびレポートの提出を要求する。

禅美術

海老根聡郎

日本の中世時代（鎌倉、南北朝、室町時代）の絵画の流れを、画家を中心としてのべる。とりあげる画家は、黙庵、良全、周文、雪舟などである。（毎回スライドを使用する。）

美術史概説

中島亮一

美術はその時代の民族・国家・政治・文化などの現象、心象を目に訴えるものとして、造形的に表現されたものである。したがって美術史を学ぶことは、それらのことを具象的に理解することに他ならない。そこで今年度は日本の美術をとおして日本の文化・歴史は勿論、東洋諸国からの影響も併せて考えてみたい。

〔教科書〕吉田光邦著『日本美の探究』（日本放送出版協会・NHKブックス69）¥700

西域美術史

相馬隆

東西文化交流史、東西美術交渉史の視点より、ターリム盆地周辺地区の所謂オアシス国家群と其の美術はいうまでもなく、葱嶺の西に横たわる壮大なる絹の道に就いて、道程、宿駅等隊商路の実相を復元究明し、併せて、東西にまたがる文物の有機的連関関係に関し、講述を進めるものである。（スライド使用）

考古学概説Ⅰ（日本）

大三輪龍彦

日本考古学を中心に、考古学的思考とはどのようなものかを考え、学問の目的、意義について講義する。また後半では、歴史時代特に中世考古学における事例を紹介しながら歴史学との関係についても触れてみたい。

考古学概説Ⅱ（外国）

飯島武次

東洋考古学の概説を講義する。

〔参考書〕飯島武次『夏殷文化の考古学研究』

1985年（山川出版社）¥7,000

飯島武次『中国新石器文化研究』

1991年（山川出版社）¥8,000

考古学特講Ⅱ

高浜秀

ハンガリーから中国の北方オールドス地方に至るユーラシア北方草原地帯では、紀元前1000年紀に青銅器時代から初期鉄器時代へ移行すると共に、紀元前8～7世紀頃、スキタイ系騎馬遊牧民文化、あるいは初期遊牧民文化と総称される一連の文化が興った。講義では、これらの文化を概観する。

考古学特講Ⅳ

飯島武次

中国考古学研究。

- 〔参考書〕 飯島武次『夏殷文化の考古学研究』
1985年（山川出版社）¥7,000
飯島武次『中国新石器文化研究』
1991年（山川出版社）¥8,000

- 〔参考書〕 佐々木宏幹著『聖と呪力——日本宗教
の人類学序説——』（青弓社）
¥2,060

日本民俗学

谷 口 貢

民俗学は世代を越えて受け継がれてきたさまざまな生活慣習を通して、日本人の生活文化を明らかにしようとする学問である。授業では、各地に伝承されている具体的な民俗事例を紹介しながら、通過儀礼（人生儀礼）、年中行事、祭り、信仰、家族・親族、社会組織などについての理解を深め、民俗学の基礎的視点を学んでいきたい。

〔参考書〕 必要に応じて紹介する。

仏教民俗学

和 田 謙 寿

集会や通夜・法事などに臨んだ際、必ず仏事などに関する質問を受けることがある。葬送習俗や靈魂に関する事柄、法名のつけ方や焼香の仕方、墓の建て方や年忌供養のしきたり、時には寺院の成立とその発展過程、野ぼとけの由来や伝説など、その質問の内容も色々である。このような時、相手に納得のつくような説明が出来たらさぞかし喜んでもらえる事であろう。このような時の心構えとして是非とも仏教民俗学の知識を身につけて置くことにしよう。住職をはじめ、郷土史や文化財の研究に従事しようとする者にとっては必須の学問であると言える。

〔教科書〕 和田謙寿著『仏教の地域発展』（訂正版）（仏教民俗研究会発行）¥3,700

〔参考書〕 和田謙寿著『仏教葬送習俗の研究』（仏教民俗研究会発行）¥2,300

宗教人類学

佐々木 宏 幹

アニミズム、アニマティズム、シャーマニズム、妖術、邪術、死霊・祖霊崇拝など宗教的諸形態をめぐる理論や学説を紹介するとともに、これら諸形態が、日本を含むアジア各地の現代の文化・社会のなかでどのような位置と役割をもっているかについて考察する。スライドを用い具体的に進める。

V 社会福祉主事 講座 社会福祉士基礎

社会福祉原論

伊藤 秀一

本講では、受講生がこれから社会福祉を学ぶ者であることに留意しつつ、まず、社会福祉の概念を整理することから始めたい。

次いで、社会福祉の生成過程、制度的なしくみ、各分野の現状に論及する。

さらに、社会福祉の今日的課題を講述し、一応の体系的な把握に努めたい。

〔教科書〕 仲村優一著『社会福祉概論』
(誠信書房) ¥1,500

社会福祉原論

永田 幹夫

今日、国民生活の変容のなかで、社会福祉の原理や機能も変化の徴候が顕著である。本講は社会福祉の発展経過、対象、機能および方法技術を概説しつつ、社会福祉の固有性を明確にし、今日すすみつつある変化の意味するものを論証し、社会福祉の意義を理解するようにしたい。

〔教科書〕 社会福祉士養成講座①『社会福祉原論』
(中央法規出版) ¥2,500

老人福祉論

東 條 光 雅

人口の急速な高齢化が進む中、家族形態・機能の核家族化と相まって、老後問題に対する社会的関心が非常に高まっている。老後問題は、今後一層の深刻化が予想されるが、これに対処すべき老人福祉施策はまだ不十分な状況である。わが国においては、約30年後に超高齢化社会の到来が予測されるわけであるが、現状改善という視点からだけでなく、長期的な展望と広い視座から老人福祉対策の在り方を考えてゆくことが必要である。

本講では、老人福祉施策の歴史的変遷はもとより、現状認識を深め、今後の老人福祉サービスを考える上で重要な老人を取り巻く社会的諸状況の

変化や、関連する制度・政策についても理解が得られるよう講じてゆきたい。

〔教科書〕 冷水 豊・浅野 仁・宮崎昭夫編『老人福祉』第2版(海声社) ¥1,640

〔参考書〕 三浦文夫編『図説 高齢者白書1990』
(全社協) ¥2,700

厚生省大臣官房老人保健福祉部老人福祉課監修『老人福祉関係法令通知集
1990年度版』(老人福祉開発センター)
¥3,500

障害者福祉論

原 田 信 一

わが国の障害者福祉の発展過程をその淵源に溯りつつ体系的に講ずる。内容面では、人権の認識を基盤においた正当性のある障害者観、そして今後、激動化によって惹起が予測される障害者問題発生メカニズムを究明すると同時に、また、その対応方法、さらに政策、処遇のあり方などに加え、欧米先進諸国における障害者福祉との対比から、わが国の障害者福祉に見直しを必要とする新たな課題構築点などに重点をおき講じたい。

〔教科書〕 星野・藤村・原田・井田編『障害福祉論入門』〔改訂版〕(有斐閣)

〔参考書〕 (1)原田・春見・佐藤著『新しい社会福祉の理論』(高文堂)

(2)原田・吉田編『心身障害児(者)の心理・教育・福祉』(文化書房博文社)

児童福祉論

(前期) 安 梅 勅 江
(後期) 高 橋 重 宏

「児童福祉」が社会福祉の制度として成立している以上、それはただ単に子どもの幸せを願うというのではなく、子どもが権利主体であることを前提として、その権利を保障する社会の責任を明確に打ち出すものでなければならない。なぜなら、制度としての児童福祉は、社会が子どもを保護・養育する責任を分担することによって展開してきたからである。

本講義では、主として児童福祉法と子どもの権

利条約の考察を通して、児童福祉の基本理念と児童福祉制度の概要を明らかにする。

〔教科書〕開講時に指示する。

〔参考書〕開講時に指示する。

社会保障論

近藤 功

社会保障は、憲法第25条に規定する国民の生存権の保障のための重要な政策体系であり、国政において、優れて高い地位を与えられている。

この社会保障について、欧米諸国を含め、歴史的発展過程、体系、財政、国際比較等を検討し、その問題点を明らかにする。

特に、わが国の社会保障について、その主要な部門としての所得保障（年金保険、公的扶助、児童手当等）、医療保障（健康保険等）その他について、制度の現状及び課題を講じる。

〔参考書〕開講時に指示する。

公的扶助論

伊藤 秀一

本講の中心的なテーマは、わが国の生活保護制度をどのように位置づけ、どのように方向づけるかである。

講義内容としては、上述した問題意識のもとに、以下の項目について講じていく予定である。

1. 現代社会と公的扶助
2. 低所得問題対策の概要
3. 生活保護制度のしくみ
4. 生活保護の最近の動向
5. 生活保護及び関連分野の組織・専門職及びその連携のあり方

なお、テキスト等については開講時に指示する。

地域福祉論

永田 幹夫

今日における急速な社会福祉改革の方向を示すものとして1970年代以降に登場したのが現代的意味での地域福祉論である。地域福祉の概念およびその支柱たる在宅福祉サービス提供システムの開発とその方法に関する基礎理論を実践動向に即して論究し、地域福祉の全容把握をはかりたい。

〔教科書・参考書〕永田幹夫著『地域福祉論』

（全国社会福祉協議会）

¥2,000

心理学（福祉）

井上 孝代

欧米諸国において、社会福祉実践の方法論として心理学が広汎に取り入れられているという現況に基づき、社会福祉にかかわる基礎科学として心理学の分野全般を講義する。

重点的な内容としては、①人間の心理学的理解における心理機能と基礎的概念、②人間の成長発達の様相と障害、③人間理解の学説および諸理論の実際、④心理学的援助の技術と実践など、社会福祉士の養成における指定科目である「心理学」で学ぶべき内容を整理する。

教科書の指定は特に行わないが、必要に応じて資料、参考プリントなどを用意する。

社会学（福祉）

星野 貞一郎

社会福祉関係の専門職業を志す学生のための社会学講義を旨とした。そこで社会学の基礎的概念を応用して現代社会における社会福祉現象を社会的に理解するための視点を涵養する。そのために、現代社会の特徴を取上げるとともに、家族福祉、組織と官僚制、地域福祉等の問題に社会的にアプローチする。

〔教科書〕教場で指示する。

法学（福祉）

鶏 徳 啓 登

本講義は、教科書『社会福祉のための法入門』を使用して、憲法25条を具体化する社会福祉・社会保障に関する法を検討・整理・体系化することを目的とする。

その他、諸般のことがらについては、講義初日に説明する。

〔教科書〕小林弘人編著『社会福祉のための法入門』（川島書店）¥2,000

〔参考書〕小川政亮著『社会事業法制』（第2版）（ミネルヴァ書房）¥2,500

リハビリテーション論

原 田 信 一

リハビリテーション領域のなかで、学問的にいちじるしく遅れをみせているのが社会リハビリテーションであるといわれている。この分野は、内蔵する問題が広汎・多岐に亘っているばかりか、いずれも現実的で、しかも難解な社会福祉問題を抱えていることが、いちじるしい遅滞をもたらす原因になっているといわれる。そこで、本講義はとくに、社会リハビリテーションの基本問題をふまえ、社会・文化的環境を考察し、政策と実践的方法論、それらを支える隣接科学面ならびにリハビリテーションの国際的展望等について概説したい。
〔教科書〕講義ノートによる。
〔参考書〕随時指示する。

社会福祉計画論

和 田 敏 明

地域福祉を基調とする社会福祉の転換が、地方分権化、社会福祉供給システムの多様化、責任主体の多元化を伴い進行している。こうした状況を踏まえ、社会福祉ニーズを社会福祉の組織運営に的確に反映し、福祉サービスを系統化・総合化したり、広く市民の社会福祉への参加を促すことをねらいに、社会福祉の計画化が要請されている。その内容は、処遇計画・社会資源の調達計画・社会計画のなかの社会福祉計画・行政計画・活動・行動計画等の社会福祉計画である。平成5年度から都道府県および市町村行政は「老人保健福祉計画」の策定が義務づけられた。講義では国・都道府県・市町村・小地域の各段階の計画や今日の焦点である「地域福祉計画」「老人保健福祉計画」を中心に、その理論と方法及び具体的事例についての検討を行いたい。

社会福祉運営論

永 田 幹 夫

社会福祉サービスの普遍化に伴ってその規模は急速に拡大・複雑化し、社会福祉の運営管理を包括的にとらえるソーシャル・アドミニストレーションの研究が注目され、重視されてきている。本講ではその概念成立に至る歴史的経過、手法技術、現代的課題及びこれらに関連して社会福祉政策、行政を含む今日の社会福祉実践上の問題点に迫っ

てみたいと思う。
〔教科書〕改めて指示したい。

家族福祉論

田 村 健 二

現代の家族生活の状況を、社会との関係、および家族内の関係から明らかにし、そこでの問題と課題を考察してゆく。次いで、こうした問題と課題をもつ家族の機能をいかに支援してゆくか、主に現在の家族福祉にかかわる制度とサービスの側面、ならびに今後に要望される福祉機能の側面について、解明してゆく。個別化し孤独化しつつある現代にあって、全国民にわたる健全な在宅福祉は、家族生活に基盤がある。家族福祉が重視されるゆえんである。
〔教科書〕田村健二『家族』（金子書房）¥2,000

医療福祉論

春 見 静 子

現代の社会福祉は多くの領域で医療との関係をますます緊密なものとし、両者を分離することはできない。児童、障害、老人福祉施設の職員が処遇を行ううえで、医療スタッフとどのように協力していくか、また、病院、保健所、リハビリテーション施設等のソーシャルワーカーが社会福祉をいかに実践しているかを事例を踏まえて検証する。
教科書・参考書は授業時に指示する。

婦人福祉論

林 千 代

私は、婦人問題の視点から婦人福祉論を組立てているが、それは、性差別を根底に婦人の生存や生活が不安定化する局面、その解決へのプロセス、施策が主な内容になる。その状況として、主に母子家庭になった時（父子家庭とも関連）、売買春の問題（性とは何か、婦人保護事業について）、女と老い（老後問題の中で）が考えられる。どの場合も、女子労働との関連が深いので、女子労働をめぐるさまざまな問題を主軸において上記三者に焦点をあわせ講義する。
〔教科書〕講義ノートによる。
〔参考書〕随時紹介。

保健福祉論

小 林 臻

戦後40年にわたって構築されてきた社会福祉の制度・施策と保健・医療の制度・諸事業等を今日的課題に沿って見直すとともに、本格的な高齢化社会の到来をみすえて、これら両者の一層の連携をはかり統合化をめざすためのてだてについて明らかにしてみたい。

〔教科書〕講義開始時に指示する。

社会福祉発達史

林 千 代

いつの時代にも、人々の生活の不安は自然の変化と社会の変動によって生み出されてきたといえる。社会の変動期には、常に多くの問題が生じ人々は生活困難におちいった。社会事業は資本主義社会の成立とともに生成した。主に、英国、日本を中心に（部分的に米国にもふれる）社会福祉へ至る歩みを講述する。対象の存在と問題解決の方法、方法の意図や施策の背景をなす社会福祉の思想等が内容となる。一定の歴史的産物である社会福祉、その本質は何か、その現状は等々を考えるためにこそ、歴史を学ぶ意義がある。

〔教科書〕今岡 他編『社会福祉事業発達史』

（ミネルヴァ書房）

〔参考書〕随時紹介。

海外社会福祉論

星 野 貞一郎

社会福祉を理解するためには、世界各国がそれぞれの国情に応じて発生させてきた社会福祉のすぐれた制度や活動を学ぶことが大切であることをふまえ、今年度は、とくにスウェーデンの社会福祉を中心にして講義することにした。

〔教科書〕教場で指示する。

付 録

研 究 所 案 内

国 家 試 験 に つ い て

研 究 所 案 内

法 学 研 究 所

本学には大学直属の研究機関として幾つかの研究
所があるが、法学部学生諸君に関係するものとして
「法学研究所」を紹介しておきたい。

昭和47年4月に設立された法学研究所は、現在、
(1)研究部、(2)研修部、(3)法律相談部の三部から構成
されている。研修部は、国家試験等の特別受験指導
を目的とするが、(イ)司法試験コースと(ロ)公務員
試験コースとに分かれている。両コースとも、本学
専任教員に加えて、受験指導に経験豊かな外来講師
ならびに新進気鋭の法曹実務家が指導に当っており、
原則として月曜日から金曜日にかけて継続的に特別
の指導・講義を行っている。また、必要に応じて模
擬試験をも行っている。但し公務員コースは現在、
その在り方について組織的に検討中のため募集を停
止している。

研修部会員になるためには、所定の手続をふまな
ければならない。また、特別研究室室員を希望する
者は所定の入室試験に合格しなければならない。受
験資格を有するのは、本学学生および卒業生である。
入室試験は、基礎的事項について行う。(ただし、
試験の日時、試験科目等については、年度により変
更があるので、掲示等に注意すること。)

国家試験等の受験を志望する学生は、法学研究所
の研修部を利用することが合格への近道である。詳
細については、法学研究所の事務局(第5研究館
102号室)に問い合わせいただきたい。

マス・コミュニケーション研究所

1. 本研究所の主旨

本研究所の学生指導の主旨は現代の情報・社会を
的確に把握し、将来、新聞・テレビ・出版・広告な
どのマス・コミ界をめざす諸君を育成することであ
る。

同時に、本研究所での学習は、商事・貿易などの
一般優良企業や公務員、教員などを希望する諸君に
も大いに役立つと思われる。本研究所で学んだ多く
の先輩はすでに読売新聞や産経新聞、朝日新聞、福
島民報、サンケイスポーツ、東映、電通、J. W.
トンプソンをはじめ高校教員・大東京火災・日本火
災・野村証券・本田技研・フジタ工業・カシオ・サ
ントリー・仙台放送・岩手放送・ぎょうせい・富士
通などあらゆる分野の第一線で活躍している。

本研究所の授業・各コースは、学部の授業(単位)
とは全く別個なもので自主的な学習意思があれば原
則としてだれでも自由に学ぶことができる学習の場
である。

駒沢での4年間、あるいは2年間を充実したもの
にするために、また自分の適性を広げようとする多

くの諸君のできるだけ早い来訪を待っている。

尚、入所試験は4月下旬～5月上旬に、論文及び
面接によって行っている。

くわしくは、本研究所事務局(第5研究館102号
室)まで。

2. 開講科目

(下記の講座の中から1年間に2～4科目を履修す
る。また、授業は原則として5時限・6時限に行う
ので学部の授業とは重ならないように配慮してある。)

マス・コミュニケーション論・国際比較マス・コ
ミュニケーション論・文章表現論・情報システム概
論・電子計算機実習・現代広告論・テレビ報道論・
比較テレビ論・国際報道論・時事英語など、またそ
のほか、時に応じて、特別講義・講演などを開講し
ている(いずれも学内外教員、もしくは現役の新聞
論説委員、記者、等によって担当される)。開講
科目、内容については本研究所事務局(第5研究館
102号室)まで。

国家試験について

〔1〕司法試験について（司法試験法）

昭和24年5月31日法律第104号

改正 昭27, 昭28, 昭33, 昭52, 昭56, 昭58

1. (目的) 司法試験は、裁判官、検察官又は弁護士となろうとする者に必要な学識及びその応用能力を有するかどうかを判定することを目的とする国家試験である。
2. (司法試験の種類) 司法試験は、第1次試験及び第2次試験に分けられる。
3. (第1次試験及びその免除について) 第1次試験は、第2次試験を受けるのに相当な教養と一般学力を有するかどうかを判定することをその目的として行われるものであるから、本学において、学士の称号を得るために必要な一般教養科目（一般教養科目の人文・社会・自然の各分野にわたり、合計36単位以上及び第1外国語8単位、第2外国語4単位、計12単位以上）の履修を終った者については、免除される。
4. (第2次試験) 第2次試験は、第1次試験の合格者又は免除された者について、裁判官、検察官又は弁護士になろうとする者に必要な学識及びその応用力を有するかどうかを判定することを目的として行われるもので、短答式及び論文式による筆記並びに口述の方法によって、次の通り実施される。
 - (1) 試験科目等
 - a. 短答式による試験は、憲法・民法・刑法の3科目について行なわれる。
 - b. 論文式による試験は、短答式による試験に合格した者について、次の7科目について行なわれる。
 - (7) 憲法、民法、商法、刑法、民事訴訟法又は刑事訴訟法の5科目。
 - (4) 民事訴訟法、刑事訴訟法、行政法、破産法、労働法、国際公法、国際私法、刑事政策のうち選択1科目。なお、(7)において民事訴訟法及び刑事訴訟法を選択しなかった場合に限り、民事訴訟法及び刑事訴訟法は選択することができる。
 - (9) 政治学、経済原論、財政学、会計学、心理学、経済政策、社会政策のうち選択1科目。
 - c. 口述試験は、筆記試験に合格した者につき、その者の論文式試験において受験した7科目について行なわれる。

(2) 第2次試験は、いずれも知識を有するかどうかの判定に偏することなく、その理解力、推理力等についても判定される。

(3) 筆記試験（短答式及び論文式試験）に合格した者については、その申請により、次回の筆記試験が免除される。

5. (司法試験の施行) 司法試験は、毎年1回以上実施され、その期日及び場所はあらかじめ官報をもって公告される。

6. (合格者の決定方法等) 司法試験の合格者は、司法試験考査委員の合議によって定められ、合格者には、合格証書が授与される。

7. (受験手数料) 第1次試験 2,800円、第2次試験 6,400円

なお、受付期間、申込方法、採用人員等については、東京都千代田区霞ヶ関1の1法務省司法試験管理委員会に照会すること。以上は、司法試験要項から抜粋したものであるが、今後改正されることもあるので、受験志望者は、官報その他をよく注意してみるように心掛けること。

〔2〕国家公務員採用I種試験について

1. 国家公務員採用I種試験とは、従来の国家公務員採用上級試験の甲種の名称が変更されたもので、各省庁の上級係員又は試験研究機関の研究員として事務、技術又は研究の業務に従事する。

2. 受験資格

学歴・性別などによる制限はなく、試験が行われる年度の4月1日における年齢が21歳以上33歳未満の者。

3. 試験方法

第1次試験

a. 教養試験（多肢選択式）－公務員として必要な一般的知識および知能についての筆記試験。

b. 専門試験（多肢選択式）－下記の各区分に応じて必要な専門的知識・技術などの能力についての筆記試験。

第2次試験

a. 専門試験（記述式）－第1次試験と同じ。

b. 総合試験（記述式）－総合的な判断力、思考力などの能力についての筆記試験。

c. 人物試験－人柄などについての個別面接。

4. 試験期間

第1次試験7月上旬、第2次試験が8月上旬、最終合格者の発表は10月上旬。

なお、試験の詳細については人事院任用局試験

課(3581-5311)または人事院の各地方事務局に照会するように。

〈区分〉

行政、法律、経済、心理、教育、社会、数学、物理、地質、情報工学、電気、電子、機械、土木、建築、化学、金属、資源工学、農業、薬学、農業経済、農業化学、農業工学、畜産、林学、水産、砂防、造園。

〔3〕国家公務員採用Ⅱ種試験について

1. 国家公務員採用Ⅱ種試験とは、上級乙種試験と中級試験を統合して「将来の行政の第一線を担い得るような有能な人材を確保するため、大学卒業程度の能力を有する者の採用を充実していくことを目的」とした試験で、各省庁の中級係員として事務・技術又は研究業務などに従事する。

2. 受験資格

学歴・性別などによる制限はなく、試験が行われる年度の4月1日における年齢が21歳以上29歳未満の者。

3. 試験方法

第1次試験

- a. 教養試験(多肢選択式) - 公務員として必要な一般的知識および知能についての筆記試験。
- b. 専門試験(多肢選択式) - 下記の区分に応じて必要な専門的知識・技術などの能力についての筆記試験。
- c. 専門試験(記述式) - bと同じ。

第2次試験

- a. 人物試験 - 人柄などについての個別面接。

4. 試験期間

第1次試験7月上旬、第2次試験が9月上旬、最終合格者の発表は11月上旬。

なお、試験の詳細については人事院任用局試験課(3581-5311)または人事院の各地方事務局に照会するように。

〈区分〉

行政、図書館学、物理、電気・電子、機械、土木、建築、化学、資源工学、農学、農業土木、林学。

〔4〕裁判所職員(裁判所事務官)採用Ⅰ種試験について

1. 裁判所の機構は大別すると裁判部門と司法行政部門に分けられますが、各裁判所の司法行政部門において、裁判部門が行う裁判権の行使に必要な人的・物的機構を供給し、事務の合理的・効率的な運用を図る等のいわばハウスキーピング的な事務を主として行う国家公務員を裁判所事務官とい

い、これらの人を採用する試験が、裁判所事務官採用試験である。

2. 受験資格

学歴・性別などによる制限はなく、受験する年度の4月1日現在、21歳から26歳までの者。

3. 試験方法

第1次試験

- a. 教養試験(択一式) - 一般的知識及び能力についての筆記試験
- b. 専門試験A(択一式) - 憲法・民法・刑法の専門的知識及び能力についての筆記試験。
- c. 専門試験B(択一式) - 憲法・民法・刑法及び民事訴訟法又は刑事訴訟法の専門的知識及び能力についての筆記試験。

第2次試験

- a. 専門試験(論文式) - 一次試験と同じ4科目の専門的知識および理論の応用能力についての筆記試験。
- b. 教養試験(論文式) - 課題に対する識見、判断力及び理解力についての筆記試験。
- c. 口述試験 - 主として人物及び専門的素養について面接による試験

4. 試験期間

第1次試験7月中旬、第2次試験は8月中旬、口述試験は8月下旬から9月中旬にかけ指定する日に行われる。最終合格者の発表は10月上旬。

なお、試験の詳細については、最高裁判所事務総局人事局任用課試験係(264-8111)へ照会するように。

〔5〕裁判所職員(裁判所事務官)採用Ⅱ種試験について

1. Ⅰ種試験とほぼ同じ方法で実施されるが、問題数、出題分野などはⅠ種試験に比べて少なくなる。

2. 受験資格

Ⅰ種試験と同じ。

3. 試験方法

第1次試験

- a. 教養試験(択一式) - Ⅰ種試験と同じ。
- b. 専門試験A(択一式) - Ⅰ種試験と同じ。

第2次試験

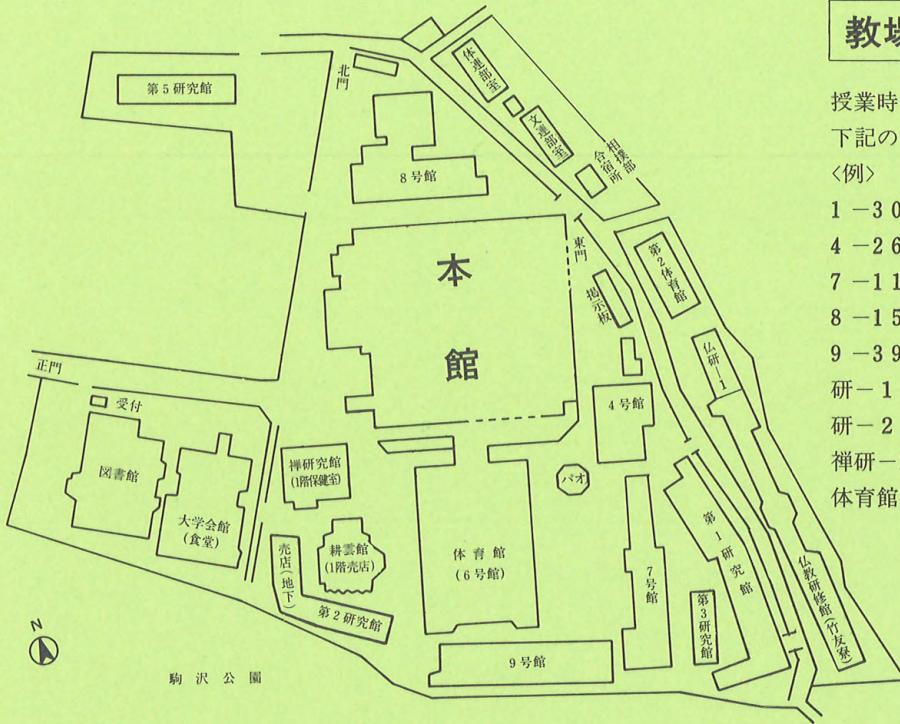
- a. 教養試験(論文式) - Ⅰ種試験と同じ。
- b. 専門試験(論文式) - 憲法についての専門的知識および理論の応用能力についての筆記試験。
- c. 口述試験 - Ⅰ種試験と同じ。

4. 試験期間

試験日程はⅠ種と同じ。合格発表は10月中旬。

なお、試験の詳細については、最高裁判所事務総局人事局任用課試験係(3264-8111)へ照会するように。

駒 沢 大 学 の 構 内 図



教場案内

授業時間表に載っている教場は下記のように見て下さい。

<例>

- 1-301 本館(1号館)3階
- 4-266 4号館2階
- 7-110 7号館1階
- 8-150 8号館1階
- 9-390 9号館3階
- 研-1 第2研究館1階
- 研-2 第2研究館1階
- 禅研-201 禅研究館2階
- 体育館 体育館2階

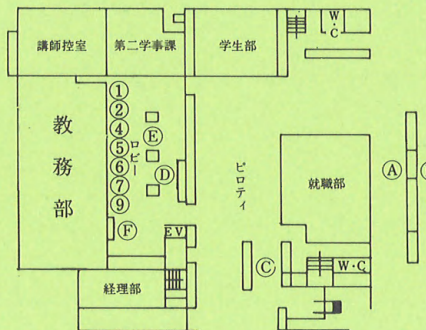
(ただし選択種目により第2体育館になる)

本館 1F

各事務室・掲示板配置図

教務部窓口

- ①教職課程
学校図書館司書教諭講座
- ②博物館学講座
社会福祉主事講座
社会教育主事講座
- ④証明書(教務関係)申込受付・発行
<健康診断書および在学証明書は学生部>
※ 諸証明書申込用紙は経理部前にあります。
- ⑤諸届願
(休学・復学・退学・死亡
改氏名・本籍地変更・保証人変更・保証人住所変更・聴講)
- ⑥大学院関係・留学生関係
卒業論文(仏教学部・文学部)
- ⑦時間割変更・休講・外国語指定届
卒業証書・転部転科
- ⑨履修・試験・成績・学業相談
学部演習(仏教学部・経済学部
法学部・経営学部)



掲 示

- Ⓐ第1掲示板(表面)
公示・告示・学生部・就職部関係連絡事項, 教務部関係(試験・教職・研究室等)連絡事項, その他
- Ⓑ第2掲示板(裏面)ー臨時掲示板ー
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(8月)
- Ⓒ第3掲示板ー臨時掲示板ー
教務部関係連絡事項(12月~3月)
就職部関係連絡事項(4月~11月)
- Ⓓ休講掲示板・ビデオ教場使用一覧(当日)
- Ⓔ授業時間表カウンター・教場変更掲示板
- Ⓕ大学院・留学生関係掲示板

